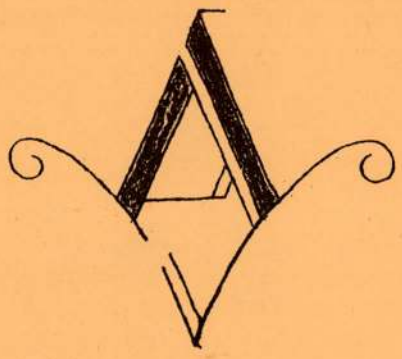
建築と社會

第八輯　第九号



日本建築協會

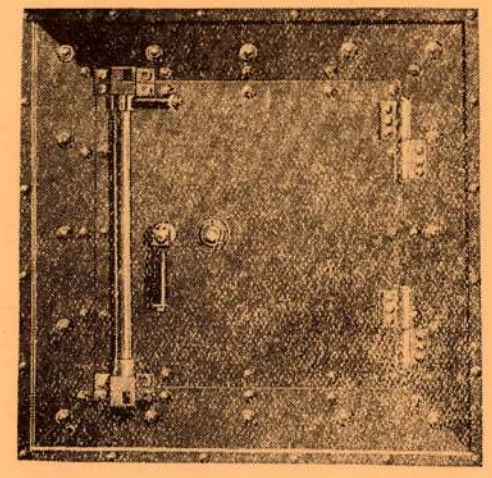
大正十四年九月一日

大正十四年九月一日印刷　大正十四年九月一日發行　（第八輯第九號）

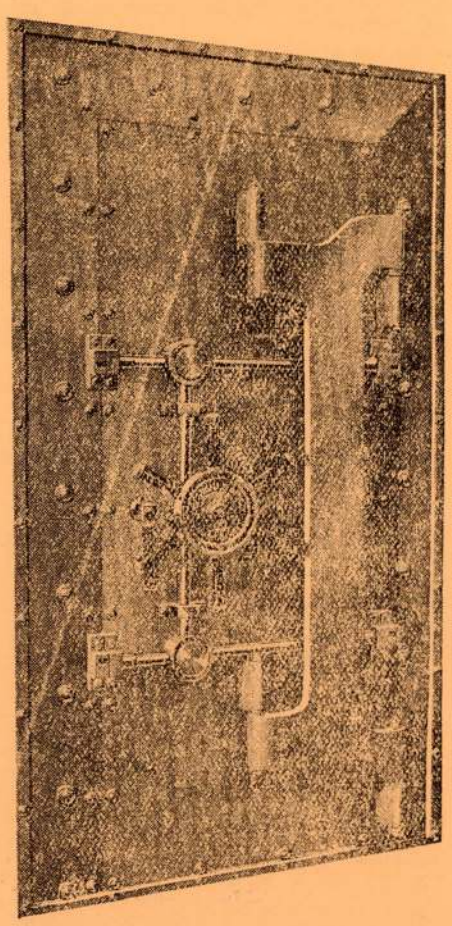
大谷製
舶來形金庫扉



大谷金庫店技師
獨逸工學士
アルハレツトシユハルト



正金銀行大阪支店納



製作品目

一金庫
一金庫室扉
一保管金庫
一御眞影奉安庫（デポジツトボツクス）

東京市京橋區岡崎町二丁目二十五番地
大谷金庫店
電話銀座三一二四番

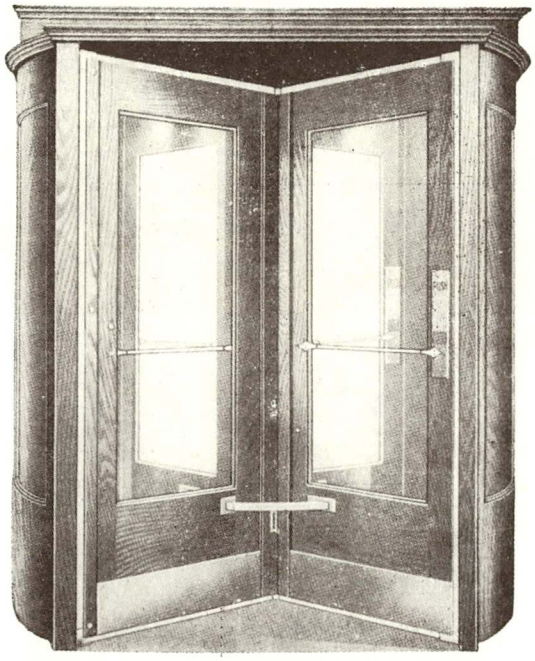
大阪市淀屋橋筋道修町四丁目
大谷金庫店
電話本局三九三四番

京都市松原通東洞院東入
大谷金庫店
電話下五三二番

神戸市楠町六丁目
大谷金庫店
電話本局四八〇七番

回轉扉

米國ヴアンカンネル
レボルビングドアー
コムパニー製造



特徴

1. 煖房燃料ノ節約
2. 塵芥ノ防禦
3. 雜音ノ遮斷
4. 出入ノ整然
5. 換氣ノ良好
6. 耐久ノ堅牢
7. 體裁優美

其他一般建築ニ關スル

確實 次ノ附帶工事 嶄新

▲昇降機 A. B. See式 客及荷用昇降機、其他リフト竝コンベーヤー一般

▲煖房換氣 自動ガススチームラヂエーター、煖房裝置一般、キヤリアー式溫濕度調整裝置

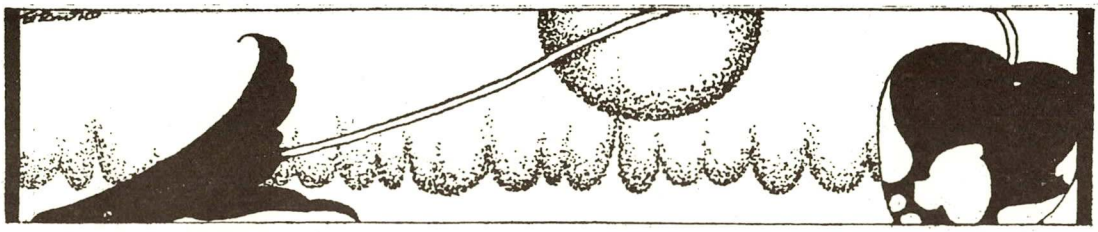
▲氣動輸送 ラムソン式高壓及眞空氣動輸裝置、テムソン式ウアイアリングセージシステム

▲電氣工事 ガーランドチユーブ、ブライアントスキツチ、其他電氣配線工事一般

▲金庫扉 米國最古ノ歷史ヲ有セル、ハリングホールマルビン金庫及金庫扉

内田商事株式會社 濱町三丁目北四ノ〇 大阪市

紐育 東京 神戸



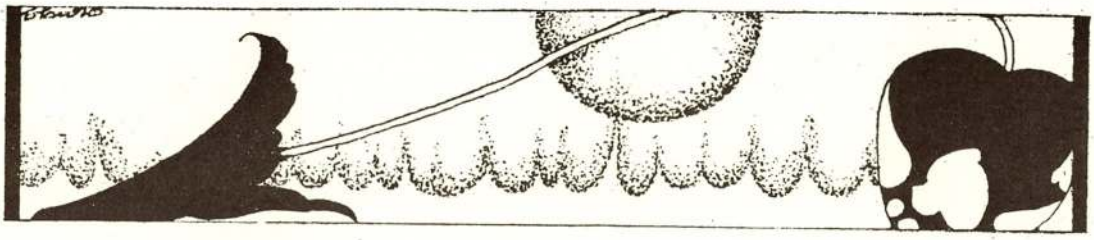
A
T・F

—一— 大阪市立市民病院玄關口　—二— 同院外觀及內庭
—三— 同院患者控室　—四— 同院一階平面圖
—五— 同院二階平面圖　—六— 同院三階平面圖
—七— 同院地階平面圖　—八— 同院建物配置圖

■「學」「術」？……（一）
■秋しげみ……（二）

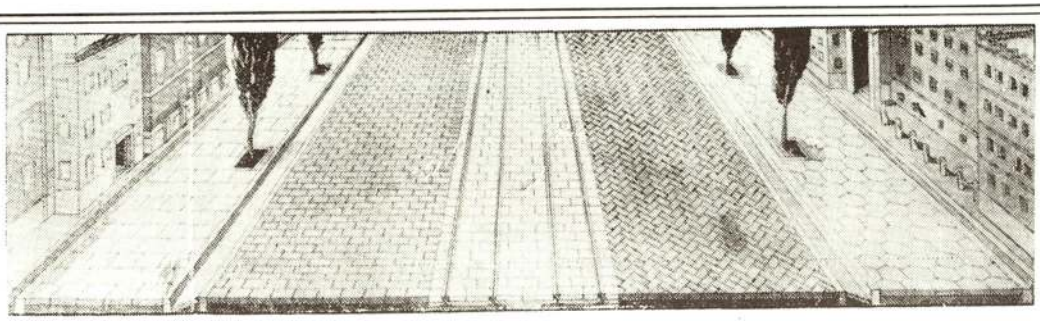
——×——×——

▲建築物と國民教育の交涉……杉田稔…（三）
▲コロ・ハウス……大屋靈城…（一〇）
▲誤解されたる都市計畫と理解されざる其の法制……田中清志…（一六）
▲英國に於ける都市經營……S・K…（一九）
▲市營苗圃及街路樹の定植……方米治郎…（二五）



八輯　第九號　目次

▲アルフハルトに就いて……細木松之介…（三〇）
▲建築と汚物處理の關係……澤部實之介…（三五）
▲「鶴林寺」の建築……菅田登美雄…（四一）
■詩のある建築……北山垣廢園…（五三）
■農民住宅の考察……淡路素元…（五九）
創作「親子」兄弟……八畑幸二…（六七）
■俳壇……溪舟選…（七七）
■をりをり……溪舟…（七八）
■世相の動き……（八〇）
■建築材料値段……（八二）
■日本建築協會々報……



鋪裝界の權威

ロックアスファルトブロック

「ロック、アスファルト」（原名ピチューミナス、ライムストン）ハ鋪裝材トシテ世界的ニ「オーソライズ」サレヲル事ヲ記憶セラレヨ。

大自然ノ偉力ニヨリ有史以前石灰石（ライムストーン）ニ瀝青（ピチユーミン）ノ神秘的ニ浸透セラレタルモノナリ。

從テ普通「アスファルト」ニ人工的努力ヲ施スル模倣絶對不可能ナリ。

歐米先進國施工法ハ「ブロック」及「タンピング」ノ二種ノ內主トシテ「タンピング」施工ナレドモ本邦ニ於テハ風土ノ關係上「ブロック」施工ヲ適當トス

「ロック、アスファルトブロック」製造法ハ原鑛ヲ細粉シ適切ノ溫度ニ加熱シタルモノニシテ高壓ヲ加ヘ一定ノ型ニ造リタルモノナリ

「ロック、アスファルトブロック」實地施工法ハ「コンクリート」三寸乃至五寸ヲ基礎トシ「モルタール」ニテ無目地ニ競合スルモノナリ

「ロック、アスファルトブロック」ニテ各所施工シタル道路面及校庭ハ至極好成績ニシテ當事者ノ好評ヲ博セリ

主要用途

道路面鋪裝、學校運動場、「プラットホーム」倉庫、工場、劇場、其ノ他一般建築ノ床面廊下等ノ鋪裝

特ニ鐵筋「コンクリート」建築物ノ屋上露面、防水、鋪裝ニ頗ル妙ナリ

特長

耐久力甚大、美觀、無音響、滑辷絶無、熱及光線ノ反射些少、絶體防水

施工法簡易ニシテ、價格比較的廉ナリ

（御紹會次第型錄及見本持參說明）

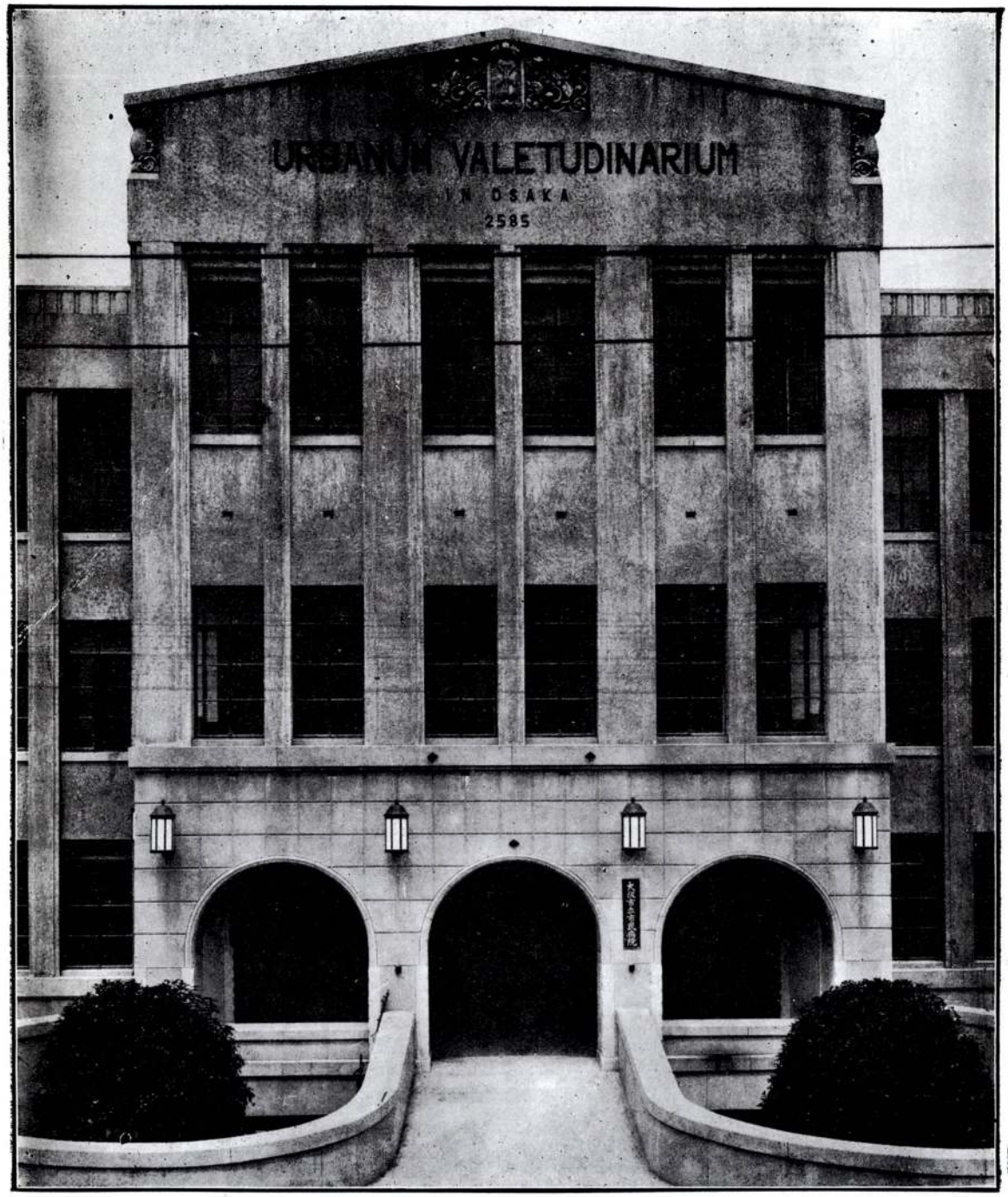
ロック、アスファルト工業株式會社

本社　大阪市西區立賣堀南通四丁目一番地

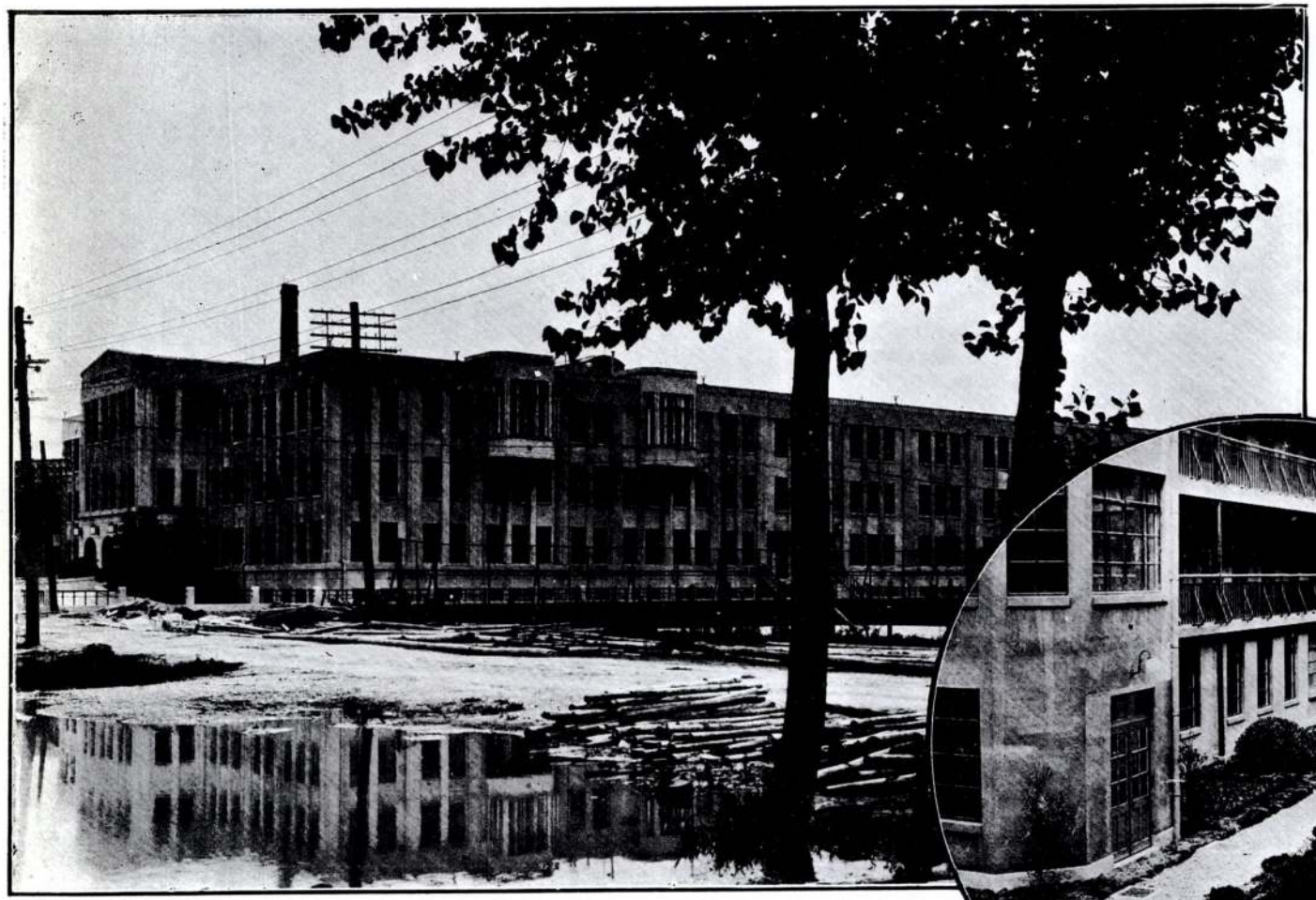
電話新町（一七七番／一七八番／一七九番）長

工場　大阪市西區新炭屋町三十一番地

電話櫻川六一五番



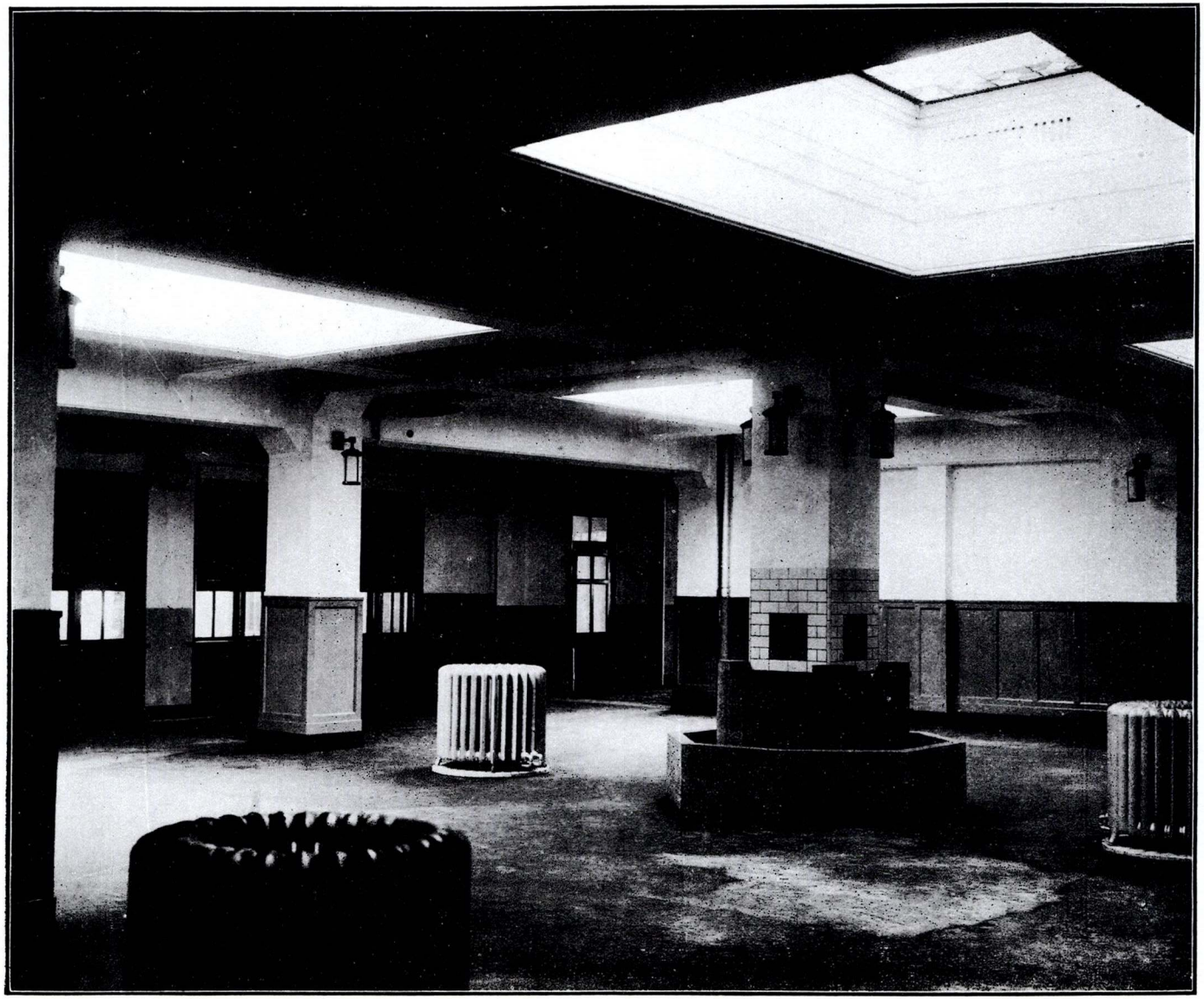
新築成れる大阪市立市民病院の玄關口



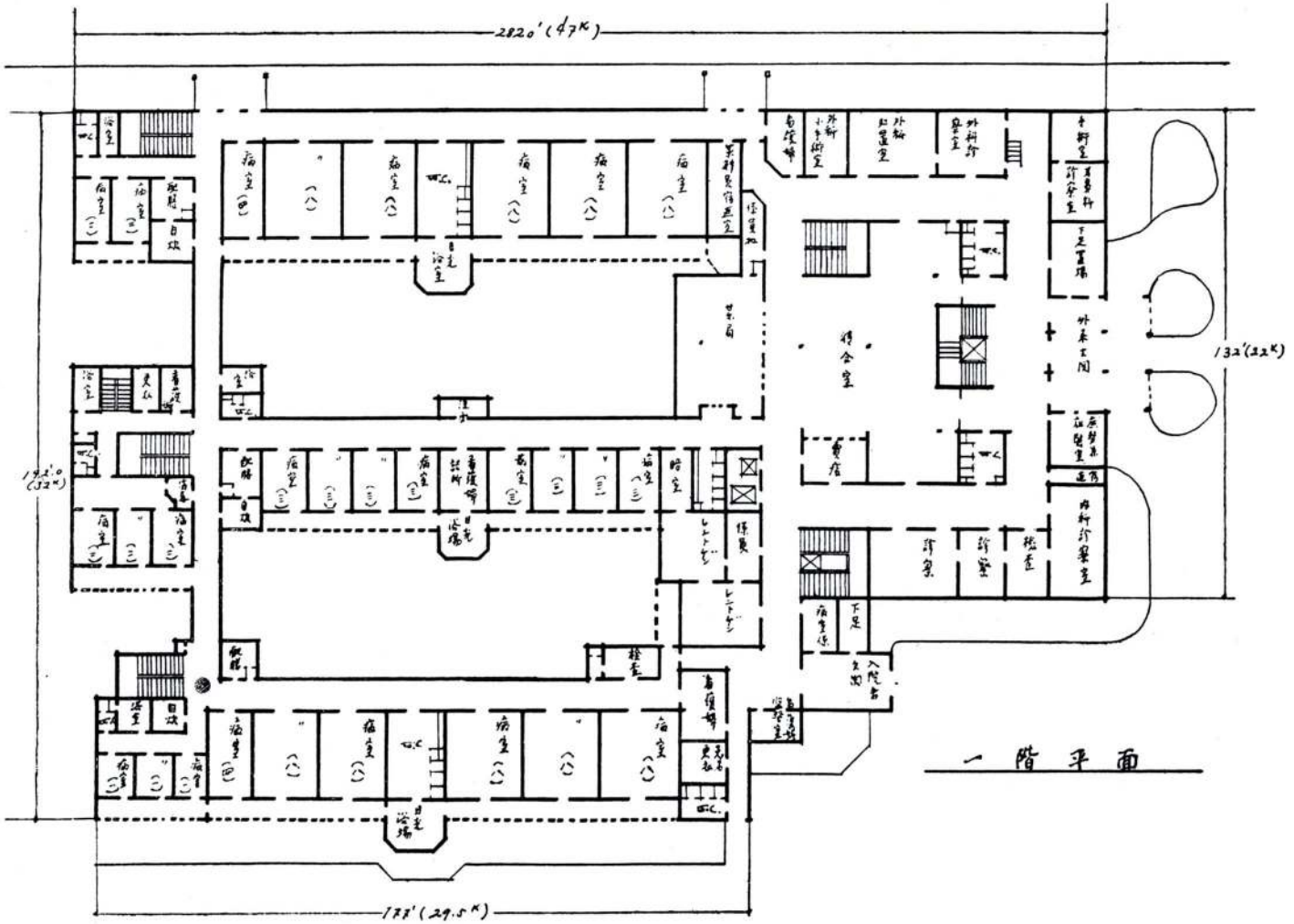
同外觀



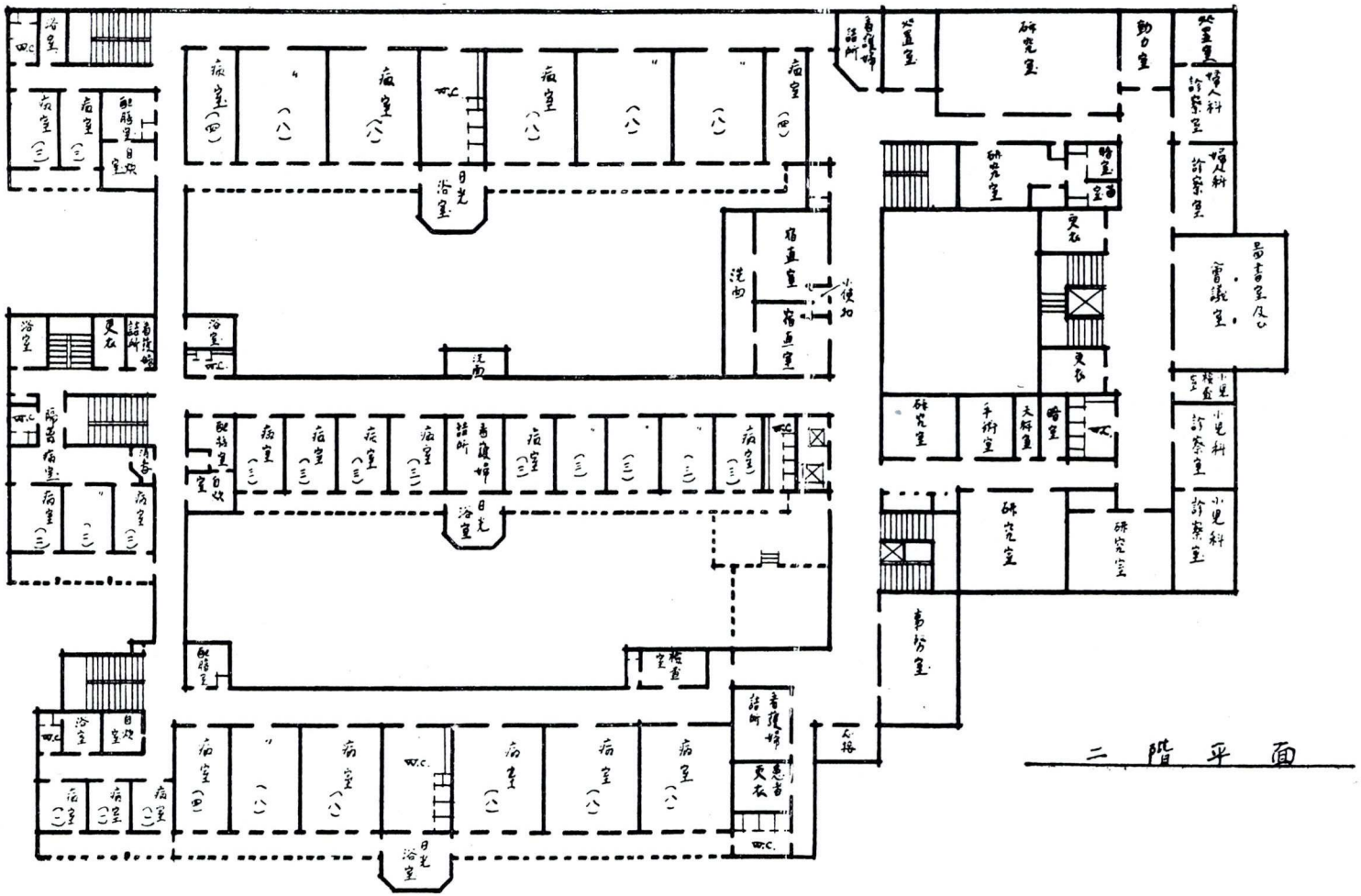
同內庭



同愚者控室

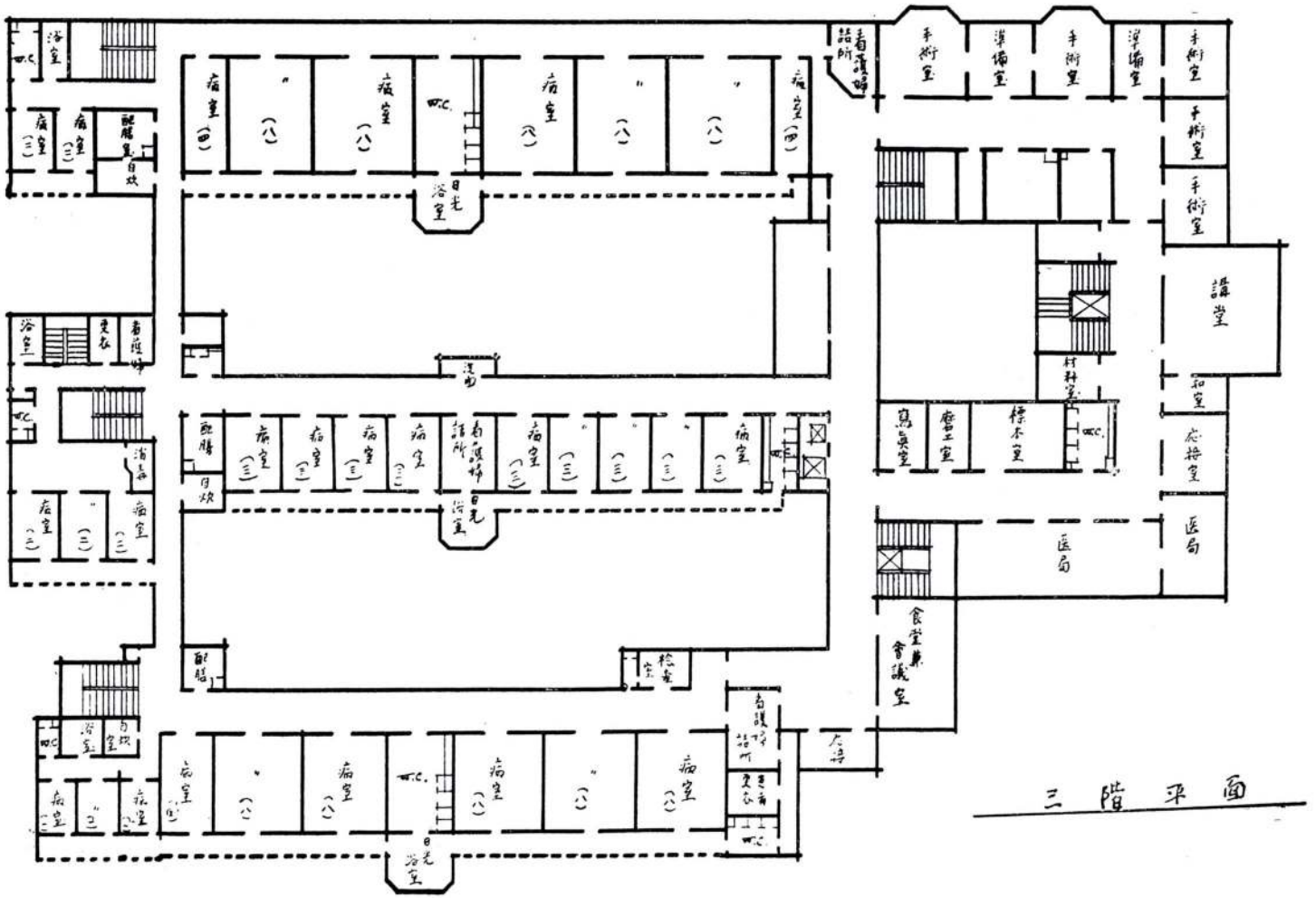


——大阪市立市民病院平面圖——


研究室
動力室
婦人科診察室
婦人科
診察室
小児科
診察室
小児科
診察室
小児科
診察室
研究室
研究室
研究室
手術室
暗室
暗室
更衣
更衣
更衣
会議室
図書室及び
事務室
病室
浴室
日光浴室
洗面
看護婦詰所
配膳室
汚物室
エレベーター
患者更衣
WC.

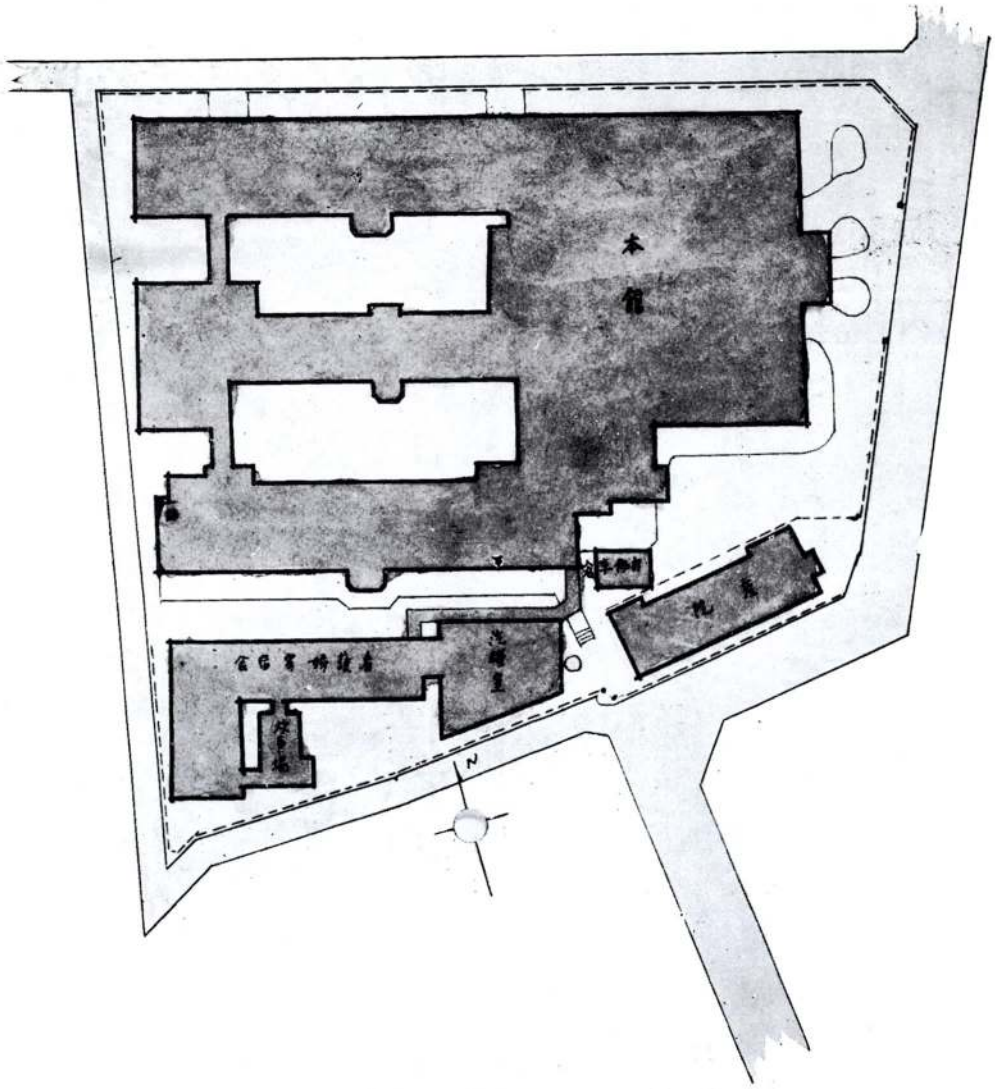
二階平面

——其の二——



—— 三　の　其 ——


地階平面



—— 大阪市立市民病院建物配置圖 ——

大阪市立市民病院新築概要

一、位置　大阪市住吉區天王寺町奥塚原
一、敷地面積　二、四一七坪一四
一、建坪(本館)　一、〇八七坪一九
一、延坪(本館)　四、一六一坪〇一
一、總延坪(本館、別棟汽罐室　自動車庫ヲ含ム)
四、二四八坪九五一九

內譯

本館

土中室	二三坪〇八	地階	一〇八七坪一九
第一階	一〇六七坪三六	第二階	九九二坪七七
第三階	九九〇坪六一	屋上	九九〇坪六一

別棟

煖房汽罐室	五七坪一〇六九
看護婦寄宿への渡廊下	一七坪八三五
自動車庫(工事中)	一三坪
動物舍(未着手)	

一、間取

本館は東向正面大玄關及正面南寄に入院患者出入口を控へ中央部に外來患者待合室の大廣間を設け其周に藥局銀行出張所各科醫務室診察室治療室レントゲン室手術室解剖室圖書室研究室講堂其他の附屬室を階に應じて配置し更に西寄には東西に延長する三棟の病棟に接續す

南、中、北三病棟は更に西端に於て廊下を以て各階共連絡し共に本館の一部を構成す

各病棟は南面に連續せるベランダを以て日光の直射を防ぐと共に中庭の花圃に對し患者の散歩慰安に備ふベランダ中央部を凸出して日光浴室を各階に設く

又各病棟西端凸出部と同じくベランダを控へて小病室となし特別室の設備をなす

南病棟地階に洗濯場及炊事場を設く

本館東南の廊下より渡廊下を以て看護婦宿舍(舊建物)に連絡す又渡廊下に接して煖房汽罐室を設く

入院患者出入口の南側には自動車二臺を容るゝ車庫を置く

一、構造

本館は鐵筋コンクリート造地階共四階建とす

地形　柱下は壺堀り栗石搗き地形

架構體　柱基礎病床梁床版共鐵筋コンクリート造壁體は帳壁式とし煉瓦及空洞煉瓦を以て構成す

一、諸設備

昇降機設備工事　日本エレベーター製造株式會社
電氣設備配線工事　沖商商店
電動發電機製作及据付工事　黒崎電氣製作所
電氣時計設備工事　神奈川電氣株式會社
電熨器具製作取付工事　中橋彌太郎
私設電話電鈴設備工事　日本電機株式會社
瓦斯供給設備工事　大阪瓦斯株式會社
屋上水槽設備工事　松村組及永井商店
給水排水及消火設備工事　日本水道衛生工事株式會社
炊事用蒸汽釜設備工事　同
衛生器具設備工事　城口汚水處理研究所
蒸汽消毒器設備工事　岡寅康
煖房給湯給汽設備工事　須賀商會
洗濯機設備工事　山瀬清藏
汚物燒却爐設備工事　大川剛毅
汚物處理槽工事　松村組
鐵筋混凝土煙突工事　松村組
建物正面甍裝及飾文字及標札製作工事　同
建物南側及西側塀工事　同

一、工期

工事着手　大正十二年十二月　工事竣工　大正十四年五月

一、收容患者數

外來患者　約五〇〇名　入院患者　約五〇〇名

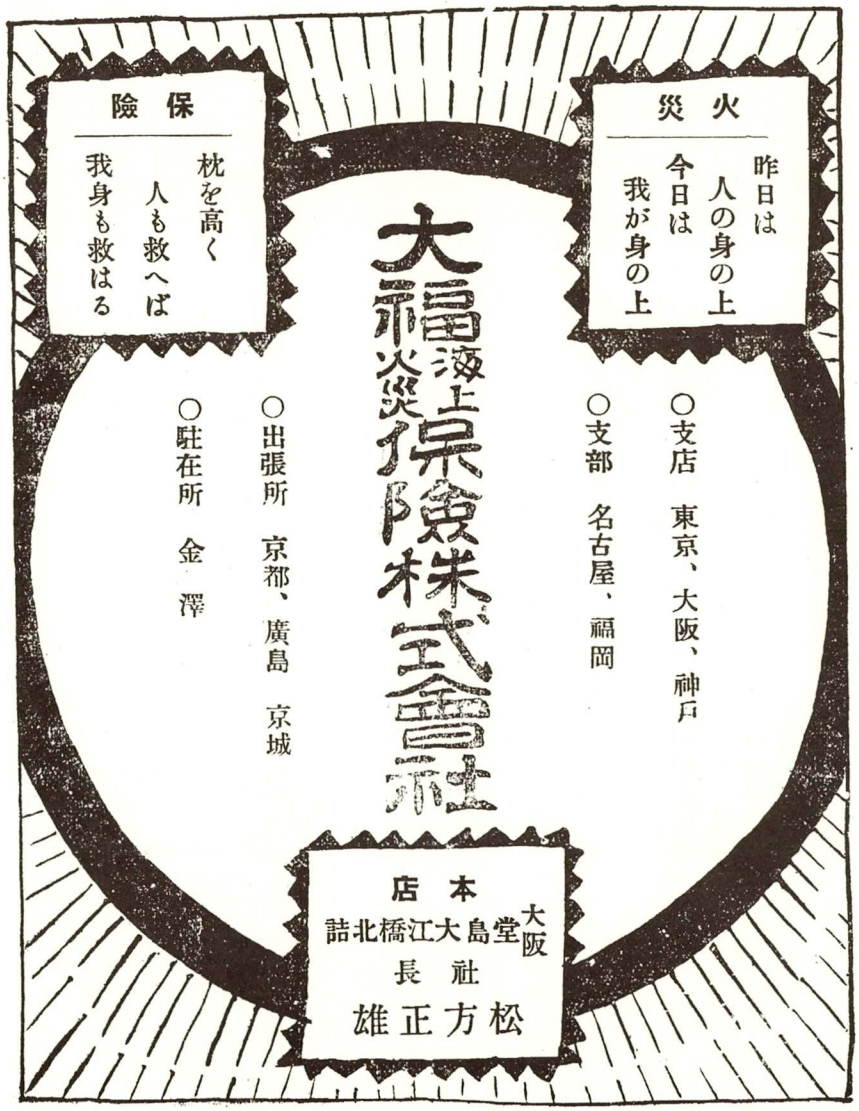
一、設計監督　大阪市營繕課

一、工事請負　建築工事　株式會社　松村組

一、建設費

本病院は岸本家より大阪市へ百萬圓の寄附ありたるを基として市費五十萬圓を加へ百五十萬圓を以て工事其他一切の施設をなせり

建築費は約六十萬圓餘延一坪當り一六〇圓見當にして鐵筋コンクリート造建築としては最低限度の費用を以て相當以上の効果を納めたるものなり


火災
昨日は
人の身の上
今日は
我が身の上
保険
枕を高く
人も救へば
我身も救はる
大福海上火災保険株式會社
○支店　東京、大阪、神戸
○支部　名古屋、福岡
○出張所　京都、廣島　京城
○駐在所　金澤
本店
大阪
堂島大江橋北詰
社長
松方正雄

會告

構造計算ニ關シ各種ノ研究問題ヲ提出セラレム事ヲ希望ス

今般本協會ニ新ニ構造計算調査委員會ヲ設置シマシテ一般建築構造強度ニ關スル諸問題ニ付研究調査ヲ致シテ居リマス

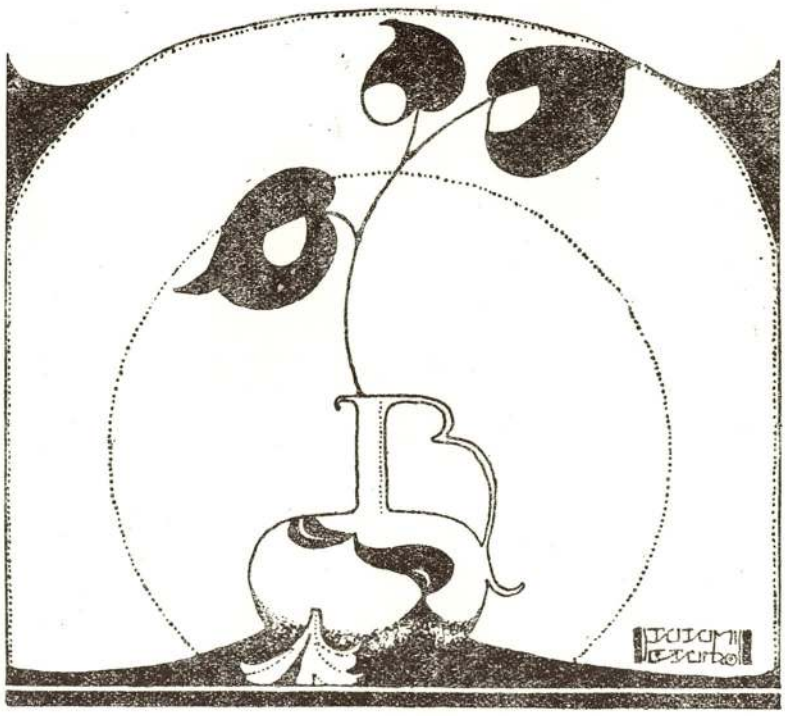
日常構造強度計算ニ從事セラル、會員諸君ハ何レモ經驗セラルヽ處ト思ヒマスガ我國ノ建築物ニ關スル諸法規ハ此ノ點ニ關シテ極メテ一般的ノ標準ヲ規定スルニ止マリ實際上起ル各種部分的ノ問題又ハ特殊ノ事項ニ關シテハ各人ノ解釋ニ俟チ其間各種ノ疑問ヲ生ズル場合ガ普通デアリマス

關東關西震災ノ結果ハ吾々ニ構造上殊ニ其強度ノ研究ガ如何ニ吾人ノ生命財產ノ安危ニ係ルノ重大ナルカヲ啓示シ尙何時ノ時代デモデアリマスガ特ニ我國刻下各方面トモ節約ヲ念トセル折柄若必要以上ノコトノ爲ニ財貨ヲ費セバ之レガ直ニ我邦產業上ニモ大ナル影響ヲ及ボスモノナルコトヲ知ルトキ是レガ研究調査ノ極メテ緊要ナルヲ告グル次第デヲリマス

委員會デハ各自平素ノ研究ト經驗トニ基ク諸問題ヲ捉ヘテ之ガ調査資料トシテ居ラレマスガ限ラレタル人員デハ或ハ問題ノ範圍ガ自ラ局限サレル虞ガアルカモ知レマセンノデ會員諸君ヨリモ何卒諸問題ノ御提示ヲ御願スル次第デアリマス

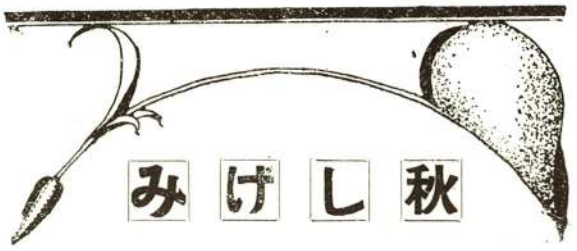
日本建築協會

會員各位



「學」「術」？

建築學と建築術は、醫家の所謂基礎醫學と臨床醫學の關係のようなものではあるまいか。殊に學問の分科が益々分れて行くように、建築の基礎學たる方面がほんとうは細かく分科して、その綜合的智識が建築術——臨床醫學——となる譯ではあるまいか。——いや、建築術の事も、亦それ〴〵分科によつて立つのが、ほんとうではあるまいか。現在、日本の醫學界は基礎醫學を捨てゝ、吾も誰も臨床醫學に趨く——即ち金の儲かる方に行く、天分も何も考へずに——といふ歎聲を門外漢の吾等までも聞かされるように、年々送り出される幾百の建築科出身の諸氏、滔々としてその軌を一つにしてゐるように見受けられる。但し是はわたくしの間違つた觀察かも判らないが、所謂基礎學の方に、欣むで一生を捧げる人達の同樣に少なからないことを、日本の建築界のために、餘計な事かも知らぬないが、わたくしは望むでゐる。……（郊郎）



も窓より射入する光線に依つて無限の變化を示すものでわります。ダイアグラムは其の配置法を示したもので各室色を變へて觀者に快き感情を起さしめて居ます。文化住宅室内の色彩は自然色よりも寧ろ人工色の取合せでありまして其の調和の宜しきを得ない時は無意味のものとなるのであります。よき調和を得たる室内は高雅なる品格が備はり不調和の室にありましては何處かに無理があつて壓迫を感じ下品に見ゆるものであります。

色彩の調和が吾人の視覺に觸れた時、其處に種々の感情を喚起します。即ち音、輕重、遠近、硬柔、明暗、鋭鈍味等總て五感に觸れるものに關係を有して居ります。音色とか、色味とか、乾いた色、濕つぽい色とか云はれるものは何れもよくそれを説明して居ります。

◎家具と色彩

色と云ふものは如何なるものも皆夫々相當の完全性を有して居るのでありまして之に配する他の色に依りまして調和或は不調和を表す事は何人も感ずる事であります。

總て天然物の色が如何に美しきかは今更論ずる必要はありませんが、今其例を草木に取つて見ますと緑の中にも多様の濃淡を有し、之に咲く花が無數の變化を示して其處に完全なる調和と反映及び反映的調和多中統一と友映及び反映的調和多中統一等を展開して居るのであります。

我々が或室に入つた刹那第一印象として先づ色を感じます。たとへ夫が單純色であつてすらに從ひ異つて居ります。而して形狀を總括的に申しますと圓卓子、楕圓卓子、方形卓子、長方形卓子、正多角形卓子等でありますが其の變化は無限でありまして自然色よりも寧ろ人工色の取合せでありまして其の調和の宜しきを得ない時は無意味のものとなるのであります。よき調和を得たる室内は高雅なる品格が備はり不調和の室にありましては何處かに無理があつて壓迫を感じ下品に見ゆるものであります。

色彩の調和が吾人の視覺に觸れた時、其處に種々の感情を喚起します。即ち音、輕重、遠近、硬柔、明暗、鋭鈍味等總て五感に觸れるものに關係を有して居ります。音色とか、色味とか、乾いた色、濕つぽい色とか云はれるものは何れもよくそれを説明して居ります。

最も普通に使用せらるゝ家具類を大別して見ますと左の様になります。

椅子類、卓子類、机類、棚類、臺類、樂器、取付家具類

次に之を細別致しますと椅子類には

小椅子、肘掛椅子、足臺、ストール(腰掛)、長腰掛、安樂椅子搖椅子、吊椅子、ソフアステイー、セツトル、子供食事椅子、廻轉椅子、ダベンポート等でありますがそれ等は何れも用ひらるゝ室の性質によつて其の趣を異にして居るのは勿論であります

卓子類には食卓子、應接卓子化粧卓子、中央卓子、カード卓子、喫茶卓子、喫煙卓子、書齋卓子、調理卓子等でありまして其の形狀も構造も夫々本來の使命常に莊重に拵へてあるので重心が上にあるから一度地震に襲はれでもすると忽ち是をもがれて倒れて終ふので平常は屋根の重みで保つてゐても甚だ永久性を缺いてゐる譯である。それで如何に耐震的に出來てはゐてもの、三十年も經つて効力は著しく減つてしまふそこになると煉瓦造りは永久的であるから理想的な建築と云へる、又家を建てるには第一に採光と通風に重きを置かれば第一健康狀態に大へんな影響を及ぼすのである。家の方位は昔から迷信交りで云々されゐる事である、その採光の爲めには近頃平面圖で乙字型に建てる事が行はれてゐる、此方法なら二方から光線の取れる部屋が二ツ兩方から取れる部屋が三つ出來るから採光上によく耐震にも大へん有効なのであるそれに二階でも上げるならなほ面白い建物が出來る譯である。それと臺所は衞生的に拵へるがよいから殊に日當りと通風をよくし、天井は汚れのよく分るやうに張る必要がある、又水の切れをよくするがよい。壁の色は黒は餘りほめたものではない。白は夏向きには好いように見えても、反つて夏は目を刺戟してよくない。薄黄色味あるものか灰色が適當である電燈は六疊なら二十四燭、八疊なら三十二乃至五十燭位客間なら三十二燭位が適度であらう。そして出來るならなるべく發光體をさえ切るのが目の爲めにもよければ部屋の中は落付いた明るさになるのである。

◎法隆寺の防火用大鐵管

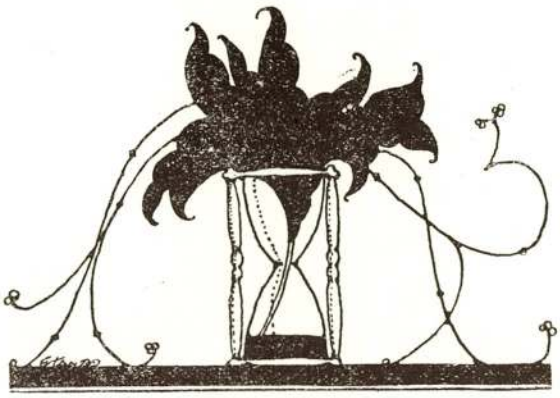
世界最古の木造建築物である大和の法隆寺の壁畫の固定や建築物保護の防火設備は先年德川家より聖德太子奉賛會に於て既に設計を終り愈九月中旬頃之が起工式を擧げることゝなつた、工事費は約三十萬圓に達する見込で施設の大要は法隆寺背後の丘陵地に一大貯水池を設け附近の山林より大鐵管を以て水を引き更に貯水池より鐵管によつて水を消火栓に導き非常の際スヰツチを切れば直に水迸り出で消火する設備で之に對する大鐵管の數は非常に多くその製作は一切大阪鐵工所で請負つてゐたが今回全部出來し既に法隆寺驛まで輸送濟みとなつたと

◎世界でも珍らしい東大の大書庫

震災で燒失した東京帝國大學圖書館は其後英、米、佛、伊、獨其他各國の同情に依り多大の書物寄贈を受け貴重な我圖書は別として大體に於ては災前に倍する藏書を得るに至り加ふるに米國ロツクフエラー氏から復興費として四百萬圓の寄附を受け目下大圖書館建設に着手中であるが建物は圖書館の善美を盡したもので今後帝大に學ぶもの、爲に非常な幸福と便利とを附與することになる圖書館に附屬して建られる書庫は裕に百萬册を入るゝことが出來るもので尚引續き百六十萬圓の豫算をロツクフエラ!氏寄附金以外に計上して更に百萬册入の書庫を建る計畫がある百萬册入の書庫は世界にも先づ珍らしいものであると

◎耐震と採光には乙字型の家

近頃文化住宅を建てる事が流行し今では新しく出來る家のどれも之もが純日本風な家屋は殆ど見る事の出來ないやうな有樣で何處かに西洋風を取り入れつゝある。それは時世と共に此の樣な傾向を示してゐるのであらうが從來の日本家屋は屋根を非



建築物と國民教育の交渉

杉田稔

氏は、大阪市立工業學校長にして、過般歐米の工業教育を視察して歸朝されたのである。その齎らせられた新觀察は甚し傾聽に値ひするものあり、乞ふて此處に掲載することゝせり。‖編輯子

建築のことに就いては私は全くの素人で、別にお話をする程の考も有つて居ないが、何樣歐米の事と云へば、萬事に金が餘計要かつて居るから、建築に就いても彼の地のものゝ良いことは言ふまでもない、其一例として、盜難に對する用心から云つても、特に獨逸の建築の如き、壁の構造は申すに及ばず、窓や入口のやうな所は細心の注意が拂はれて居る、例へば、どんな大きな建物でも入口は「ドーア」一つであるが、それには大抵三つ位の鍵が掛かつて居て、それが又頗る頑丈なもので、極端に言へば、牢屋の鍵のやうである、而も猶ほ滿足せず、戸が二寸位開いた所で外れぬやうに、中から又鍵が掛つて居る、それは家の者は扱くことを知つて居るが、他の者は知らない、そんな風に戸締りが頗る嚴重に出來て居るが、是は色々な方面から解釋が出來るけれども、私は道德上から云つても、非常に可いことゝ思ふ、約り不用心な戸締りをして置くから、泥棒にしても、一寸入つて見やうかと云ふ惡心も起すので、それが嚴重になつて居れば、やりかけても、大抵止めるだらうと思ふ、又惡事をする者は存外根氣が無いものであつて、根氣を以て其三つの鍵を外すやうな者なら、正直に働いて食ふ筈である、即ち樂をして食はうと云ふ者がやることであるから、樂々開かぬやうにして置くことが必要である、所謂日本の文化住宅などには薄つぺらな硝子戸

一枚で、而も外づさうと思へば、何時でも外づされるやうな錠前などで簡單な戸締りをして居る所があるが、さう云ふ點はもつとお互に注意して、警察の助けをするやうにした方が可からうと思ふ、頻々と盜難があつて、警察の方でも困つて居られるが、實は盜られた者にも半分の責任は免れぬ譯である、又一面から云へば、日本の家がそれだけ開放的に出來て居つても、比較的泥棒が入らないのは、歐米に比して、日本の方が惡事を働く者が少いのでないかとも考へられる、又一面に於てはあちらでは人の家に忍び込む手段が進歩して居て日本の方はまだ幼稚なのかも知れない、假に歐米の家が日本のやうな戸締りであつたならば、硝子戸でも何でも音も立てず自由に開けて、どん〳〵入つて來るだらうと思ふ、けれども幸ひ日本では泥棒の技術が進歩して居ないのか、或はさう云ふ惡人が少いのか、比較的被害が少い、それは餘り用心堅固にすれば、入いる方でもそれだけ技術が進歩して來るものであつて、相互的關係にあるものかも知れない、兎に角世の中のことは總て進歩して行くものであるが、殊に惡事の進歩は速いものであるし、此頃のやうに不景氣になり、失業者などが殖えて來ると、自然惡事をする者も增して來る譯であるから、もうそろ〳〵日本の建築も其邊のことに就いて十分の注意をしてやつて置かぬと、警察事故が殖え、罪人を造ることも多くなるのでないかと思ふ、地の事は儉約するとしても、此戸締りの點だけはもつと金を要けても丈夫にしたいものだと考へて居る。

次に電燈のスイッチであるが、是も經濟上から來たものであらうけれども、日本では非常に儉約して居る、スイッチを澤山付けると、金が餘計要かると云ふのであるが、初に少々金は餘計要かつても、是は成だけ多く拵えて置いた方が可からうと思ふ、さうすれば、例へば、二階へ上ると云ふ時でも階段の下で點けて、上つてしまへば、直ぐ消してしまふと云ふやうに、階段の電燈の如きも其處を昇降する時だけ點けて間は消して置くと云ふことも出來る、又サンデリヤのやうなものでも、私の居つた英國の下宿などは三つあつたが、スチッチも三つ付いて居て、遊んで居る時には餘計點ける必要はないし、讀書でもする時に三つとも點けると云ふやうに、一つでも二つでも三つでも、適宜に點けられるやうになつて居た、斯の如く初に少し餘計金を要けて置けば、結局後日經濟上非常に利益になつて來るものを、唯一厘でも安く仕上げやうとばかり考へるのは甚だ間違つたことでないかと思ふ。

又下水道にしても、家の周圍に公共のものを拵えると云ふ場合でも多少の寄附(大丸さんのやうに)でもして、特に自分の希望なり意見があれば、それは殊更嚴ましい表面的手續をしなくても、一寸したことは、斯うしてやつて欲しいと云へば職工でも直して呉れるし、從て永遠に便利なものが出來るのであるが、其處に氣が付かないで、あれはお上のもの、自分の方に關係の無いことだと、知らぬ面をして居て、出來てしまつてから、溝が詰つたと云つて大騒ぎをするやうなことがあるが、是が英國などでは、道路の何間かは自分の方の受持だと思ふて居て、自から掃除もすれば、工事も是だけは自分の方でやるから、其次は、あなたの方でやつて貰ひたいと云ふ風にやつて居るから、工事も完全に出來て、溝が詰つて、床の下へ水が流れ込むと云ふやうなことはない、是等は

土木の方で、建築上には直接關係はないかも知れないが、家に關係して注意すべき點であらうと思ふ。

或は又冬の防寒裝置にも少し注意をすれば、餘り慳へ上つて仕事も手に着かぬと云ふやうなことにならぬでも可いのであるが、建物の構造が粗末である爲に、風がスー〳〵床の下から吹き通して、天井へ抜けて來ると云ふやうなことになるのである、斯んなことでは少々電氣煖爐や、石油煖爐を燃いた所で迚も堪つたものではない、或は是も衛生上から云へば大に良いのかも知れないが、建築上もつと注意しなければならぬことでないかと思ふ。

又私の密に遺憾に感ずる點は日本の家の雨漏りの多いことである、是は甚だ困つたもので、其爲に下の結構なお座敷を臺なしにしたり、天井板に厭な模樣が付いたりする、是も少し仕事に念を入れて、金や材料で云へば、一二割も餘計掛けて置けば可いのでないかと思ふ、それを兎角金を要けずに、仕事を早くしやうとばかり考へて、天氣の好い爲に大勢の人が掛かつてバタ〳〵やつてしまふものだから、少し強い雨が降ると、何處が漏つて、何處から傳つて來るのやら分らぬと云ふ譯で、遂には屋根全體を修理しなければならぬと云ふやうなことになるのであるが、斯う云ふことは西洋では聞かぬやうである、又さう漏る家も無いやうである、谷瓦と云つて家が直角にくつ付いて居る場合に屋根に谷が出來るのであるが、日本では是が漏るに極つて居る、どんな官廳の立派な建物でも餘程監督者が慥りしてやつたものでなければ、必ず漏ることになつて居るが、私はそんな筈はないと思ふ、尤も私は屋根屋さんでないから能く知らないが、あの谷と云ふ所の構造に一二割餘計手間を掛けて置いたら、そんなことはなからうと思ふ。

それは鐵筋コンクリートにしても、私の經驗した所に就いて云つても注文をして職人にさしたコンクリートを自分で捏つて拵へたものとは、材料は同じであるのに、出來上つた品物に就いて見る、一方は粟おこしのやうにボロ〳〵で、一方は本當に石のやうに固つて、非常に硬い、是は別に機密も何もあるのではない、唯混ぜ合せを叮寧にして水が十分混つて居るからである、尤もコンクリート、ミキサーでやつたものは別として、手練りのものは能く水の混つて居ないものがある、第一セメントと砂を混ぜる最初に能く混ぜず、水を入れてからも十中に混ぜない、そこで其混ぜ方の惡い所は直ぐ龜裂が入つて割れてしまふのである。

斯う云ふ點を列擧して居ては限りもないが、建築の施工に就いては監督者も嚴重にやつて貰ひたいし又直接施工を司る職工と云ふ人達ももう少し後の爲を思ふて仕事をして貰ひたい、それには結局一般國民の性質から改良して、行かなければならぬ事で、是等の點に就いては敎育者も大に注意をして貰ひたい、小學校などで兒童に物をさせる時にも、注意の足りない樣な點は嚴ましく言ふて、總てのことを徹底的にやる習慣を付けるやうにしたら可からうと思ふ、さうすれば、其兒童が成人して、仕事をする時に、監督者にならうが、勞働者にならうが、自分のする事に對して十分に念を入れ、徹底的にやるやうにならうと思ふ、是は國民性の上に於て大事なことであつて、萬事萬端十分に注意を拂はぬと、一二割の不注意が後に全部を破壞することにもなるのであつて、經濟々

々と云つても、金を儲けることばかりが經濟でなく、日常些細なことに就いて注意を怠らず、總てのことを徹底的にやると云ふことが大に世の中の經濟になるのでないかと思ふ、是が即ち勤儉節約の趣旨にも副ふやり方である。

次に私が歐米を廻つて感じたことは、歐洲の建物と亞米利加の建物とは全然趣が異つて居る、同じ煉瓦造、鐵筋コンクリートの建物でも、亞米利加の建築は無暗に高いものを拵えたり、外郭は單純で飾りの無い頗る實用主義に出來て居るが室内にはウント金を掛けて立派な裝飾をして居る、所が歐洲の方は觀るから立派な彫刻が付いて居たり、曲線が多かつたりして、餘程美術的になつて居る、それは即ち伊太利、佛蘭西と云ふやうな美術の根源國があるからでもあらうが、英國にしても、美術を尚び、美術思想の豊な國民で、其市街の四辻には何々スクヱヤ、何々サーカスと云つたものがあるが、其周圍の建物までも其處に調和するやうに曲線的に造られて居て、中には變形に曲つて居るものもある、こんなのは煉瓦造だから出來るので、鐵筋では出來ないさうであるが、兎に角そんな所にまで注意を拂つて、一見して非常に氣持の好いやうに出來て居る、思ふに歐洲の方の建築は大變金が要かる併し貧富の度から云へば、私は米國の方が優つて居て、歐洲の方は比較的生産の少い、儉約をしなければならぬ國柄だらうと思ふ、然るに其富の少い歐洲の方が建築物に金を要けて非常に美術的に出來て居る、そこで日本の建築はどうしたら可いかと考へると、今では殆ど全部と云つても可い位亞米利加式になつて來て居るやうであるが、私は茲に甚だ遺憾がある、願くは日本も歐洲以上に金の無い國であるが、金は餘計要かつても、もつと良い、美術的の建物を拵えるやうにして貰ひたい、乃水大將のやうに、屋根の鬼瓦さへ要らぬと云つて、實用主義を唱へられた方もあるが、日本の將來の産業上から云つて、どうしても日本の國民としては美術的思想を有つた者を養成しなければならぬと思ふ、それには常に子供の眼に觸れる建物からして、少しは美術的に出來て居らぬと、甚だ不粋な人間になつてしまふ、何と云つても、歐洲の方は立派な美術が澤山あるし、亞米利加では金で買つては來るけれども、殆ど其獨得のものは無いやうである、或は亞米利加のやうな生産の盛な富の豊な所で、他處に出來た立派な美術をどん〳〵金を出して買ふことの出來る國なら、それでも可いか知らぬが、日本のやうに他處から買つて來る所ではなく自分の拵たものを賣つて食はなければならぬものは、美を愛することは人類の本性であるから、其美を愛する世界各國の人に買つて貰ふやうな立派な品物を造るやうにしなければならぬ、即ち日本の國民は工藝美術と云ふ方面に向つて努力して行かなければならぬ、將來我國はどうしても工業に依て立たなければならぬが、其工業も外國と競爭することの出來ぬやうな大工業でなく、小仕掛な、機械でやるよりも、手技でやる所の工藝と云ふものに依て、其圖案が佳く、出來上つたものが何となく趣があると云ふやうなものゝ生産力を增さなければならぬと思ふ、それには前述の通り、建物が餘り殺風景では其中に育てられる子供も殺風景になる、從て小學校の建物なども鐵筋コンクリートで、實用的に火事が起らず、地震に潰れないと云ふのも結構には違ひないけれども、恰も石炭箱を据へたやうな殺風景なものを建てゝ、室内に餘り裝

飾もなれけば、窓掛一つ能う掛けられぬと云ふ様な事をして置いては、其處で育てられたる兒童はどうなるであらうか——恐らく乾燥無味殺風景な潤ひの無い人間が出來上るであらうと思ふ、日々眼に着くものゝ感じは恐しいものである、私は決して贅澤なことを言ふのではないが、自然に骨を折らずに子供を敎育する爲には矢張り曲線美を有つものを積み重ねて造り上げると云ふことが、住宅と云はず、學校と云はず必要でないかと思ふ。

從來私も氣が付かなかつたのであるが、大阪に歐洲風の建物が唯一つある、それは梅田のステーションであつて、其外には無い、此頃自宅から大阪へ通ふ時分に、熟々あの建物を見て愉快に思ふ、あれは可なり古いものであるが、餘り屋根の修繕をしたと云ふことも聞いたことはなし、又剝れたやうな所も無い、隨分頑固に出來て居る、初に金を要けて置けば結局得だと云ふのは即ちこゝのことである、改築間際に迫つても、あの通り慥りして居て、見る者をして美の觀念を起させる、故に私は無暗に宏大なものにしなくても可いから、小さくても、成べくあゝ云ふ風な向のものに總ての建築をして欲しいものだと思ふて居る、此間も毎日新聞社へ行つて、彼處の四階か五階からか見ると、間近に見える、あの屋根の恰好がなか〳〵佳い、馬鹿には出來ない、誰が見ても、心持が好からうと思ふ、私も從來うつかり見過して居たが、今度歐米から歸つてから、注意して見るとさう云ふ感じが起つた、巴里とか、獨逸のミュンヘンなどの佳い建物を見、而も建築家の案内で色々の說明を聽いてから、私のやうな凡眼にも成程建築と云ふものは斯う云ふものかと云ふことが解るやうになつた、又倫敦の英蘭銀行とか、シテイ、ホールとか云ふやうな有名な建物を見ても、側へ行くと、煤で眞黑になつて居て、梅田の驛所の騷ぎでなく、實に見られたものでない、斯んなものかと思ふ位のものであるが、繪葉書になつたのを見ると、洵に立派な建物である、英國の古い建物は繪葉書で見るが可い、是等は建築屋さんの良い頭から造られたものではあるが、金も十分に使はれて居るものだらうと思ふ、梅田驛以上に頑固に出來て居る、日本に於てもさう云ふ立派な力のある建物を造る爲には、矢張り敎育家と云はず、宗敎家と云はず、又實業家と云はず、總ての人が皆一致して、日常の子弟の敎育の上に就いても將來の爲を思ふた敎育を施すやうに十分の注意をして行かなければならぬことゝ信ずる。

尙ほ建築に伴つて庭園のことに就いて云へば、歐羅巴の庭園には各々其土地に適した成長の良い、又建物との釣合の宜い樹を選んであるし、芝草にしても、雜草の種を絶やしてしまつて、頗る手間の要からぬやうに出來て居る、即ち古くから徹底的に性の惡い雜草の種を絶すと云ふことに骨を折つた結果、幾代かを經過する中に根絶してしまつた譯である、性の惡い草と云へば、日本の蓮華草に似て其葉と花の少し大きい臺灣蓮華と云ふ草があるが、是が非常に恐しい惡草である、私が或所へ行つた時に、頻に庭の掃除をして居る老人があつたが、「もう五十日程やつて居る」と仰しやるから、

「どれだけ程おやりになりましたか」

と云ふと、

「先づ十四五坪出來たでせう」

「五十日も掛かつて、それだけと云ふのは、一體何をしてな

さるのですか」

「臺灣蓮華の根を掘つて居るのです」

「それにしても、やり方が悪いのでせう、鶴嘴で以て一尺なら一尺程づゝ土を掘起して、篩で以て篩ふたら、可いぢやありませぬか、其方が餘程早いでせう」

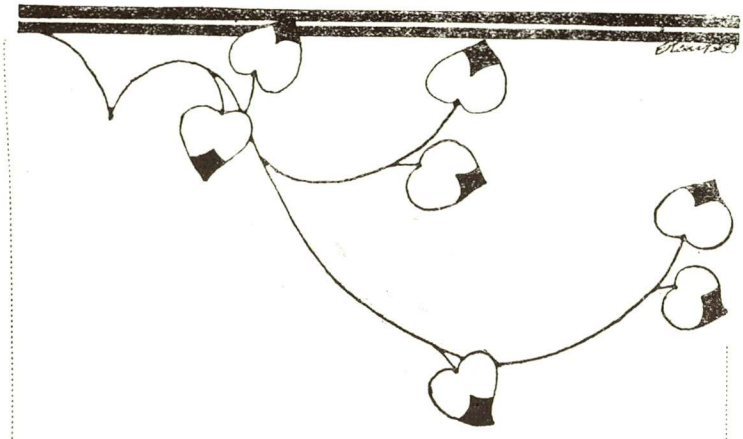
「それは知つて居るが、こいつは迚もそんなことには可かぬのです、マア一遍御覽に入れませう」

と言つて見せられたものを見ると、一つの莖の根に土色をした芋が一ぱいクッ付て居て、それが一寸手を動かしてもボロ〳〵落ちる、それが稍々大きな粒から砂のやうな粒が五六十も付て居る、それを筵のやうなもので（其人は鎌でやつて居たが）莖を傳つて周圍から、そろつと土ごと掘起して、綺麗な所へ持て來て落すのであるが、場所に依ては花が綺麗であるから、十五錢位で賣つて居るが、こんなものを庭へ植えたら、堪つたものでない、其處の家でもエライ綺麗な花だと思ふて、植ゑてから、二三年經つと、こつちの土を弄り、あつちの土を弄りして居る中に、邸中一ぱいに擴かつて、もう殆ど徹底的に取去ることは不可能な程になつてしまつた、石崖の間へも入つて居るので、石崖を崩してやつて居た、惡性な草の一例を云へば、そんなもので、根も蔓れば、實も飛んで行つて、僅の間にさう云ふ風に殖ゑる、併し斯樣な惡草が少しも無いので、あの大きなグリーン、ヤードが容易に保護して行くことが出來る譯である、それは最初に手間を入れて徹底的に掃除がしてあるからで、又一つの畑に惡い雜草があつても、其種が飛んで周圍の畑を荒すことになるので、總ての人が協力して其根絶に努めなければならぬことであるが、歐洲の方は野と云はず、山と云はず、公園と云はず、皆徹底して惡草の根を絶やすことに努めて居る、是は將來の國民に取つて、洵に幸福なことゝ云はなければならぬ、日本に於ては如何なる惡草でもあるのであるから、總ての人が注意して、惡草だけは秋の實の生るまでに能く見分けて、根絶しをするやうにしたいと思ふ、又本當に總ての人が協力して四五年もやれば、實際其目的は達せられやうと思ふ、或は木にしても街路樹を一本植えると云ふ塲合にも歐羅巴では極めて其選擇が容易である、一々植木屋を聘んで相談をしないでも、植木屋に云へば、直ぐ適當な木を持て來る、徹底的に惡い木は種を絶してしまつて、其處には良い木より無いやうになつて居る、即ち歐羅巴では單り人間の敎育だけでなく、草木に至るまで良いものが育つやうに敎育がしてある、是は即ち根氣のある徹底的に後の爲を思ふ國民にして初て出來ることであらうと思ふ、自分一代のことを標準にして成功を急いで居るやうなことでは、迚も斯う云ふことは望まれない、彼の臺灣蓮華を抜いて居た老人の如きも、斯んなものを抛つて置いては小供達の代になれば迚も根絶しをすることが出來ない、俺が生きて居る間に切めて是だけは根絶しをして置きたいと云ふ考でやつて居たのであるが、總ての人が斯う云ふ心持になつて、子孫の爲に良い結果を遺すやうに、自分はそれが爲に困難をすることがあつても、犧牲になる積りでやつて行かなければならぬと思ふ。そこで私は工藝美術の生産力のことに就いても熟々考へて居る、急には行かぬことであるが、日本の國民が總て是でなければ、日本の國は立つて行けないと云ふことに覺悟を定めて、先に言つた通り建築の樣式からして子孫

の美的觀念を養はせると云ふ風なことにして、總ての事に細心の注意を拂つて行つたならば、日本が世界一の美術國になり得るのでないかと思ふ、又日本は總ての點に於てさうなり得る資格を有つて居るやうである、氣候から云つても、四季の變化があり、自然の景色から云つても、山河の景色はなか〳〵勝れて居る、人間の氣質から云つても、可かり情愛の濃かな國民であるし、其手足の修養から云へば、言ふまでもなく世界一である、是は私の始終言ふことであるが、箸を持て物を摘んで食ふのは日本人か支那人の外ない、此箸の運動は日本人が生れ落ちると、少くとも一日三度は練習して居る、どんな修養家でも生れてから日に三度の練習を積むものは無い、日本人の箸を動かす指の働き加減は實に微に入り細に入り恐しく發達したもので、迚も西洋人には此器用さはない、それが物を造る時に働くのである、又足の趾にしても、下駄を穿いて、巧に調子を取つて歩くが、五本の趾が悉く働いて居る、斯んな手足の發達した國民は他にはない、仍ち神樣は日本人に良いことを敎へられた、お前達には天然の富は與へぬぞ、金銀銅鐵の鑛石も餘計やらなければ、石炭も餘計やらない、又米を作る田地も餘計にはやらぬ、お前達にそんな自然の富を餘計にやつたならば、どんなことになるか分らぬ、世界を呑んでしまふやうな事になると、大變だから、お前達には先づ手足の能く利くやうな天の惠を與へて置くから、それで以て働いて食へ——私は是が天の使命だと思ふて居る從つて建築に就いて私の注文を云へば、建築物は人の住む所で美術と云ふ事と離すべからざる關係を有つて居るが故に、將來美術工藝的の人間を造る爲に斯の點に注意をして、金は幾らか餘計要かつても、又規模を小さくしても可いから、趣味のある建築をして貰ひたいと云ふことである。

甚だ雜駁な事を秩序もなく述べたが、私の所感の一端を申述べた次第である。

あはれはれ雨かも降ると
起き出でて見れば
けうとき青葉のひかり



コロ、ハウス

大屋靈城

九月といつてもまだ暑い此頃のことであれば餘り固い話は書く氣にも成れず、又讀んで被下る人にとつても御迷惑なことゝ思ふから成るべく涼しい肩の凝らぬ題を選ぼうと苦心した結果がこのコロ、ハウスの話を述べることに落着したのである。讀者諸君は何だつまらぬ話をすると思召さずに一通り讀んで被下い左程に暑い話ではないから。

(一)コロ、ハウスの由來

コロ、ハウスと云ふのは一體何のことか？　大抵の人は解るまいと思ふ。それもその筈私が勝手につけた名で而も或る言葉の略字であるから

私が獨逸を旅行して居る時伯林やドレスデンの郊外でよく小さい豚小屋のようなものが畑の中に散在して居るのを見たことがある。私は不思議に思つて一體あれは何だと下宿に歸つてから宿の主婦さんに尋ねると主婦の返事がこうであつた。「アレはロロニーエンホイゼルだ」このコロニーエンホイゼルこそ私の茲に述べんとする眞の話題である。即ち獨逸語の Kolonien Hoüser で日本語に譯すれば「殖民地むきの家」とでも申しましよう、英語では Colony Houses（コロニーハウセス）と言つて居ます。このコロニー、ハウスと云ふのは何の目的で建てられた家かと云へば「簡易生活を行ひたい而も自然に接し自然を友とし自然に抱擁され乍ら自分のすきな耕種の業を思ふ存分にやつて見たい」とこんな風な考へを持つ都會人——多くは職工の階級——がすき好んで態々とこんな小さな小屋、殖民地にでもありそうな小舍を畑の眞中に建てゝ自分の勤務から解放された暇な時間を

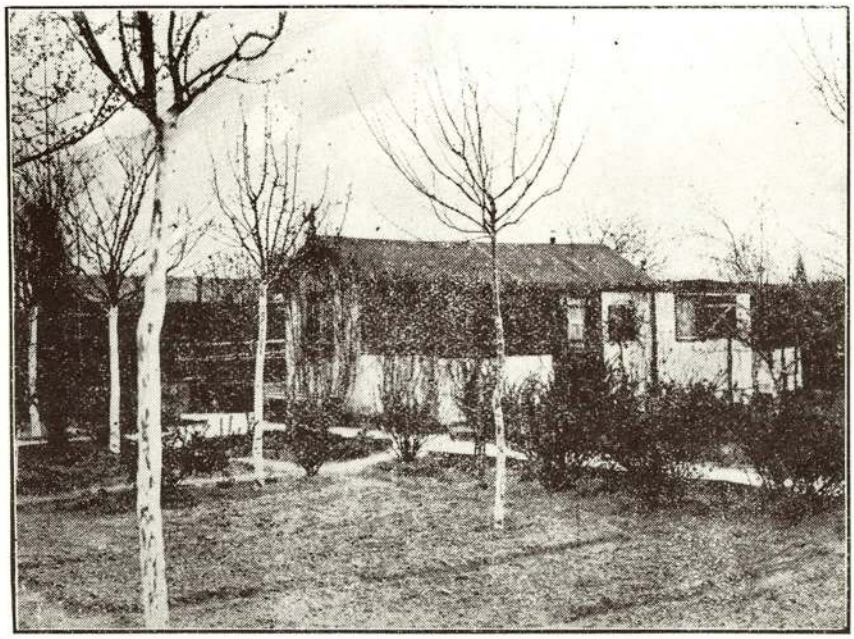
この家で家族と暮したいと云ふ希望から建てたものであるそうな。この家は大抵は一戸でなしに十戸も二十戸も群をなして建てられて居るが多くは組合組織又は會社の組織に成つて居るらしい。銘々大凡五十坪（五間の十間）を單位に土地を分割して道路割をして、その土地の中に五坪か六坪位の建物が建つて居る。建物の位置は多く宅地の中央にあつて小さい門があり門より入口までにも又裏の方にも花畑や蔬菜畑がついて居るそして各宅地の境界は大抵低い垣根か又は針金の網を繞らしてしきつて居る。主人と家族が朝早くと夕方遲くとこの畑の中で馬鈴薯やチシャ、キャベツ等を栽培してそこで一夜を泊るのである、土曜から日曜にかけて行つてやる人もあり又毎日こゝに一定季節だけ滯在する人もある又年中をこの小さい家で暮す人もある。

多くは都會の騒々しさ繁雑さに倦いて靜かな自然に憧憬の念を懐いてたまらなく成つた人々がこの風の家を希望するのである。

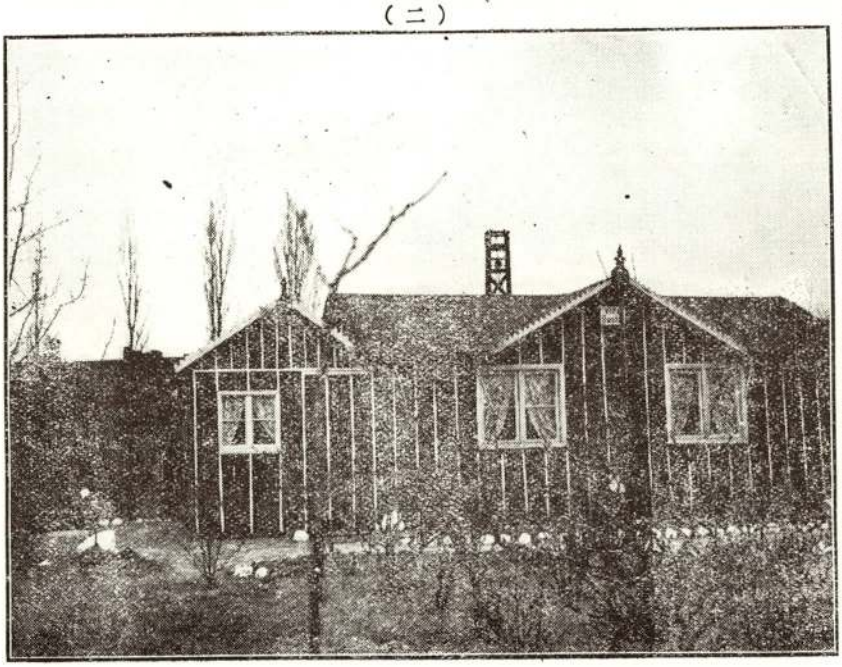
即ち田園生活者の小舍で頗る簡單なものである。今茲に掲

伯林郊外ブランケンフエルドのコロニーエンホイゼルン

（一）



（二）



げた寫眞は獨逸伯林市の郊外ブランケンフエルドにあるコロニーエン、ホイゼル中の代表的のもので外壁は素板張りで防腐劑（クレヲソート又はコールタール）を塗り窓の額縁だけが白いペンキ塗となりガラス窓には眞白の薄いカーテンがかゝつて居る。内部には寢臺が一つか二つ列んでその傍は土間の應接間兼作業室に成つて居る。畑は大體八割まで野菜もの主として葉菜類が育てられ二割ばかりの地積が花卉の栽培に充てられて居る。

さて、このコロニーエンハウスを眞似て造つたのが私のコロ、ハウスでコロハウスはコロニアル、ハウスの略字であるKolo Hous と云ふ名で世間にこの種の小住宅を奬勵しようと思つて自分で土地を選び先月から建てゝ見た。それが八月の廿三日に漸く落成したので、茲にこれを諸彦の前に述べたいと思ふのである。

（二）アロツトメント ガーテン

田園生活者は御承知のことゝ思ふが英國にアロツトメントガーテン（Allotment Garden）と云ふものが流行する。これはコロニアル、ハウスとは又少々異なつたもので日本では區分農場又は家庭園等と譯して居る。即ち一反や二反と云ふ廣い畑を幾つかに分割して一つの單位を三十坪又は五十坪としこれをその地方の住民に貸與してその内で農業を營ませるものを云ふので時に自分の住宅から分離して少々遠方にあつても差支ない、又毎日その農場に住んで居なくても時々こゝに働けばよいのである。この種の園圃は都會生活者の一の娯樂として經營されて居る場合が多い。

英國では歐洲戰爭の際食料品が外國から輸入し難く成り内地の人々が一般に野菜を購ふことが容易でない。野菜のみならず麥や馬鈴薯の如き主食物さへ缺乏したので國民一般に自給自足の方法を奬勵して自分の家で消費する食物は成るべく自分の家で作りださせると云ふ政策のもとに各人民共に一定の土地を分與して自家用の食物を自分で作ると云ふ方法をとらせた。それ以來このアロツトメント ガーデンが英國に澤山出來てこれに關し政府は保護の法律を澤山に出したと云ふ有樣で今日では各地の田園都市は勿論郊外の土地にもこのアロツトメントガーデンが附隨して居る。

このアロツトメントを有つ都會人もコロニアル、ハウスに住まうと考ゆる都會人と同じような考えを持つて居る者で、これは土に親しまんとする人間の慾求の發露と見るべきもので現代の都市人にはあり勝ちの考へである。このアロツトメントとコロニアルハウスの二つの方法によつて神經を尖らして居る都會人の生活を温なしいおだやかな氣質に柔げることが出來る。私は將來都會で忙がしく働いて居る人の爲に、このコロニアル、ハウスを作つて住んで見ることゝアロツトメントガーデを借り受けて土に親しんで見られんことを切に希望する。よしそれが一年中そこに生活することは能はぬとしても或は土曜より日曜にかけて一週一回の慰安所としてでも又は夏だけの避暑地的別莊と云ふ意味に於てでも或は春秋の時候のいゝ季節のみの住家としてでもこの種の家を利用されたく希望するのである。

三　私の建てたコロ、ハウス

今出來上つたのでまだ寫眞にも撮つてないが御希望があれば何時でも御案内します。

所は大阪市の東郊十哩大阪鐵道沿線道明寺驛から約七町東に片山と云ふ小高い丘がある。これは玉手山遊園のある叡福

寺の山の嶺が次第に低く北に延びた突端のところで反圃から約三十尺高みにある。

此所から眺めると東は奈良縣境の山々が重なつてその間を大和川が流れ出て居る。そして長い〳〵國分の橋が眼の下に見わる。人々はこゝを河内耶馬溪と呼んで居る。それがクヌギ林の間からチラ〳〵と見わる一角の畑地に、此所を私のコロ、ハウスを建てる屈竟の地として選んだのは今年の正月であつた。大阪の茶の湯の御友達に相當の地主があつて其の人の世話で、その妹さんかの持つて居るこの山を約三百坪無理に分割して貰つた。そしてその大部分を蜜柑畑と桃畑とに仕立てつゝあるが將來は各種の果樹を五六本づゝ植ゑて年中果物の絶えないようにするつもりである。

小さい家はこの宅地の奥に(配置圖を見て被下い)建てゝ、その前に一本の苑路を眞直にとりその兩側を蔬菜畑と花畑とに設計しました。

私は都會の不自然な生活に倦いたのです。この秋には思ふ存分に土地の臭いをかぎ自然の懐に抱擁されて見たいと云ふ望みからこんな原始的な野蠻な生活を試みるのであります。

畑には先月にサツマイモとエダマメを植て置きましたが愈々引越しをしようと云ふ今日ではもうイモも根が張つて小さいオイモサンがさがつてきます。エダマメも今日は紫色の小さな可憐な花をつけて草叢の中に主人の來るのを待つて居ます。此の秋にはイモ名月とマメ名月がこのコロ、ハウス出で來るかと思ふとトテもカフエーやレストーランで洋酒を傾ける愉快さなどは思付かなく感じます。

建物は平家一棟間口三間奥行二間六坪しかありません。然し成るべく涼しくする爲に屋根をセメント瓦で葺き屋根裏と天井板の間に十分の空虚を作つて小さい風穴からイツモ風が吹き通して屋根の熱を持つて逃げてくれるように致しました

又床の下にも西から東へと小さい換氣口を備へました。そして涼しい本蔭が窓を蔽ひ又屋根をもかぶせるように幸ひもとから生つて居た大きな柿の樹の下を取り清めて建てました井戸と便所は家の兩側に少し離して作りましたが井戸は山地で水が低いので四間餘りも掘らせました。便所は一穴とし下を煉瓦積にしました。

部屋は四疊半一つで周圍に一尺餘りの板張りを附し臺所を巾三尺長四尺の板の間として此所に久能木式大型石油厨爐を据え料理臺を置きました。

入口を西側の南手につけドア式とし土間は少し高目に盛土して叩きにしました。土間の廣さは矢張四疊半位で中央に丸形のテーブル一つと倚子三脚を置き友達でも訪ねて來た時はこゝが客間となり日常は食堂で作業室を兼ねます。

窓が西に一つ南北に一つ東に二つあけましたから夏はとても涼しい。(冬は寒いでしようが)

盜人の這入らぬように用心鐵物をつけて北だけはヒヂカケ窓にし硝子障子を「上げ溝」にして嵌め込んであります。

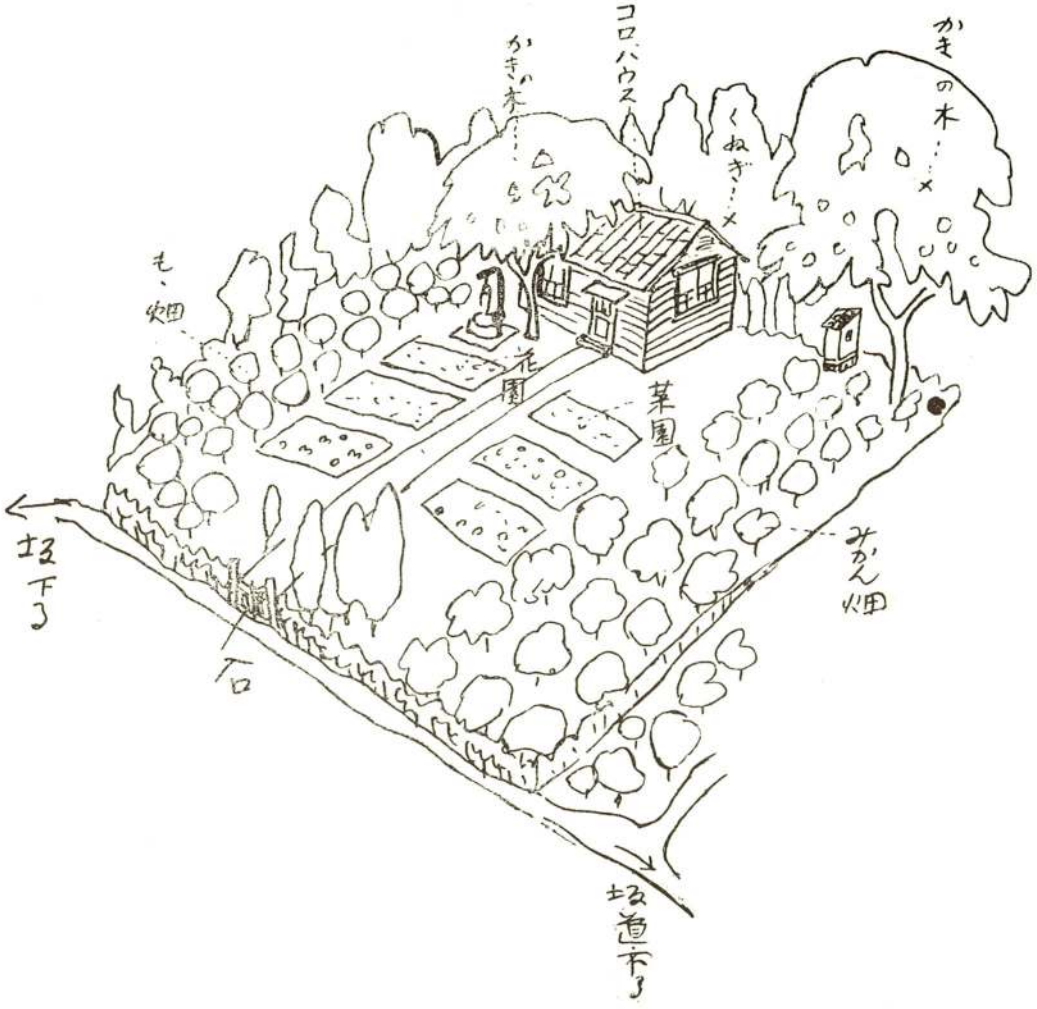
壁は外廻り並六分板下見張とし素板防腐劑塗りで窓の額縁だけが白ペンキ塗となつて居る。内廻りは眞壁色漆喰です。

工事は土地の建築家で麻埜組と云ふのが請負ひ樋口さんに監督して貰ひました。工費は三百圓餘りで一切が出來上りました。

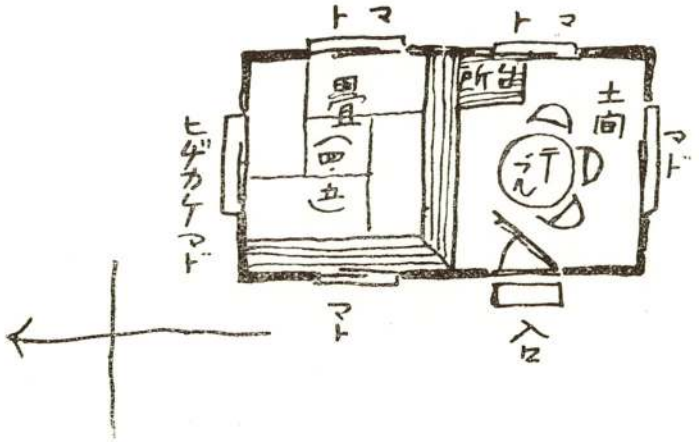
日本でも此頃テント村(Camping)とか林間學校とか自然に親しむ方法が色々と都會の人に考へられて參りましたが私はこのコロ、ハウスを今一歩徹底した此種の企てとして一般に御奬めしたいと思ひます。

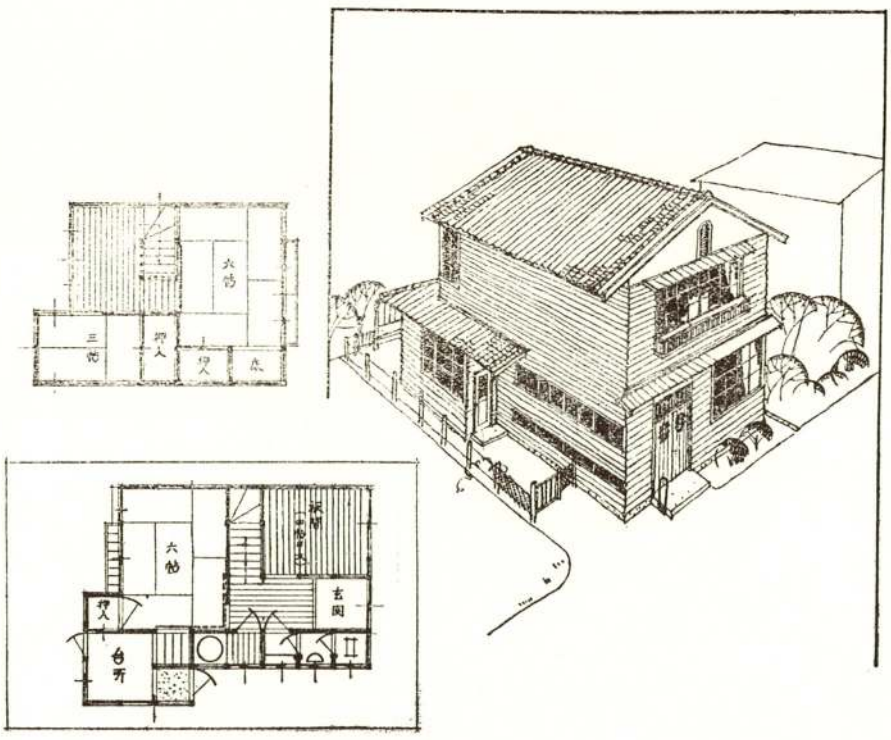
(大正一四、八、二三認)

景全スウハ、ロコ


かきの木…×
コロハウス
かき木…
くぬぎ…×
も、畑
花園
菜園
坂下る
石
みかん畑
坂道下る

国取尚


トマ
トマ
所
畳(四五)
土間
ヒゲカケマド
マド
マト
入口



―― 案　私　宅　住 ――

(一)



誤解されたる都市計畫と理解されざる其の法制

田中清志

大阪の都市計畫運動に對し、最近相亞いで本誌を通じ投せられた二個の礫がある。其の一つは伊東俊雄氏の『市民の理解を基調とする都市計畫』（八輯六號所載）で他の一つは白井和夫氏の『吾人に家なし安ぞ祖國あらむ』（八輯八號所載）である。私は此の二論文を拜讀し、二氏の何れもが大阪市都市計畫の當事者であらせられることを思ひ合せて、暫らくは唖然たらざるを得なかつたのである。乃ち廻らぬ筆を走らし茲に『誤解されたる都市計畫と理解されざる其の法制』に就いて愚見を綴らむとするのである。勢ひ二氏の御高說の枝葉を批判し、甚しくは非難せむ氣勢となるとも、未知の二氏に怨恨を有さう筈なき理合から御寬恕ありたい。

我國に於ける近世都市計畫運動の第一蠢動以來四十餘年の今日、近世都市計畫の眞意義が尙ほ誤解され盡して居ることは、近來世の識者の著しく是認して居る所であらう。然らば此の誤解を如何にして解くべきかと言ふ事は所謂都市計畫の遲々ながらにも進展しつゝあるの秋、刻下の急務であらねばならぬ。而してそれには『何が故に此の誤解を招來したか』に就いて究める必要がある、私はこれを躊躇なく『識者の誤りたる宣傳と當事者の心なき作爲に因る』と斷言し得る。

識者の誤りたる宣傳即ち古くは明治初年市區改正の高調時代のそれが、當時外遊者の觀た巴里邊りの美華壯麗の移植模倣の企圖であり、近くは近世都市計畫運動の先驅が、甚しく國情を異にする歐米のそれの皮相の紹介であり、何れも都市計畫の歸結を告ぐに急なるの餘り、徒らに其の美を說き其の長を歎じ、期せずして遂に今日の如く『都市計畫は奢侈不急の閑事業』なるかに誤解なさしめたのである。

心なき當事者の功利への焦燥は、他はさて置き、大阪に於ける從來の所謂都市計畫事業をして、眞に大阪の健全なる發

達を促進するに忠實なる策でなく、既存部の然も中樞地の美化に外ならぬとも見らるゝ進路に向はしめた。これを具體的に言へば、大阪市が都市計畫事業として巨金を投じ爲さむとし又爲しつゝある誤謬の訂正としての道路の新設擴張は、比較的僅少の資に因て巨利を享け得べき彼の渾沌たる周圍部の閉塞され切つた交通路の開拓にも非ず亦急激なる發達途上に在る接續郊外の準備的善導的のそれにもあらで、現在不充分ながらも稍々整備せる中心部に於ける暴君的所業なのである（これを經濟上より見て、今日最早その絶頂に到達せりと見らるゝ都市中心部の土地の地價と近郊外郊の高騰途中に在る土地の地價と、二者將來の增價額の比率が事業費に及ぼす影響と、兩者完成後の効果の比は如何に？）

所謂識者の宣傳と當事者の意圖とが、兩々相援けて彌が上にも誤解を强要した形となつて居るものは一夜漬けの都市計畫宣傳と決定の手續である。都市計畫の第一決定を要すべきものは、曰く都市計畫區域であるとか、曰く道路計畫であるとか、殊更に分解し順序づけつゝあることは希ましからぬ。都市計畫自體が都市を健全に利便に且つ快適にと言ふ要求を近代科學の力に藉りて解決せうとする綜合事業である限り、都市計畫區域の決定する時、又同時に地域も地區も、道路網も運河網も、公園も遊園も、鐵道も軌道も、苟くも都市計畫の目的を達成するに必要なる事項の計畫は凡て確定せねばならぬ。少くとも當務者に於ては確立して在らねばならぬものである、都市計畫法制の精神も亦さるものと信ずる。

それにつけても伊東氏が『大阪都市計畫區域内の地域制も漸やく決定を見て』『地域制は大正八年法律第三十七號市街地建築物法に於て既定、今春のそれは其の差別規定夫々の適用區域の指定で「地域制の活現」とでも言ふべきものであらう。揚足取りのやうでよくないが白井氏も「今春又地域制の制定を見るにあたつて」と言はれて居るから一寸附記する』『喜びに堪えぬ所である』と無條件で言はれることは好いであらうか。氏も認めらるゝ如く所有權に大なる制限を加へる此の地域制が、それに對して保護を與ふべき何等の施設をも計畫爲されないで單獨に施行されることは寧ろ憂ふべきことではあるまいか。例へば或種の工場は工業地域内に非ざれば建築し得ざる法の規定に對して、今回工業地域として指定せられた大部を占むるは、將來はさておき、現在水陸交通の頗る不便なる神崎川沿岸の地であるが、彼の地へ直ちにそれらの工場を建築して經營し得るであらうか、若し個人的に大規模の施設を爲すに非ざれば即ち大資本を投ずる者に非ざれば經營爲し難しとならば、惹いて事業の發達を阻害するの結果となりはすまいか。

伊東氏は又『交通系統の確立と地域の決定とが其の根幹を爲す』と斷定されて居ることも、各論でならば兎に角概括論としては同じ意味に於て首肯爲し難い。

一般市民が地域制に對して餘りに無理解なることは同感であるが、私達（伊東氏も含めて）はこれを冷然と『其の責悉く關係當局者の怯惰と不懇切に在るもの』なぞと恰も第三者でゞもあるかの如く斷じて憚らざるもの』であらうか。寧ろ私は當局者が『官公報上の形式的の公告（大阪市公報のそれは官報のそれと實質に於て大なる相違があつたかに聽くが）や新聞紙の責任なき報導や乃至は電車内に實施期日を廣告す

る位の方法に甘んぜず大膽にパンフレットに雜誌に、或は講演に（講演そのものゝ内容には幾多の不滿を有するが）機會と方法の凡てを捕へて拂ひつゝある熱心な努力を汲みたいと思ふ。（ものゝ數に這入らぬ私迄が拙稿『大阪の都市計畫』を公にして居ることから考へて頂きたい）

私は却つて伊東氏が『ボストン市が其の地域制々定に際し採つた公開討議及發育宣傳の手段』や、紐育市に於ける『地域制實施の狀況』を、『吾國のそれに比して興味ある對照』として述べられる暇に、大阪都市計畫の當事者として、吾地域制を一般により徹底せしむる爲の方途を講ぜられなかつたことを遺憾（白井氏に對しても）とするものである。

次に白井氏の言はるゝ『學者にあらざる都市計畫者』の復活は私も望むで止まない所である。が然し何故に、『バーナップの所謂「都市計畫は技師の仕事ではない」は强聲する必要を感じて居』られるかは解するに苦しむ。まさか今日所謂行政家の權謀術數の肝要を痛感されてのことゝも思はれないが

私は一般行政當事者が、（これは獨り都市計畫に限らぬも理論上亦實際上都市計畫として決定すべきことの至當なるものなるにも拘らず、都市計畫法の複續なる手續を經るも何等の利なき如き場合、所謂事務問題を敢て爲すこと、即ち都市計畫法制の運用（？）も亦煩雜を避けんとする傾向あるを指摘して居た大阪市の、中央卸賣市場建設一件の如きである。

白井氏は『下水道、屠場等の計畫が如何程市民の腦裡に都市計畫（事業）なりとして刻まれて居る？』と言はれるが斯く當然都市計畫として爲さるべき事項（强いて都市計畫事業とは言はぬ）少くとも都市計畫委員會に諮問され附議されべき事項が、かゝる有樣で何として市民を笑ひ、當局を（白井氏御自身等を）誹り得やう。

斯くして都市計畫即ち道路計畫（道路事業には道路法の補助以外に受益者負擔金が徵收し得られるからこれ許りは大々的に都市計畫事業として執行されて居る）而して榮耀沙汰と誤解されるのに無理はないやうの氣もする。

然し『之を要するに現今の都市計畫は其の方法と目標を誤つて居る』とも强ち思はれない。如何にも大阪市に於ける都市計畫の進行そのものや法の運用は方法も目標も誤つて居るかも知れぬ（大阪市に職を有せらるゝ白井氏の折紙付であれば）が都市計畫そのものゝ精神や法則は誤つた方法にも目標にも向つて立つては居ないものと確信する。

要するに結局は私も「都市計畫の不徹底否誤解を悲む」點に於て二氏同樣人後に落つるものではない。只それを託つ前に、將來に亘つて更に誤解を重ねしめぬ樣、せめて我々丈けでも相互に心掛けたいと希ふのみである。



英國に於ける都市經營

K S

はしがき

現代都市に於ける諸問題を以て、有力なる社會問題と見る私は、都市の諸形態及び其組織を觀察する事も又重要なる仕事の一つと見るが故に、此の點に就て最もクラシックな發達を遂げつゝある、英國に於ける都市の經營組織を論ずる事も無意義であるまいと信ずる立場から、米國に於ける都市問題研究家として有名なる、フレデリック、ハーウ氏の著「近代都市とその諸問題」(F. C. Howe, The Modern City and its problems, 1915, New York.) 中に記述されたる所に從ひ本稿を執筆したのである。(Ibid, pp 132—148. chap, XI.) 冠頭に附してその出所を斷つて置く。

都市(City)或は都邑(Boroughs)と云ふ呼び方は、當時英國に於て發せられたもので、一八三五年の都市組合法 (Municipal Corporation Act.) の下に於て組織されたものである。そしてその何れもが、各々別々に離れて存在してゐたものが、右の都市組合法の發布によつて二三世紀の間に、それが一つの都市としての形を帶ぶるに至つたものである。是れ等の都市は此の法律と、そしてその次期に於ける改訂によつて、愈々都市としての形を具體化する事になつた。

都市の勢力とか、權威とかの凡ては、大なる會議 (Council) に於て設定せられたる區(Words)に基づいて決定せらるゝ。その市の市長は、その議員たるものから會議に於て選擧せられた上で決定される。市の吏員は多く一定の計畫に基いて市の政務を遂行するのであつて、何れも有力なる一定の計畫を發見する事を努むる。地方の敎化は地方會議 (Local Council) に於て管理されるのである、這ふした事が、英國都市の組立てゞある、而してその管理の形式は、凡べて地方的權力の發揮のために行はるゝものである。

市は數多の區に分割され各區から三人の議員(Committee)を選出し、而して毎年それを改選するのである、市長は直接に選擧によつて市參事會から選ばれる。又同じく議員の配置についてもそうである。大低の市は十五の區に分劃され、何れも四十八名の議員を以て市會を構成するが、若干の市に於ては市會は大なる團體を爲す事もある。倫敦府(Country of London)の會議は、首府であるからでもあるが、一一八名の議員を有して居る。マンチエスター市會は一〇三名の議員、リヴアプールに於ては一三四名、及びグラスゴーに於ては七五名であるが、さて婦人も又議員たるの被選擧權を持つてゐるので、最近それらによつて議席を占むるものが多くなつて來た樣である。而してそれらの人々は市の中心から十五哩以內に居住して居るもので、一定の自己の財產を有するもの、又は一定數の俸給によつて生活してゐるものから選ばれる。而し議員たるものは、彼の代表する區に於て生活するの必要はない。そしてその議員の多くは、大低そのサバーブに於て生活し、只だ事務を市內に取つてゐるものが多いのである。今如斯權能を與へられて居る團體は、どこまでも理知に基いて行動すべき義務を負ひ、此の狀態が英國諸都市の經營に當つての一定不變の要素となつてゐるのである。次にその市參事會に就て記述して見たいと思ふ。

市參事會員(Aldermen)

市參事會の組織に就ては、英國の諸都市はその市會議員(Municipal Committee)たるもの、及び市民(Citizens)の以外より優秀なる人物を市會に於て選出し、凡べて十七名によつて組織される。而して會議の席にはその十七名の中から三分の一宛出席しそしてそれ等は五年目毎に改選される。又その數員中三分の一は二年目毎に交替の爲め退く事になつて居る又敗北した候補者は、市參事會員として選出されると云ふ樣な事は滅多にない。再選は規定によつて行はれるが、會議では普通にそうした人々を發見する事が出來る。又そうした人々は、或る材能によつて、一世紀の四分の一も奉仕する人があるのである。

彼等は普通の議員と相異するのは、極めて微細なる點に於てである、市參事會員とは只だ普通の議員より一段高位に引き上げられたまでのものであつて、彼等は全體の問題の上に於ては、議員と共に議席につき、又は投票もするが、特異なるは彼等の間に行はるゝ選擧の方法であり、又偉大なる戒嚴を示すために彼の事務所へ隨行員を伴ふ事が、相異なるのみである。市參事會員中には、長き奉仕の卓見と、そして裁判所に於ける刑事としての席を有する事によつて、議長たるの重要なる地位を維持せんとするものもある。

任命と選擧(Nomination and Election)

或る一定の資格を有するものが、男子たると女子たるとを不問、二人の提議によつて八人の助言と共に申請されて、會議に任命され得る、それは又第一次的の、會議、或は豫選等によるものではない。

市會の選擧は大抵十一月に行はれるのであるが、議會の選擧と同一時期に行はるゝ時は、それは別に分離した上で行はれる。そしてその投票は、單記又は無記名であつて、選擧區

からの候補者を、一人或は數名に亘つて、その姓名だけ記される。併し乍らそれは政黨を指摘する事は出來ない。市會議員の選擧法は、政黨を承認し指摘する事を認めてゐないのである、アルファーベット順に記されたる候補者の各姓名を、彼等は選擇した上で投票するのである。

政黨者流に取つては、候補者の最大多數を獲得すべく豫期するであらうが、併し乍ら、眞實は反對である。全く屢々一つの選擧區に於て爭はないものはないであらう、如何なる議員と雖も、相手に對しては滿足するまで、極めて强く壓倒する。併し義務的に相手の平穩を亂す樣な事をしない。又若干の市の選擧に於ては、彼等全候補者は、市會のために外部的な爭鬪に終始した事もあつた。一八九九年の選擧には、一〇三の都邑では議席中二分の一よりも稍々少なき程度の減少に就て反對した事があつた。又十三の都市では、單に議員間の爭に止まつた事もあつたのである。

黨派からの候補者は、保守黨、自由黨、勞働黨の各地方委員によつて、各選擧せられるが、それはどの候補者と雖も、議會に於ける候補者の分類と、全く同一なる實例の上に終始するものである。保守黨の候補者は、地主階級を代表し、自由黨の候補者は商工階級を立場とし、勞働黨の候補者は、社會主義者、勞働者團體等から選ばれる。會議の組織に就ては或る部では、市參事會員及び市の理事者の選擧及びその遂行すべき政策等の決定は、一つの政治的遊戲として試みられる事がある。

單純なる經營 (Simplicity of Administration)

都市の特質の地味なのは、英國の都市をして成功に導いた一つの重要なる意義である。それは併し乍ら、選ばれる所の市の事務や、又選擇せられたる選擧人のために、その如く容易であつたかも知れない。そして又大低直接責任が市の事務及びその組み立の中に添加するに於て、何時も會議それ自體の組織が、最も明瞭に、その稱讚及び譴責の價値を定める。故に行政及び立法の各部の間には爭議は起らない。そのためには市會は一つの部課である事が出來る。又時にはそうした爭議があるとしても、極めて單純に處理さるゝのであつて、却へつて日々の新聞の方が甚だ復雜に報導してゐるのである市會の選擧運動は屢々熱し易く、偶には爭議を引き起す事もあるが、殊に產業及び社會問題に關聯する場合に於ては、特に然りである。倫敦府の選擧に於ても、そうした事が生じた事がある。平素は機械的に大膽なる自立振りを示してゐても選擧の場合は、どんな小さな選擧人に對しても、粘着力强く政黨の爲めに叩頭するものである。北米合衆國でもやはりそうした事が免れない樣である。

委員會の組織

市會が能動的に管理する事業は、市會中の委員會によつて實行さるゝのであるが、如何なる小企模なものであるとしても、各委員會に於てそれを決定するものである。支配的黨派(Dominant Party)より選出された委員中の高級者(Ranking Members)が、屢々委員長として選ばれるが、今若しその(Chairman)に選ばれたる人にして大なる勢力を有する人であらば、彼の行動は大なる影響を與へる。市長は職制によつて

凡べての委員會の委員となるが、併し乍ら、彼は彼の參考となるべき事項を、委員會中から取る事は極めて稀れである。大都市に於ては十二から二十迄の常設委員會（Standing Committee）があつて、その各個の委員會には副委員會（Sub-Committees）を分置し、事業の特別なる事務を依託されるのである。

而してこれらの委員會の何れもは市會を補ひ、各委員會はその委員組織の更改のために毎年改選される。併し乍ら委員中大抵の人は再選されるが、中には移動を見る事もある。併し乍ら年中少々の異動は別に行はれるのである。

委員會の事務の運用は、各委員會の委員長及び主事並びにその他の職員によつて管理される。そしてその人々は、その事務に從事する必要なる準備のために、固定せる俸給や賃銀を豫算によつて與へられて居る。彼等の行動の凡べては、如何なる方法にても時間中は諸事實に就て參考となるべき事實を調査し、委員會に於て是認せらるゝためにそれを提出するそして一年中の結果を、一つの浩瀚なる報告書に作成するのが、委員會として爲すべき仕事である。

一の重要なる委員會の委員長は、實際的に大なる威嚴を持つてゐる。此等の委員會は、特に市民のために、市街鐵道（ストリート・レイルウエー）や瓦斯及び電燈事業（エレクトリック・ワーク）を管理するのであるが、その委員會には建設的な技倆を有する委員があつて、機會ある毎にそれを發揮する。委員會の委員の如何なる一人でも、大鐵道會社の監督者の如く公平でないものはない。そしてそれは委員會の審議は細分されてゐるからでもあるが、活動の實際には大なる自由が規定されてゐるからでもある。都市の實際的活動のために、何故かく多數の委員會があるかと云ふに、各委員會が、何れも市の事務を小規模に審議する樣になつてゐるからである。

不變の助成者

英國の都市は、獨逸の都市が持つてゐる樣な科學的智識に基づいて、その經營が發達したのではない。而して又、市長や、市參事會員及び市會議員は、老練家（エキスペート）でもない。それは一個の市の長老（Magistrat）としてその地位を占めてゐるのである。而して彼等は俸給と云ふべきものを、決して市民より受けてはゐない。只だ一つの常識の助成者（Permanent Expert Assistance）たるに止まるのである。とは云へ、市の吏員や、各部課のマネージャーは、彼等とは又別である。而して大抵はその市の吏員や主任級のものは、その市の住民から養成される。稀れには其の他の都市からの競爭者或は、その部署の適任者等の如き進歩したるものゝ中から、決定を見る事がある。而しそれは凡そ Praivate Corporation の管理人としてゞある。彼等の大抵はよき俸給や、よき地方的地位（Good Local Position）を受けてゐる、各委員會の事務の主任は、委員會のため、市會のために、終局まで管理の責任を有する。彼等は使用されつゝある下僚と共に、いつも不變の地位を與へられてゐるが、稀れには政治的の理由に依つてその地位に移變のある事もある。

市長

市長は市會の議長、及び市會に於て優れたる責任者である

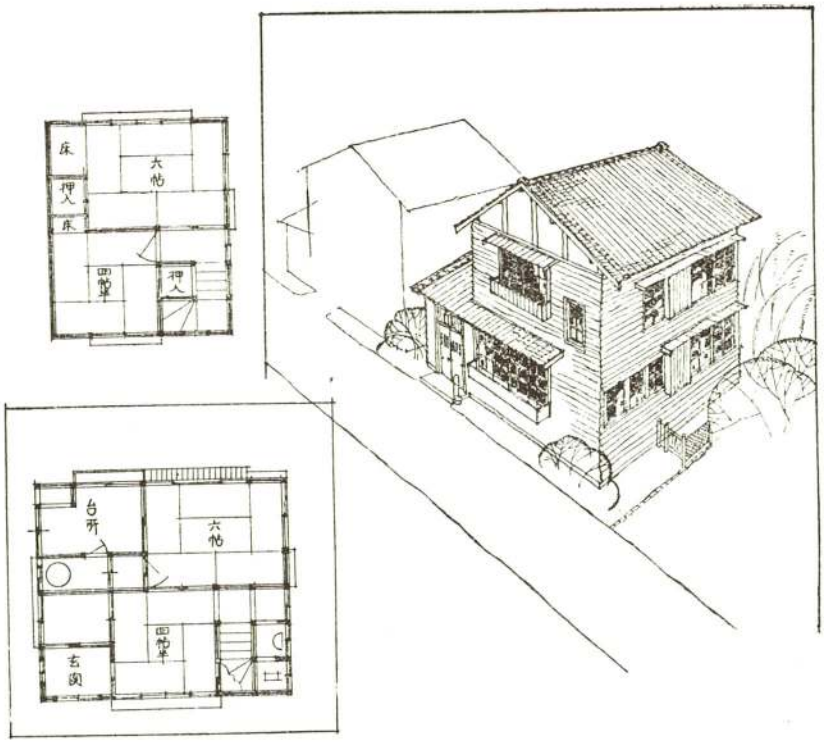
との理由によつて、屢々そうした人々から選擧されるのである。その職務は執行者としてよりも、寧ろ名義上の職に止まるものが多いのである。そして市長は否認權（Veto Power）を持たない、又各部局の配置に當つても直接しないのが通例である。市政遂行上の成功及び失敗のために、市長はその責に任ずる樣な事はない。英國都市の組織は獨逸或は米國の組織の如く、奬勵とか云ふ政策を實行しない。そして結果に於てはイングランドの如き、僅か乍らも名市長を有してゐた。一八七三年から一八七六年までバーミンガムの市長であつたジョセフ、チエンバーレン等も又その一人である。

市長や又大學の長官等はスコツトランドに於ては、同じくこれを Mayor として稱へたのであるが、そは一つの社會的地位(Social Position)を示したものであつた。

市長は公共の事務的の事は如何なる場合でも、その市の代表者となるのである。或る時は漫遊の途次旅行者までが、彼に敬意を表する事もある。市長は公的機關の名儀上の長となり、時には勞働爭議の仲裁者(Arbitrate)となる事もある。そうした凡ゆる公共的事務の上に市を代表し、大なる威嚴を持つものである。彼のその市に於ける實際的の勢力は、全英國に於ける英國皇帝の如くである。彼は平和の正義及び價値なき事件の處理に當つても、等しく長官としてその椅子に就くのである。

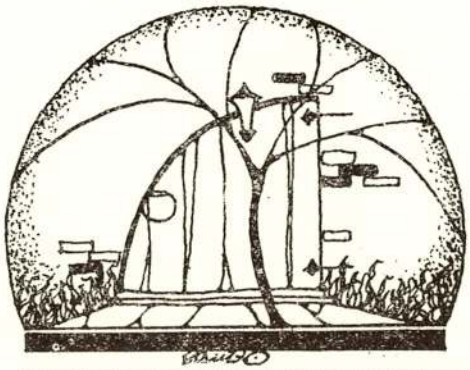
最早や勢力の衰へてゐるにも不拘、市長の地位は、如何なる紳士又は市會議員の希望を繼ぐに足る目的物である。大なる諸都市に於ては、市政に成功せる市長は、彼の勤務の承認としてナイトに列せらるゝ事がある。市長それ自身は正しき任期の滿了及び個人的なる重き犧牲を拂へる事によつて、それを受くるに至るものである。又市長には彼の受領すべき俸給は與へられてゐない。そして大なる都市に於ては、彼はその地位を獲得するためには大なる富を有する人でなければならぬ。何故なれば、彼の社會的消費は頗る多岐に亘るからである。大都市の或る部分では、倫敦及びリバプール並にダブリンの如き所では、市長のために特に公共的な邸宅(Mansion House)を用意してゐる。其の他の都市では市長に對して一定の俸給を彼のために支出してゐる。又若干の都市では、彼の社會的消費のために特別なる私用金（機密費 Special Appropriation）を取つてゐる。ダブリンの機密費は一ケ年間に彼のために八千弗、ブリストンでは五千弗、同じくエヂンバラでも同額の機密費を支出してゐる、然し乍ら又如何なる機密費も又出してゐない都市もあるが、それ等の所では市長は必要に應じて（消費すべき事件の發生する毎に）一定の制限の下に、一ケ年二萬弗から五萬弗までの機密費を支出せしむるのである。

× × × × ×



案　私　宅　住

（二）



市營苗圃の必要と苗木の育成

——街路樹に就いての研究（續）——

方米治郎

街路樹の苗木が公私何れの苗圃で養成されるにしてもその方法は勿論同一であるが、一般に實生繁殖法によるものは善良な直根を得て、然もそれが數年間眞直に成長する作用を務めるから鬚根の多くを損傷せずして克く成木に育てあげることが出來る。苗木が成木に達するまでに充分の成長を遂げるには鬚根が殊に大切であつて、枯損の大部分は原因を探査すると根部の移植による損傷に基く場合が多いのである。實生苗を丈夫に育てる爲には苗が數呎の高さに達し直根が數吋の間に是非共移植して置かねばならない。而して苗木畑は五呎の間隔に列を造つて植え付けるので、この際に根部の不用な部分を剪除して有用な鬚根を多く發生せしむる樣にせねばならない。更に一二年を經て又移植して横根を短くすることが大切で、同樣にして植出しまでに毎年若くは隔年位にこの仕事を繰り返さねばならない。斯くすれば鬚根の多い丈夫な苗が得られ肥料の供給に對し吸收よく、容易に移植が出來て完全に活着する理想的な成木が得られるのである。樹木は凡て横根が徒らに多いよりは鬚根の多い方が望ましいので、鬚根が多ければ移植によ

今假に或る地方に適當した街路樹の種類が一つ決定したとしても、同一種のみで全市の街路を飾ることは餘りに單純であるから考慮せねばならない。そこで市營苗圃の要求が生れるので、或る樹種が其地方に對しての適否如何を驗すとか又は新たに適應した樹種を栽培するとか試驗場としての使命を果たすことが出來るのである。

又樹木は堀上移植に際し少時間内にも屢々回復し難い害を被るものであつて、若し堀上げたものを長時間地上に放置せば時には主根を養ふ大切な鬚根を枯損して了ふ恐れがある、それが爲に新たに發生するまでは樹本の伸長を阻止し甚だしきは梢端を枯損せしむることさへあるのである。苗圃を有つ都市では容易に同種又は數種の成木を一時に多數を得らるゝのみならず、既植の病害其他の枯損木の補充に際しても同種で樹齡の似寄のものを同時に多數を補給し得る多大の利益がある。要するに市營苗圃を有つ主な利益は安全な丈夫な成木を隨時に得られることゝ、都市自身が苗木の育成をやつてゐるから市價に關係なく自由に自給し得ることである。

つて成長を中止せしむる樣な憂もないのである。本來根は植込の位置に於て樹木の一部を形成してゐるものであるから、幹も樹冠も又根に關聯して注意せねばならない。低い箇所の小枝や芽は時々摘除して上部の葉群が剪除されるまで不整な枝梢を整理せねばならない。完全な整枝を施すには幹の徑が二吋半乃至三吋のものでは地上七呎乃至十呎は枝を拂はねばならない。而して樹高全長が十呎乃至十五呎は必要としてある。米國の規定では地上七八呎までは枝を拂ふことになつてゐる。植込の際に殘した下枝は植込後數年間に漸次剪定整理せねばならない。この剪定による利益を擧ぐると、下枝を形成する爲の諸細胞の勢力が樹の主幹の伸長肥大に注がれる事である。かくして何處の街路の樹木でも或る一定の高さと型にまで立派に仕上けることが出來るのである。

右に記したもの以上の大さのものを用ふることは移植による被害の危險があつて、各樹木の價値を減ずる憂があるから一般の栽植用には避くべきである。枯損木の一二の補充にも夫々標本的なものを揃へて置かねばならないから、そこにも苗圃の必要が感ぜられるのである。この目的丈でも當然苗圃を經營して樹木を養成せねばならない。

パリ市は他に誇り得る完備した市營苗圃を有つてゐる。パリの街路樹は密接して植えられ常も美しい外觀を維持してゐるが、中には稀に三十尺以上に伸長したものもある。整姿や樹高を一定標準にして置くことは管理者にとつて損害や失敗が少く凡てに好都合である。設備の完全なパリの公營苗圃では十五年乃至二十年間に樹木を更新する事になつてゐる。この苗圃では苗木が約二十呎間隔に栽植されてその成育を充分助長出來るやうになつてゐる。そして枝梢は主幹が地上の規定高の點までは小枝が剪定除去され、幼苗は凡て細心な注意と周到な管理によつて育てられるのである。冬苗木は四年目毎に根部の剪定を施して根の荒けるのを防ぐ爲に樹木の周圍に圓狀の溝を堀り出來る丈奇麗に根を刈り込み置くべきである。土壤も時々更新して叮嚀に覆土して置くことが必要でこの溝の大小形狀は勿論樹木の大小に比例するものである。

パリ市の樹木管理局の定規によると移植すべき樹木の鉢附、溝の直徑等大約次の表に示す通りである。

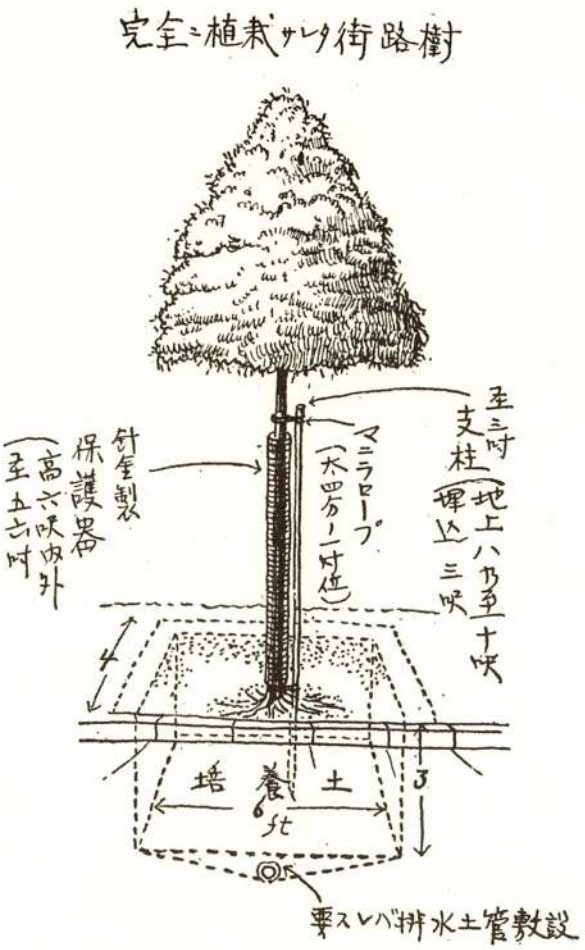
地上三呎ノ直徑	鉢附ノ直徑	鉢附ノ深サ
三吋—五吋	三呎—三呎三吋	二呎
五½吋—八吋	三呎四吋—三呎一〇吋	二呎六吋
八½吋—一二吋	四呎—五呎	三呎
一二½吋—一四吋	五呎一〇吋—六呎四吋	三呎四吋
一四½吋 一八呎	七呎六吋—八呎二吋	四呎

街路樹の定植(挿圖參照)

若し都市にして如上の公營苗圃を有つならば樹木は要求に應じ直ちに供給し得るであらうが、然らざれば一回毎に遠方の供給地から取寄せねばならない。かゝる塲合には何分遠距離からの搬送であるから、到着を待つて直ぐに假植すべき必要がある。この際先づ根部の乾燥を充分に防ぐ操作に着手せねばならない。この目的の爲め植穴は地盤に對し一方約三十度の角度を保ち深さ十八吋位のものが標準で、根が曲らぬ程度に於て深さを定めねばならない。そして樹木は密接して立てかけ根部へ空間の出來ぬ樣に土を覆つて置くのである。第二の列は第一の列の前側へ設けるので前のものゝ根を覆ふた土で次の植穴が自然に出來ることになる

のである。かくて苗木は安全に假植のまゝ數週間を過ごすことが出來る。

樹木の定植は優良な並木を造る第一要點であつて、何の木を如何にして植附くべきかを知了してゐるならば既に並木造成に成功してものと云つてもよいのである。樹木は定植に際し屢々不注意から根の十分伸長出來ぬ樣な小さい植穴に植えられたり、又煉瓦片や硝子屑の澤山混じた土中で根の成育を妨げられる樣なことがある。凡て何處の街路でも植込前に表土の厚さと心土の性質とを鑑定する爲に二三の空堀を試むることが肝要である。土壤は一般に貧弱な場合が多いもので、肥沃な表土は多くは勾配の地均しの時に埋沒して消失して了ふものである。それで切盛工事には特に注意を要するのは勿論であるが、盛土の場合は樹木にとつては反つて切取の際よりは一般によい場合が多く、排水の如きも心土よりは遙かに良好なことがある。それ故丈夫で良好な根を有つ樹木を切取の場所へ植えるには常も植穴の乾燥する樣に注意せねばならない。



植土の供給も最も大切なことで第一に良い土を澤山供給することが直接の結果に於ても、又永遠の經濟上からも極めて肝要なことである。樹木は少くとも植込後五六年間の成長の爲に充分肥沃な土壤を要求するものである。パリ市の規定ではこの土壤の入替即ち客土容積を三立方ヤードを標準としてゐるが、若しその現存の土壤が不良な場合には全部取替へねばならない。又貧弱であれば良いものを混和して改良せねばならない。即ち腐葉土とか純粹の盧土とか腐熟した堆肥とかを一定量まで混和してやるのである。時には少許の混和で水透しの良い肥沃な土壤になる場合もあるから土質の改善と云ふことは必ず忘れてはならない。良好な土壤は性質が均一で緊りが適度で、砂質壤土に屬した規格を備へ、耕起も容易で通氣も滿足に出來るもので、給水しても停滯せぬものでなければならない。重粘土は旱天に際し新根を破壞し、砂土は又旱天に乾燥に過ぐる害がある。木葉や刈

芝類の腐熟土は適度の濕氣を保持して良好であるから適宜混和すべきである。若し多數の植込を行ふには約一年程前から肥料と壤土とを混和して寢かせたものを用意すべきで、それには腐葉土を加ふれば申分のないものが得られる。そして可成一季に二三度の切替を行ふことが好結果を齎らすのである、新鮮なものや特許品の特別肥料は使用せない方が安全である。最も好ましい理想的なものは自然に出來上つた牧場の腐熟土で、之には牛馬の屎尿や寢藁の腐熟したものが含まれてゐるから肥料分は澤山であらう。試鑿して土壤檢査をする時には良い土が必要丈得られるか否やに就いて土質の配列狀態を注意せねばならない。それには長約六呎、巾四呎乃至八呎、深さ三呎の割合で長方形のものを堀るべきである。樹木が都合よく沃えた良土の連約脈の上に植えられるならば、植穴の深さは二呎半以上は不必要である。米國に於ては岩石の他に堅い排水性の心土を見ることがあるから植穴も底まで三呎を穿たねばならないことが多いのである。かゝる場合にはダイナマイトの棒の半量で爆破して根部が充分伸長出來る丈の水を空與へ、出來得れば水脈からの給水を容易に吸收し得るやうにせねばならない。必要な場所では植穴を充たす前に排水管をも設備して過剩の水分を最寄の下水へ導く計畫をせねばならない。かゝる場所では土壤を入れる前に下部へ礫や瓦片を入れて置くのも一策である。又濕地では樹木の根腐れを防ぐ爲に牧に完全な排水設備が必要で、三呎半乃至四呎の底まで排水計畫を施さねばならない。又不透水性の土地では水や空氣の疎通を妨げ、その結果街路樹の根を害し遂には旱抜から樹を枯死せしむるに到ることがある。

植穴が新らしい土が新古混合のもので充たされた時には緣石面から土の表面まで約一吋半の餘裕を見せて置くこと、多少の時日を經てから幹を安全にする爲に土を落ち附かす樣に心得ねばならない幹や根の保護は最も大切で殊に美しい鬚根は移植によつて直ぐ破損せられるものである。それで秋植には春に、又春植には秋に土入をすればよい。米國では一般に秋植が良好で春の伸長の準備の爲にも秋植の方が根を下ろすから優れてゐる。尙他の利益は移植作業を迅速にやればその爲の植痛みの被害も春よりは最少限度で激ひのである。定植に際しては又樹木の根の呼吸を考へ深植を避けねばならない、深植は一般に呼吸作用を妨げる恐れがある。樹幹に附けた苗木商のマークに就いても注意し、植込み前に被害を檢し舊根を刈り込み新根の發生を自然的ならしめ、撚れぬやうに、押し詰めぬやうにそして添材を要するものには幹から十吋程隔てゝ丈夫に植込を了るまでに立てるのである。この際稍々もすれば根を害し易いから注意せねばならない。材は保護器の用をする外圍の外方にすべきであるが細い銕線なれば幹に近く内方でも差支へぬ。外圍には普通銕網のものが用ひられてゐる。かくて土を根の周圍によく撒き敷き中央で四吋程盛り上げて美しく均らして灌水するのである。特に濕氣を保持する爲に藁の如きものを敷いて置くこともある。樹木は概して移植時には堀上等によつて若干の根を失ふものであるから、植込には根と樹全體との均衡を保つ爲に主枝でない前年生の小枝の三分の二丈を剪除するのが樹の將來の爲によいのである。剪定は鋭ぐ奇麗に施し丈夫な芽の形成を目的として行はねばならない。それは僅少なよりも過多な方が好ましい

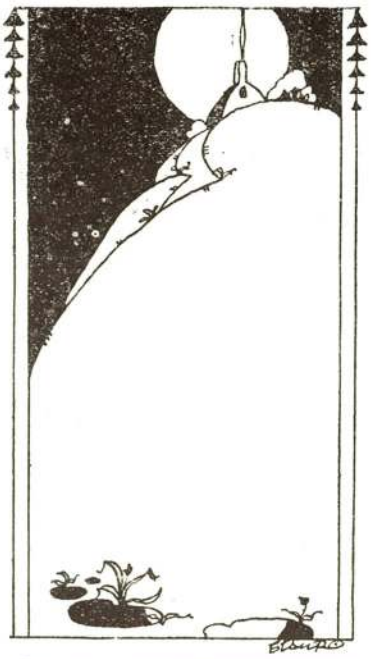
ので、若し剪定を控へ目にすると葉群の發生が乏しく小枝の末端のみが茂る傾がある。之に反して鬚根の剪除は決して過ぎてはならない。

植込後乾燥地では定植後の養生手當として灌水が大切である、先づ幹の廻りに水鉢を堀り乾燥期には特に敷藁の注意が肝要である。幹には風除養生として眞直な徑三吋、長十呎位の丸太支柱を施し、その地中に埋込む部分約四呎は皮を剝ぎとつて防腐劑クレオソートを塗り、この部を一呎程地上にも殘して丸太の腐朽を防ぐのである。風の荒い地方では支柱を十六呎位にして頂點迄も保持し　置かねばならない。特に東洋種のプラタヌスの如き葉群の軟弱なものは風害を被り易いから丈夫な支柱によつて保護せねば倒伏や折損の憂がある。支柱の取設は風の方向を考慮し目立　ぬやうに樹木の列間に入れて立てねばならない。倒伏を防ぐ爲に樹木を支柱へ結束する方法は種々あるが、最も良好と認められてゐるのはソロタロフ氏によつて考案されたもので、それは徑四分の一吋のマニラロープ　先づ四分の三吋蛇管の長八九吋のものを隔てとして卷きつけて置き、その上を支柱に取結ぶのであつて直接に支柱と樹木とが接觸することを防止するから樹皮を損傷することがないのである。樹木は三四年間は支柱を要求するがその後は幹も丈夫になつて強風にも耐えるから不必要となつてくる、一定期間を過ぎて丈夫なことが確かめられれば之を取除けばよい。樹木は又種々の動物や小供から害さるゝ事を防禦する爲の丈夫な保護器が必要である。それには大形のものと小形のものとあつて小形のものを用ふるには内側へ杖を設け、大形のものを用ふるには外側に設けるのでいる。保護器は高さ六七呎で銕製の大きなものでは尖端を直線狀から外方に少し曲げて造つてある。安價で仕上げるには二分の一吋の廢物電線を利用して長さ六呎、徑五乃至七吋の圓筒狀のものを造ればよい。この種の製作も機械力によれば容易で灌水用のゴムホースの古物が銕線の頂端部の粧飾に役立つのも面白い趣向であらう。

街路樹の定植を了つても地表面が一帶に整頓されねばならない、植樹地帶とか鋪裝側道とか之等のものが完備してこそ並木も一段の光彩を增すのである。勿論街路樹にとつては廣い芝生帶とか公園道路式のものが天然狀態に近いから、並木の生育上最も好ましいのである。路面が全部鋪裝されれば並木線でも特に植穴の覆土面から空氣と水分との補給を受けねばならぬから、この部分には保護板を設備して根際の地面を保護してやらねばならない。これは樹木の生育上大切な保護裝置で、銕の格子板で造られたものが好雛型とされて居る。この保護板は樹木の幹を中心に挾んで平面的に使用されるので普通二つの分離した贅板から出來てゐて中央に孔のある三呎乃至六呎のものである。表面は鋪裝面とレベを保ち裏面は地上二吋位の空間を作らねばならない。要するに根際の土の踏み固あられるを防ぎ且つ通氣と水分の吸收に便する裝置である。（完）

以上でマットックス氏の研究發表は一通り終了したのであるが、氏は其後この續稿を再び『タウンプランニング、レビュウ』誌上で發表されてゐる。然しそれは他日又機を得て譯載することにして本題は一先づ茲で止めて置く。

（一四、七、三〇）



アスフハルトに就いて

細木松之助

アスフハルトは黒色の光澤ある脆き事樹脂に似たる物であつて恐らくは石油の如き物が徐々に酸化縮合等によりて出來たる者なるべく自然界には頗る廣く分布せられて諸所に産出する者である假令ば南米トリニダットのアスフハル湖を第一としてベルムデーやマラカイボーの外に佛國のセイスル瑞士のヴアル、ド、トラヴアー、獨逸のハノーヴハー、アルサス、西印度のキユーバ及び北米カリフオルニア小亞細亞の死海等であるが其産出の狀況は土地によりて其趣を異にして居るがトリニダットの如きも比較的純粹な物であつてアスフハルト分以外には少量の瓦斯、水、有機物及び礦物質を夾雜して乳劑の如くになつて居るが佛國のセイスルにても石灰石中に含まれて産出する故に此石を適度に破碎して之を水と熱してアスフハルト分を熔出するのである。

トリニダットのアスハフルト湖を舊泥火山の噴出口又は間湯泉口にピッチ樣の物が溜つて居るので常に瓦斯を噴出して居るが此瓦斯は主として硫化水素と炭酸である又アスフハルト湖中を通過したる水は主として食鹽を含んで居るが尙少量の硼酸鹽及びアンモニア鹽を含有する所より推して其火山性なるを知るのである又其精製したるアスフハルトの成分は炭素八二、三三水素一〇、六九硫黄六、一六窒素〇、八一である又十八種の硬アスフハルトは三、二八乃至九、七六ベルセントの硫黄を含有して居るに反して軟アスフハルトは〇、六〇乃至二、二九ベルセントを含有するのみである點より推して硫黄がアスフハルトの縮合及び硬化を生ずるに與つて力ありし事を示す者で酸素も亦之と同樣に作用したる物なるべきも酸素は水素と化合して水となりてアスフハルト中より排除せられて其成分中には止まつて居らぬのである。

次にアスフハルトは學問上から如何なる者であるかと云ふに學者によりて其定義が區々であり一定して居らぬから今一二を揭げて見れば次の如き者である。

アスフハルトは瀝青質の固體若くは半固體で多少の礦物及び土質を交へて居つて其主體瀝青質は種々なる飽和若くは不飽和の固體炭化水素及び其誘導體より成る者である。

第二　アスフハ水トは複雜なる炭化水素の混合物より成れる天然瀝青質の固體

又は半固體にして幾分の硫黄及び窒素の炭化水素誘導體を含有すれ共固形パラフインは殆んど含有せず又其生因は固形パラフインを含有せざる石油より變生したる者なるべし。

アスフハルトはアルコールには僅り多く溶解せざれ共石油ナフサやナレビン油及びベンジンには容易に溶解するのである。

アスフハルトと膠質との關係

アスフハルトが既に夫自身膠狀であり又其内に含有する礦物も膠狀體であるからアスフハルトの研究には勢ひ膠質の知識が必要であるのです而して此膠質に就て始めて秩序的に之を攻究したのはトーマス、グラハム氏であつて氏は其研究成績を一千八百六十一年より同六十四年に至る間に於て數多の報文として之を發表したるが之を約言すれば左の二ヶ條に歸着するのである。

第一　多數の物體に就き浸透分析即ち供試體の溶液がパーチメントの如き有機性膜を通過するや否を見るに其内の或者は容易に之を透通して他方に在る溶劑へ擴散したれ共其他の或者は全然透通する事能はざるか若くは通過頗る緩漫にして頗る長き時を要するのである而して前者即ち透通する者は一般に結晶すると云はれて居る者であつて後者は膠やゼラチンやアラビアゴム等の如き結晶せずして無定形の狀態に於てのみ吾人に知られて居る者であるのです故にグラハム氏は可溶性の物體を二大別して結晶質と膠質との二種としたのである。

第二　普通には不溶解性と思爲せらるゝ物體の多數も適當なる方法によれば一見眞の溶液と少しも異ならざる者として得られるのである然れ共此第二の溶液を結晶體の溶液の如くにパーチメントの膜を透通せないのである此故に此等第二種の溶液を膠狀溶液（コロイダルソリユーション）即ち單にソル（Sol）と稱せられるので之を現今化學者界に一般に熟知せられて居るのであるが此ソルは更に特殊の性質を持つて居るので此特性によつて眞の溶液とソルとを容易に區別する事が出來るのである即ち此ソルに少量の電解質又は普通の試藥の少量にして普通の溶液に之を加ふるも何等異狀を呈せざる程度に之を加ふるもソルに對しては根本的の變化を起こす者である假令ば硅酸のソルに少量の炭酸を加ふるか又は二水酸化鐵のソルに少許の硫酸曹達を加ふる時は前者に於ては透明なる膠汁を生じ後者に於ては水酸化鐵の絮狀沈澱を生ずるのである元より此等の變化は普通の溶液に於ける化學變化とは全然異なつて居るのであるから之に依てソルが普通の溶液とは全く異なつた關係の者である事を會得するに足るのである。

グラハム氏の研究以降此方面に向つて多數の研究者（化學者も物理學者も）は非常なる熱度を以て之を攻究し新しき器械と方法を以て大いに之を開發したのであるが就中最も肝要なる者は一千九百五年に獨逸のチグモンデーとジーデントツプ兩氏が發明したるアルトラツクロスコープであつて此新機械を以て研究したるが爲に膠狀液に關する吾人の知識を非常に增進したのであつて其中最も決定的の者はグラハム氏の結論に於ける如くに膠質は或限定したる物體其物ではなくして適當なる方法によれば極めて多數の物體をして膠狀ならしむるを得べき者である事で之を換言すれば膠狀とは物體の狀態（State）であつて形體（Form）ではないのである。

又バンクロフト氏の新研究によれば曾てグラハム氏に依て決定せられて居つた所の膠質を非結晶即ち無定形であるとの事も全く眞されたのであつてバ氏の結論によりて現今一般に承認せらるゝに至れる者は凡そ物體が充分細分せられたる時は其相又は狀態を稱して膠狀と云ふのであるから膠質化學とは極めて微細分せられたる細泡細滴細粉細線若くは薄片の化學的性質を攻究する事になつたのである

凡そ個體と液體とを問はず總ての物體は其表面に瓦斯液體又は固體を吸着する性質を持つ者であつて其手近の例を示せば硝子板が其表面に空氣又は水の薄層（フィルム）を引付ける事や液體の小滴が互に相接近すれば集合して大きな滴となる等は世人の熟知せる所である然るに固體は互に接近するとも結合して一塊とならざるは眞に互に接觸せないからである何故ならば固體は皆其表面に空氣の層を吸着して居るから二物接近しても眞に接觸する事も六かしいのである又一インチに二百目の篩を通過する微粒は之を其容器内にて振動すれば恰も海水の如くに浪立せる者があるので之は微粒の周圍に附着せる空氣の層が微粒に對比して大きくて堅き固體の中心を持つた空氣の彈性球の如くに動搖するのである又硝子を熱して軟くなつた者を接合せたり白金片を其熔融點より遙かに以下の温度にて接合したりするが孰れも其面を清淨にして置かねばならぬのは眞に接觸せしめんが爲であります又清淨なる水銀は如何に細粒に分れても互に接近すれば相合して一つになるが汚れたる水銀は小滴となれば再び合體せぬのは其表面に汚物の層が出來て滴と滴とが眞に接觸する事が出來ないから集合して一體とならないのである。

ブラウン氏運動

今一塊の石を水中に投ずれば急速に水底に沈降すべし然るに此石を破碎して砂狀となし之を前同樣水中に投ずるも其沈下の速度は石の塊合よりも遙かに少なるべし然るに更に之を粉碎する時は其粒の微細なるに從ひて其沈下の速度は益々少となりて此沈下の速度は石の直徑に比例して減少して行く者の如くなるべし然れ共或程度を超へて微細にするとも沈下の速度は之に比例せずして全く停止即ち沈下せずして水中に浮遊し恒久不變の運動を始むるのであつて此微粒の運動は一千八百二十七年にブラウン氏の發見する所であるから氏の名を取つて之に命名したのであるが此運動は或一點を中心として其周圍に振搖するので其上下左右に不正に運動して居るのである而して此運動は粒子の大きくなるに從ひて減少する者で其粒子が或程度以上となれば全然停止するのである而して此運動の原因なりとして種々提唱せられたる者假令ば震動や温度の變化に起因する流動や濃度の差異による流動等の如きも次第に實驗により排除せられたるを以て斯る一時的の原因に依る者でない事が明になつた然るにアルトラミクロスコープの發明は此研究に大なる衝動を與へて大いに其進歩を促がしたのであつた然れ共ブラウン氏運動の眞因は未だ確定して居らぬのであるが實體に於て分子運動と異ならぬ者とされて居る。

アスフハルト中の礦物の顯微鏡檢査及アスフハルトの成因說

アスフハルト中に含有せらるゝ物質に就て多年に亘りて研究したる成績に徴するに必ず少量の礦物質の存在を見るので

あつて何れの研究家も皆等しく此點に付て其說明に苦んだのであつたが一千九百十四年に至つてクリツフオードリチヤードソン氏は始めて之をアルトラミクロスコープを以て檢査して遂に其眞相を闡明するに至つたのである依て今氏の所說を約言するにアスフハルト湖に產する天然物は瓦斯體液體及び固體並びに無機物及び有機物等の複雜なる多相の集團であつて或度までは平衡を保ちて膠質の性を現はして居るのである故にアスフアルトの生成するには二個の地質的條件が共存せねばならぬのであつて其一は原質たるべき石油の存在する事と其二は之をアスフアルトに化成する作用を爲すべき者の存在する事である即ち其一なる石油を含有せる沙質地層を地下各地に存在する者であつて之は石油井を掘るに當つて屢々實驗する所である而して其二なる石油を化してアスフハルトに變化せしむる働を爲す者は極めて微細なる珪石及び粘土の粉末であつて是亦地層中諸所に存在する者である斯くて地下深處にありし石油が地下に於ける壓力の爲に最も抵抗の少なき徑路を求めて漸々上り來りて微細なる珪石及粘土の粉末に會し之と相混じ恐らく天然瓦斯などの作用によりて乳劑の如き者となり時の經過と共に更に上昇し來りて舊噴火口などを充たし或は之より溢れ出づるに至つたのであるトリニダット湖に於ては現に今日に於ても新たなる物が常に湖中の各部に出來て上昇し來るのであつて此等は尙柔軟にして指間にて容易に之を任意に成形するを得るのである而して此新生アスフハルトは常に瓦斯を伴つて居るので此瓦斯が又他に例のない成分の者である即ち主として炭酸と硫酸水素より成りトリニダットに於て噴出する物は炭酸三十三ペルセント硫化水素三、五ペルセントを含有せり。

新鮮ならざる部分は既に噴出して以來變化を進めて硬くなり五十乃至百ポンドの塊として破碎し取る事が出來るが斯く破碎し取らるゝ丈の成性を有つて居るかと思へば之を掘取つた穴は二十四時間內に必ず周圍の者が流入して之を充たすのであつて幾分の流動性をも持つて居るので恰も氷河に於ける氷の流動と異らぬのである故にアスフハルトは初め出來たては充分軟かなれ共一二年の時を經過する間に變化を進めて硬化するのであつて此硬化及び瓦斯を噴出する變化を起こす物は恐くはアスフハルト中に混在する或觸媒が有るので前にも述べたる如くアスフハルト中には必ず極微細なる珪石及び粘土の粉末を含有して居るから此微細末が硫化鐵を吸着して持つて居るので之が觸媒の作用を爲す者でありましよう。

アルトラミクロスコープを以てアスフハルトを檢するにはベンゾールに其十分の一のアスフハルトを溶解したる液を用ふるのが便利である尙此溶液は不溶解分を除去せんが爲めに離心機に掛けて三十分間以上振盪したる後に檢するか又は右振盪したる物を更に數ケ月の間靜置沈定せしめ或はチエンバーラント濾過器を以て濾す等各法を別々に又は連合して用ひたる後に之を檢するも微細粘土末は依然として混在して居るのであつて如何に其微細なるかに驚かざるを得ないのである

然れば此等の微粉が如何なる作用を爲すかと云ふに珪石及び粘土の微細なる粒子は其表面にアスフハルトを吸着(サーフエース)するのであつて其結果著しき表面勢力(エネルギー)を生じ其大なる事は後にアスフハルトを實地に使用するに當つて混加する者によつて生ずるより遙かに大なる者である今試みに一の粘土を取り之を二分して其一分は之

に水を加へて泥狀となして然る後に之を一定量のアスファルトに混じ他の一半は乾燥の儘之を同量のアスファルトに混じ共に充分捏ねたる後に各自別々に細線狀に伸ばして更に螺線狀に造りて暫時靜置する時は泥狀として加へたる方を以て造りたる螺線は依然として其形を變せざるに反して乾燥粘土を加へて造りたる者は次第に其形を崩すのである換言すれば膠狀の粘土はアスファルトを機械的に變形するに於て乾燥粘土よりも遙かに有効であるのである即ちアスファルト中に含有せらるゝ膠狀の礦物質は之を實地に使用するに當つて著しく有効力を增大する物である事を明示するのである。

産地及び精製法等

アスファルトを最も多く産出するのは南米ベネヴエラ國の海濱にあるトリニダット島と同國内地にあるベルムデー湖であるトリニダット島のアスファルト湖は其面積百十四エークル(我十四町七反)であるが其中に充滿せるアスファルトは全く底知れずであつて一千八百九十三年に施行したる多數ボーリングによるも其中央部に穿下したる者は百三十五呎に至るも尚底に當らず遂に其底を測知する事が出來なかつたのである又一方三十八年以前より年々多量採掘せるに關せず其表面は僅々六乃至八呎降下したるに過ぎざる所より推せば必ず底下より新材料の上昇し來る者ある事を知るべし。

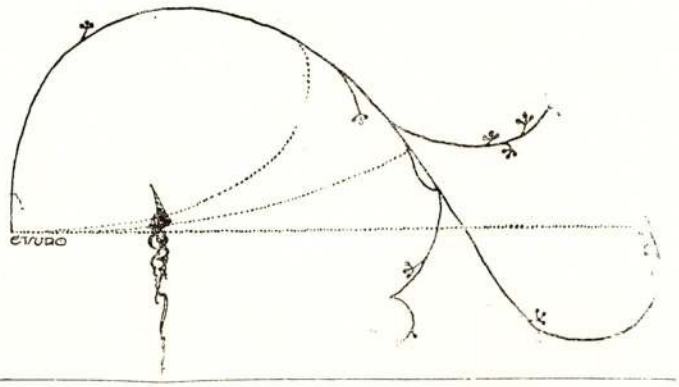
アスファルトを採掘するのは土人が鶴嘴を以て掘るのであるが一日に採掘したる穴は二日間に充滿して再び元の通りになるのであつて之れ常に下部より上昇し來る者のある證據である而して採掘したるアスファルトは之を小形の汽車にて精製所若くは輸出の爲に港へ送るのである

ベニムデーのアスファルト湖は其面積二千エークル(我二百七十八町)あれ共深さはトリニダットの如くならずして漸く三呎乃至十呎である又アスファルトもトリニダットの如くに硬くないのであります。

精製の法は双方共に同一であるがトリニダット產はアスファルトの基準溶劑なる二硫化炭素に溶解する者三十九礦物其他三十二及び水分二十九分であるがベルムデー產は約二十五の水分と一乃至三の礦物六十八乃至七十二の瀝青分である何れにしても共に其精製法は同一であつてトリニダットにて行はれて居る者は五十乃至七十噸を容るべき器に充てたる者を蒸汽を以て華氏三百五十度に熱し其水分を驅出するのが主なる目的である。

道路の鋪裝に多量使用せらるゝアスファルトの外ペンキ及びワニスは皆膠質體なるを以て建築材料の事を研究せんには膠質化學の知識を借らねばならぬ事が甚だ多いのである。

×　×　×



建築と汚物處理の關係

澤部實之介

汚物處理槽の構造

汚物處理槽は次の如き各槽に依り構成せらるを原則とす。

A　腐敗槽
B　豫備濾過槽
C　沈澱槽
D　酸化槽
E　消毒槽

右に示す腐敗槽は規模の何如に依りて數槽又は數十槽を有する物にして其の順位に依りて第一腐敗槽、第二腐敗槽、第何腐敗槽の如く名稱せらるを普通とせり

警視廳令に依る水槽便所取締規則第四條に「水槽便所の淨化裝置は撒水式濾過床の構造とし、腐敗槽、酸化槽及消毒槽に區分す可し」とあり、又、兵庫縣水槽便所取締規則第四條に「水槽便所の淨化裝置は腐敗槽、酸化槽及消毒槽に區分し酸化槽は二個以上となし少なくとも一個は撒水式濾過床を設備すべし」とありて其の構造に具備すべき必要なる槽は指示せられ居る物なれば、各種雜多なる其の他名稱を用ふる物あるも要は以上に列記したる物に過ざる事を知らざる可らず。

されば汚物處理槽は前記の如き各槽を具備するを要するも必定之れを以つて完成し得らる可き物ならざるは明白なる事にして外國に於ては其の他藥品處理法をも實施し居る如くなるも其の地方及土地の狀況に依りて行ひつゝあるも、我が國に於ては藥品處理法其の物の効果大なりと云へ共、之れが處理液の放流場所が主として河川なるが故に、他に害を及ぼす事又は常に處理藥品を注入する必要ある物なれば非常なる手數を要する事より、之れが使用に免度なるより藥品を用ひず汚物を放流せしむるが如き場合を生じ衛生上重大なる問題を引起し又一面より見る時は人道上よりも決して許し難きものなれば、之が豫防に萬全を期するがため藥品處理法の施行は認められざるを通則

とせり。

然りと云へ共現在に於ては何如はる處理方法を施行し萬全を期する事あるも其の手段と方法を前に列記したる腐敗槽、酸化槽及消毒槽を具備せざる物に於ては認められざる物につき、設置せんとなす場合に於ては相當注意を要するを必要となす故なり、されば汚物處理槽の構造を記するが前に注意すべき二三の事柄について列記せんとなす物なり。

1　建築家は水槽便所に對して無關心たるなかれ

現在水槽便所の設計と工事は特種なる物として獨專的事業家に依りて施行せられつゝあるが如き感を呈せる物にして建築家たる者餘りに過去に於ては無關心なると云わざる可からず、さればこれがために莫大なる設計料と設備費をせしめられたる感ありと云へ共現在に於けるが如く水槽便所取締規則上に其の主要構造を明示せる場合に於ては、汚物の淨化順序及理論は知り得ざる迄も汚物を收容し得べき外壁の構造と定められたる容量を有する貯藏槽は何人もなし得る處なり。

警視廳令に依れば腐敗槽、酸化槽、消毒槽の構造は煉瓦又はコンクリートの構造となし內部に厚五分以上の防水モルタ槽塗となし煉瓦厚は七寸、コンクリート厚は五寸以上となすと指示し其の容量に關しては一人一日の汚水量は一立尺と計算す可しとあり腐敗槽の容積は水面以下に於て少なくとも六十立方尺以上として使用人三十人を超ゆる時は一人に對し二立方尺以上を增す事、但し二百立方尺以上の物にありては淨化支障なき物と認むる物に限り此の場合に依らざる事を得とあり、又、兵庫縣令に依れば、取締規則の第五條に厚五寸以上のコンクリート又は煉瓦類を以て製造し內部は厚五分以上の不滲透質材料を塗布すべしとあり、又容量に關しては腐敗槽の有効容積を六十立方尺以上とし使用人員三十人を超ゆる時は一人に對し二立方尺以上を增す事但し使用人員二十人以內なるもの及其の容積二百立方尺以上の物にありては淨化支障なきと認むる場合に限り斟酌する事ある可しと示せり、さればそれが容積と構造は使用人員に依りて決定すべきは明白なる事なれば要は即ち汚物淨化の行程と理論たり、さればその點に關しては特種工事と多年の經驗を要する物なれば之れが工事施行者をして施行せしむるを可とすべく、又、特種裝置の工事なるが故に過去に於て餘りに放任せられたる點を有するが如き場合を多く有するがために彼等に不相當なる利益をせしめられたる如くなるも現在の如く同業者の簇出せるに於ては過去に於けるが如く有利なる立場にあるものにあらざるが故に、此の點に關しても充分なる注意を拂ふを要す可き多くの事實を視る物なり、されば唯工事費にのみに依る時は一方は高價にして一方は安價なるが如く見ゆる場合を生ずる物なれば極端に金額上の問題にのみ依り工事の何如を無視して施行せしむるが如きは冒險なる事と云わざる可からず、なんとなれば現在に於て何如なる者が何如なる手法と方法を用ひて設計なすも其の根本たる可き必要條件たる事項は水槽便所取締規則に於て明記せられ居る物なれば、淨化方法の根本及各槽に於ける容積は、明確に知り得る事なれば、甲の設計者の設計なしたる物と、乙の設計者の設計なしたる物とが格段の相違を生ずる物に非ざる事を知るを要す、されば、此の點に關しては建築家たる者無關心に放任するが如きは極めて不見識なる事と云わ

ざる可からず。

2　汚物處理槽は人數より容積を以て設計せしめよ

汚物處理槽の容積は普通六十立方尺を最少限度となせり、而して此の六十立方尺を以て人員三十人に對する容積となし三十人以下の使用者に對するも六十立方尺を有せしむるを通則となせる物なれば、五人用なるが故に十立方尺、十人用なるが故に二十立方尺を以て許容容積と見る可き物に非ざる事は論ずる迄もなく、又一面より考ふる時は容積の大なる程効果に及ぼす結果も大なる物なれば、家庭用小人數淨化槽等の事柄を見る事も度々廣告に於て又聞く事なるもぞの點に關しては設置せんとする人々に於て一應注意を要する所なり、されば三十人以上の使用に對しては何如なる方法を以つて容積を定め居るかと云へば、前に規則の一例を以て示せる如く一人一日の汚物槽に對する容量を二立方尺となせり、されど二百立方尺を超過せる場合に於て、相當容量に參酌を加へられつゝある物なれば、二百立方尺を超過せる場合

200—60(30人に對する容積)＝140立方尺

140立方尺÷2(1人1日2立方尺とする)＝70人

即ち二百立方尺を以つて一〇〇人用の處用容積となすものなり、されば百人の使用者を超過せる場合即ち二百立方尺を超過せる場合に於て腐敗槽容積に參酌を加へ得らる物なれば、今此れを見るに百人を超過せる場合に於ては一人に對して普通一日一立方尺の計算を以て算出せらるを例となせる物なれば、その點に關し時々注意と、其の結果に對する留意を要する物なる事を知らざる可からず、今單に使用人員七百人に對する汚物處理槽の設計を甲、乙の二者に對して依頼せんか、莫然たる計畫の元になしたる物とすれば次の如き結果に相違を來す事を知らざる可からず、されば斯の如き場合に於ては寧ろ莫然たる人員にのみ依る設計をなさしむるより、先づ七百人に對する容積を計算せしめ、それを根本となし、甲、乙二者又はより以上の設計及施行者をして計畫を進むるを必要となす故なり。

A　一人一日の使用に對し二立方尺となせる場合

2×700＝1400立方尺……腐敗槽容積

B　一人一日の使用に對し二立方尺となし、二百立方尺を超過せる場合

一人一日一立方尺となせる場合

(2×700—200)÷2＋200＝600＋200＝800立方尺

即ち此の二つの場合に於て六百立方尺の差を生ずる事にして其の差の大なる事は一考に價するも、A式に依るも、B式に依るも、設置する場合何等規則に違犯せし物ならざる事も明白なる事なれば斯の如き場合單に人員を以て處理槽の設計をなさしむるが如きは論ずる迄もなく前述の如き差を生ずる物なり、されど右の如き場合は唯しも知り得べき事柄なりと云へ共通勤人又は外來者、常住者に依りて其の容積計算に更に參酌し居らる事にして、例へば外來者は常住者を換算なす場合に二分の一と見るが如く、即ち外來者二十人あれば、常住者十人として計算するが如き物にして、斯の如き場合には更に容積に相違を來す事明白にして、先の例に於て常住者を百人外來者を六百人とせんか其の容積は

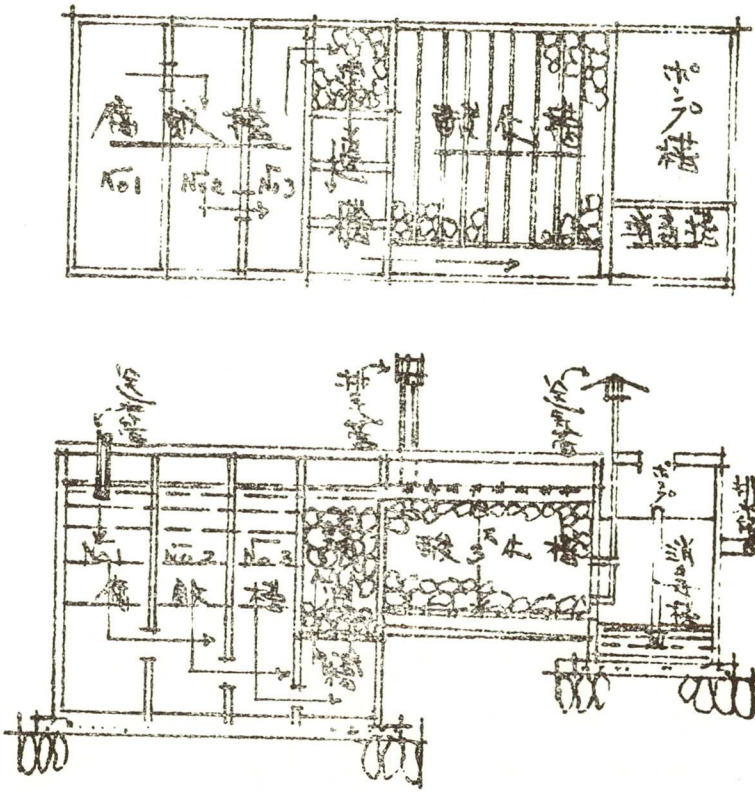
$2\times100+\frac{600}{2}=500$立方尺

の如く實に一人二立方尺とせる場合の約三分の一の容積を以て助れり、されば之

れが經費上に及ぼす差も大なりと云わざる可からず、されば人員のみを以つて設計せしむるが故に起る受負者間に於ける相違せる原因となる物なる事を知らざる可からず故に漠然たる計畫の元に之れを施行なす場合に起る相違せる點と使用後に於ける結果に及ぼす影響を熟考の上施行せしめらるを要する理なり。

斯の如き結果を來す物なるが故に多人數の使用者を有する商店又は共同事務所に於ては、之れが根本的設計に確固たる基礎を定めざる可からずと云へ共、之れが設置なさんとする商店又は事務所の位置は地價の高價なるが故に汚物處理槽のために廣大なる土地を設備するが如きは甚だ困難なる事と云わざる可からず、されば地下面の利用を大にし、又他方面より見る時は建築家又は設計者が汚物處理槽に對する注意の不足無關心なる事より建築設計をなす場合、極めて大なる建築面積を有するに係らず極めて小なる一面積を汚物處理槽に分割し居るが如きはついに汚物處理に對する排出汚水の不結果となり、衛生上又は道德上重大なる問題を引き起すが如き場合となつる物なり、されば下水道の完成や眞に意味や重大なりと云わざる可からず、都市生活上最も必要なる汚物處分問題たる事柄に對する施設と考研を要すると共に、下水道設備の完成を一日も速に達成せられん事を願ざる可からず。

今其の構造を述ぶる的に於て、之れが一般的說明をなさんとす。



A　汚物處理槽の一般的說明

水洗便所又は工場廢水を地中內に取付けたる一定容積を有する槽內に集合せしめ固形物以外の汚物を濾過せしめ更に之れを濾材粒子間を通過滴下せしめ床上集水溝に集め下水溝に排出せしめたる物にして排出汚水をして衛生的有害ならざる物とせしめんとする物なり。

然らば何如なる階梯を必要となす物なりと云へば前述せし如く汚水を收容に必要なる一定容積を有する槽を構成せしめ之れを二室又はそれ以上の數室に區分す、區分せられたる各室を汚水通過の順序により之れを第一腐敗

槽又は第何々腐敗槽と名稱する物なり、されば汚物は先づ第一腐敗槽に入り固形物の沈澱物を除去したる他の汚體は第二又は第三と通過せしめ沈澱物は一定深度に到る時は分解し得せしむべく構造せしめ上澄水を順次、次槽に導き弱速度にて上昇しつゝある汚水を濾過槽に導く構造となす物なり、濾過槽は絡格子を有する底床板に碎石を有する構造とせられ汚水の濾過を目的とす。

濾過せられたる汚水は組格子を有する上方に充滿せられたる碎石上方に數條の樋を並例せしめたる物を以て構造せられたる物にして底面は汚水の浸潤を避け碎石は不風化材を用ふる物にして側面に空氣流通を佳良ならしむるがために通氣裝置を設置せる物にして、上方撒水管は汚水の滿水したる時は汚水の床上表面に點下せしめ濾材間に平等撒水せしむる構造となせる物なり。

B 汚物處理槽の學理的說明

汚物淨化の第一行程たる腐敗作用は腐敗槽に爲て螢爲せらる、即ち處理すべき屎尿は共存する腐敗菌により其の固形分を液化せらるゝものにして人爲的に汲出し又は除去する事なく自ら消化分解せしむる物なり、固形物の分解は重力作用に依り沈澱の消化減滅作用は汚水中に繁殖する嫌氣菌の活動に依る物なり。

嫌氣菌とは分子狀酌素を養元となし水素を遊離する特性を有る物なり、此の特性あるが故に一名之れを還元性とも云ふされば遊離せられたる水素は汚水中の窒素と化合なし、アンモニア及アンモニア類となり硫黄炭素と化合し硫化水素、メタンイシドール、スカトール等の所謂腐敗瓦斯を發生せしむるを以て別名腐敗菌と稱ふ物なり。

故に水洗便所汚水の如き固形物の大部分が有機體よりなるものを無機體となすには極めて有効なる物と云ゝざる可からず、如上の如く化學的變化が完全に行わるゝ時に於ては汚水の滲透壓な急激に增加するを以て各種の奇生蟲卵は腐敗槽内に於て全部死滅す、而して如上の腐敗作用を完全ならしむるには槽が空中酸素を除却する爲め科學的に算出せられたる適當の深度を保持する事を必要とせり。即ち多くの實驗の結果に依れば五尺以上十四尺以下を最適當となすが如き結果を得たりとの事なり、されど、こは勿論汚水の空氣接觸面積との重大なる關係を有する事は論をまたざる所なり。

汚物處理槽使用後、使用水量其の他宜しきを得たる時は腐敗槽表面に厚き淨渣を生じ殆ど完全に空氣と汚水液面とを遮斷せらるゝを以て腐敗槽ふり流出する汚水は殆ど固形物を抱有する事なきも猶溶存する有機物のために甚しく腐敗性を帶ぶると思惟する場合に於ては豫備濾過槽を通じて濾過を行ひ、之れを酸化槽に導く物なり、該槽は專ら汚水の酸化作用を螢爲し此處に於て汚水は空氣中の酸素と直接觸し槽内碎石の表面に繁殖せる、好氣菌の接觸作用に依り汚水中の還元性化合物は完全に酸化せらるゝ物なり。

好氣菌とは嫌氣菌とは全く其の性質を異にし分子狀酸素なき所に於ては絶體に繁殖せず、窒素中或は水中に溶存する酸素の存する場合にのみ發生し有機質は勿論、アンモニア硫化水素に至る迄分解し無臭の硝酸亞硝酸に變化せしむ。

即ち汚水の惡臭の原因となる受き還元性化合物は或は排氣に依り、或は酵化に依り充分に無臭無害の物となるものなり斯くして汚水の腐敗性は著しく減滅せられ最後に消毒槽を通過せしむる事に依り

細菌類は充分滅菌せられ衛生上危險なき物として下水溝に放流せらるる物なり。

汚物處水槽の構造は以上の如き事柄により構成せられたる物なるも、便所に於ける水洗用水量の使用量の多少及空氣の流通の過不足及掘の深淺に大なる關係あるが如きは早計と云ふ可き事なり。

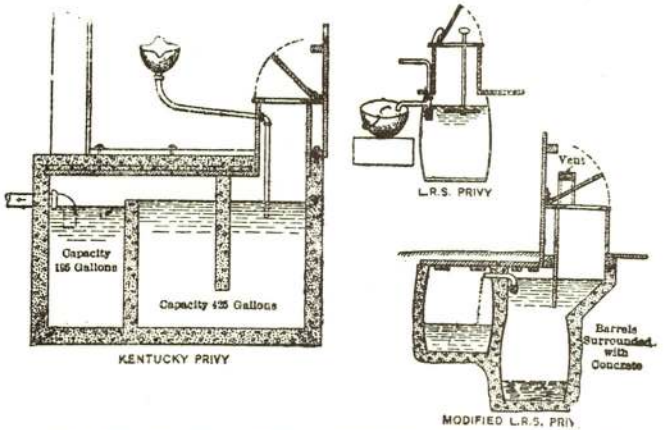


FIG. 137. Structural Details of Various Sanitary Privies (courtesy of Richard Messer)

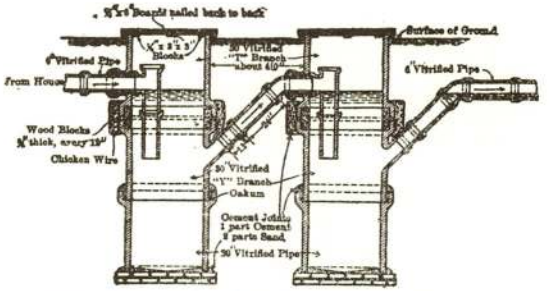


FIG. 139. Septic Tank Installation Constructed of [illegible] Sewer Pipe.

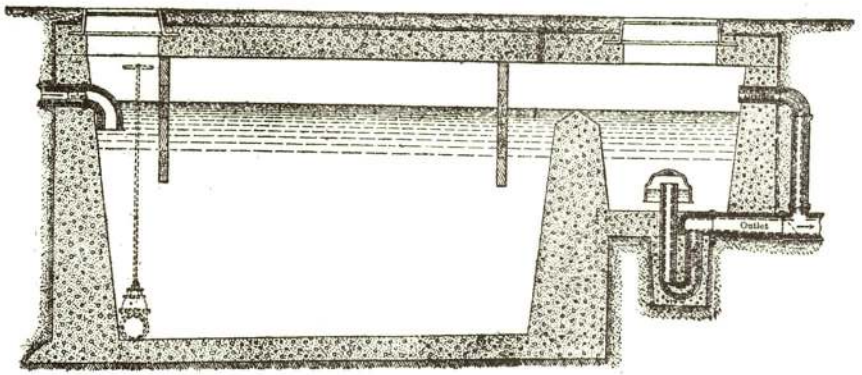


FIG. 138. Septic Tank for a Large Dwelling or an Institution (courtesy of Ogden and Clevenand).

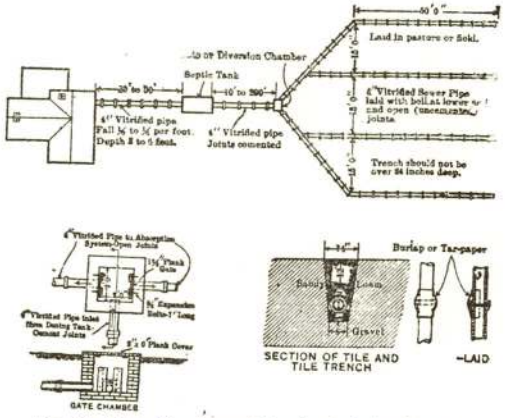


FIG. 140. Siphon Chamber and Subsurface Irrigation System.



『鶴林寺の建築』

——兵庫縣の古建築(三)——

菅田登美雄

第一概說

一、位置　兵庫縣加古郡鳩里村北在家山陽線加古川驛で私設播丹鐵道に乘換へ、高砂行に乘り北在家で下車すると、其處が即鶴林寺の山門である、播丹鐵道に乘らないとしても、加古川驛からは約十五町、道路平坦で北在家即鶴林寺、加古川間乘合自動車の便もあれば車の便もある。

神戸からは約一時間足らずで達する、其の藤原時代の太子堂と常行堂、其の他本堂・鐘樓等、神戸からの一日の研究に至極良い所と自分は考へる、況んや建築上からは當縣下屈指の建築たるに於てをや、と云ひたい樣な氣持になる。

參考地圖　參謀本部二萬分の一　高砂

二、歷史的研究

鶴林寺所藏にかゝる緣起に依ると、

「鶴林寺は昔聖德太子が秦川勝に命じて精舍を造營せしめ、尋で堂塔、數百の僧房を建築し七堂伽藍の巨刹佛法最初の弘通の道場となし給ふ所である」

「欽明天皇の二十六年高麗の國から僧惠便なるもの來朝し佛法の流布を試みたが例の物部の守屋の爲に害せられ鶴林寺(今の淨心院と傳へて居る)の中に草庵を築いて居つたのを敏達天皇の十二年聖德太子御年十二歲の時惠便の高德を崇はし行啓あらせられ」

其後用明天皇二年三月太子御歲十六歲の御時守屋誅戮の爲に再び行啓あり守屋の滅後は四體の形體を伽藍の四邊を埋め奉り以て結界守護の誓として三間四面の精舍を建立せられ釋迦、文珠普賢の三尊及四天王を彫刻して安置し賜ひ、此外堂外四本の柱には八大童子四壁に三千佛、裏に涅槃像を描き緣は三枚の板を竝べて普將束成就を表はし給へり」

元正天皇の養老二年武藏國の大守大日身人部春則なるもの深く當寺に歸依し太子遺跡の靈地を顯彰せんと欲し則本堂を建築し行基菩薩の作なる、藥師如來、脇立、日光、月光、脇士、毘沙門、韋駄天十二神將を安置し次で數百の僧房七堂伽藍全く成就し—中略—刀田山四天王寺と號す」

人皇七十四代鳥羽天皇當寺に行幸あり鶴林寺の勅額を賜はり勅願所と定められたるを以て四天王寺を改め鶴林寺

と稱し……」

人皇八十七代四條天皇は總伽藍御修繕遊ばされ……」

永正年中播州三木城主別所長治伽藍一切を修繕す……」

永錄年中天台宗を改め眞言宗無本寺とす。

其の後萬治年中天台宗に復し寛永年中本多甲斐守

享保年中　松平式部大輔

延享年中　松平大和守

はそれぞれ伽藍を修理し

寛政年中酒井雅樂頭本堂屋根替寄附し降つて

明治十八年及三十六年には明治天皇の行幸を賜はり國寶二十點特別保護建造物五棟を有して居る古刹である」

即ち當鶴林寺は古く推古時代に創造され殊に緣起に明かな通り聖德太子と密接な關係があり其の後幾多の變遷を經たが幸に都から遠くに有つた事の爲に兵火にも害せられず、太子堂、常行堂の樣な縣下稀に見る藤原時代の遺物の殘存しあるは古建築研究上非常な幸と云ふべきと思ふ

三、鶴林寺の大體の伽藍の配置に就て

昨夏鶴林寺に滯在當堂の實測をやる前に總がゝりで鶴林寺境內の測量をやつたで今其の時測量した圖に依つて大體の伽藍の配置は想像される事と思ふが大略を述べると次の樣だ。

先づ播丹鐵道北在家で下車すると速ぐ鶴林寺仁王門がある、仁王門を入れば中央正面本堂南面して建つて居る、太子堂は本堂の東側に南面して建ち常行堂は本堂の西側に東面して建つて居る、太子堂の背面には鐘樓があり、鐘樓の東側に觀音堂其の又東側には護摩堂がある、以上の仁王門以外の五建造物、卽本堂、太子堂、常行堂、鐘樓、護摩堂の五は特別保護建造物に指定されて居る。

其の以外にも、常行堂の南側に東面して藥師堂、又其の南に三重塔（江戶時代だろう）少々離れて、鎭守社がある。

又東には東門を設け、御供所、茶所あり、本堂の西側面、常行堂の北少々奥まつた所に新に寶物館が建てられてある。

只今では圖示する樣に鶴林寺には淨心院、寶生院、眞光院の三院しか殘つて居ないが緣起なんかに示された昔を思へば當時伽藍の壯大さがしのばれる、卽、現在判明して居るのでも、光明院蹟及び慈賢蹟は常行堂の後方の草地にあり、慈善院蹟は護摩堂の東に、龍禪院蹟は眞光院の東にある。

第二　鶴林寺太子堂

構造形式　三間四面單層屋根寶形檜皮葺

建立年代　藤原時代

指定年代　明治三十四年三月二十七日

前述した樣な太子堂に付て考へれば養老年中建立され文德天皇仁壽年間（延曆時代）に修繕を受け

四條天皇の文應元年（鎌倉時代）に諸堂一切修繕す

永正年中播州三木城主別所長治伽藍一切を修繕す

其の後、寬永年中の修繕

慶安六年、享保七年兩度松平式部大輔の修理

延享二年松平大和守の修繕

等を經て今日に現存して居るのだ、勿論前述の年次には必ず修理を受けたとは限らないが。

プラン——三間四面で前面一間通は縋破風造の外陣で上部蔀戶、側面の上蔀戶或は板壁で最初の一間に棧唐戶を用ひ、

後面は中央一間に棧唐戸を開け他は板壁である、で周圍には高欄のない丈の高い廻縁を繞らし、後面の中央と西側面とには石階を設けて居る。

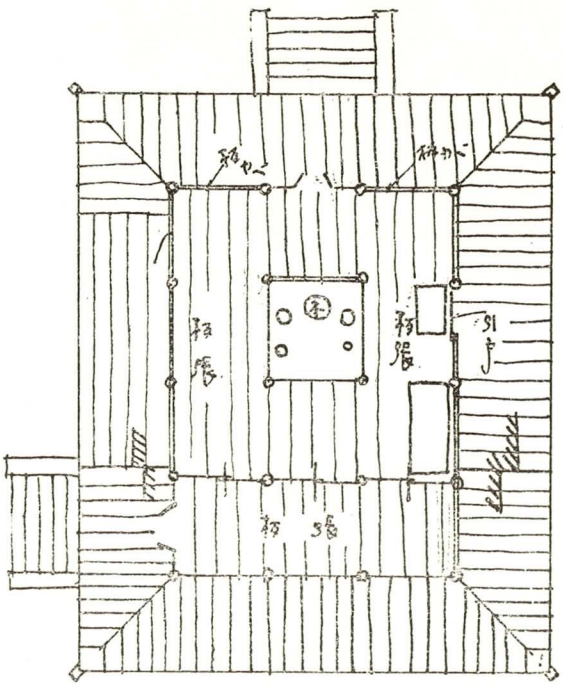
屋根――其の檜皮葺の寶形屋根の流れの緩かな所に前面一間の縋破風は如何にも清楚な氣持のよい感じがする、但し此の檜皮葺になつたのは大正七年から八年にかけて大修理の際に往古板葺であつたのを檜皮葺に直したのである、又、始めは天井も化粧屋根裏の儘であつたのを中央繫虹梁を切斷して小組格天井に改めた事を發見した」と云つて居る。

斗拱――大面取大斗肘木で

用材――悉く薩摩杉で鋤仕上げ

礎石――往古の所謂煉瓦石を用ひて居る。

内部――は前面一間通りを外陣とし床板張、次の方二間を圓陣とし、内陣と外陣との境界は中央間木連格子戸、他は（即兩脇間）板引違戸を用ひ甚だ明瞭であるが、この板引違戸は一見して後世の補修のものである事がわかる、自分は矢張りこの所も木連格子戸であるべきだと考へる。



第二十六圖　鶴林寺太子堂平面見取圖

内陣の中央に須彌壇を作り、本尊を中央に左右に脇侍を安置して居る、内陣の東南隅には聖德太子の秘佛の宮殿がある其の宮殿の構造形式も矢張り藤原？と思ふ、その宮殿の向つて左側に國寶の御厨子があり、第二十六圖に示す樣に須彌壇を取圍んで板張の床を敷いて居る。

裝飾――内陣須彌壇の香狹間に動物の繪が書いてあるのがかすかに判明するが甚だ面白く、且つ其の香狹間も曲線が善いと思ふ。

天井に繪きありと云ふ、八丈像及び小壁にものされた三千佛は、唯に記錄が傳へる許りで自分が先達寒い日一日中、太子堂の中でごそ〳〵して居たけれども、終に發見することが出來なかつた。

で、自分は當太子堂に就ては、

一、礎石に煉瓦石を用ひて居ること

二、用材は鋤仕上げであること

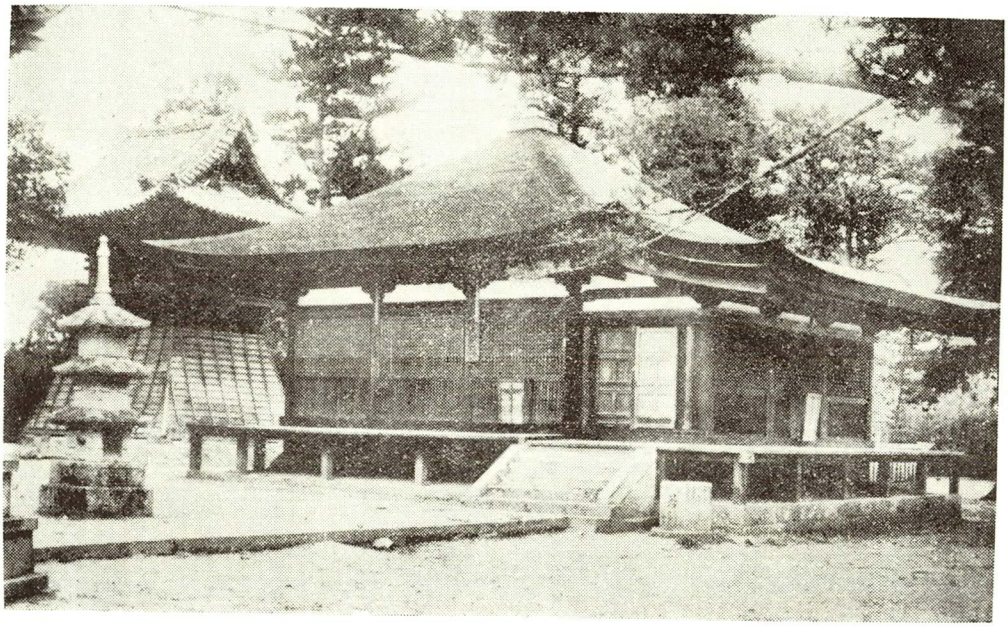
三、屋根は檜皮葺であること、軒先反りあり輕快なること

四、大面取の大斗肘木なること

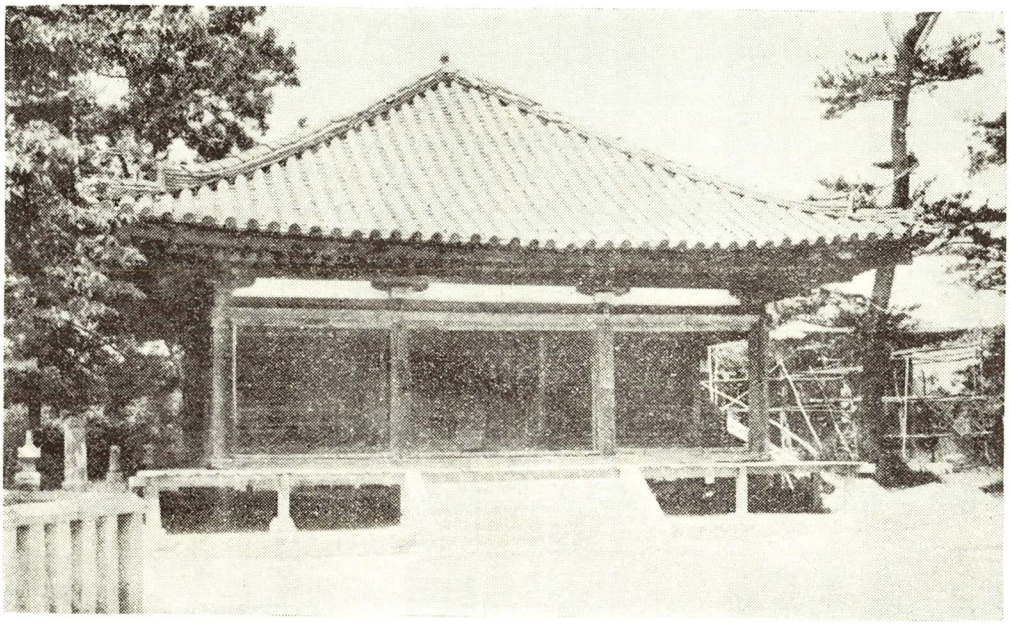
五、肘木の曲線のやさしいこと

等の所謂藤原時代の特長を表はして遺憾なしと思ふ、即、當太子堂は當時の大陸のアートを吸取して自己の物とし、日本人に適合したアートとして、大陸風の雄大、高壯豪放とかの氣分には缺けて居るが、其の優美な點はよく其の時代精神を發揮して居る物と云ふ事が出來る。

第二十七圖　鶴林寺太子堂



第二十八圖　鶴林寺常行堂



第三　鶴林寺常行堂

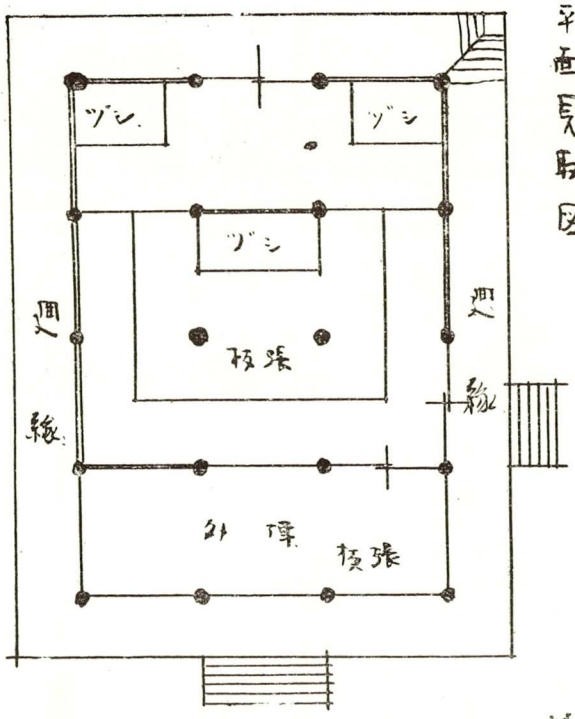
構造形式　三間四面單層屋根四注造　本瓦葺

建立年代　藤原時代

指定年月　明治四十年五月二十七日

常行堂は本堂の西側寶物館と藥師堂との中間にあり、太子堂と相對して居る、

第二十九圖



でこの堂も先きの太子堂と相前後して創建せられたものらしく、太子堂と共に縣下最古のものに屬する、で其の堂の内部は後世の修理の爲に創建當時の面影は失なはれて居るが其の外部は未だに當時の面影を殘して居る。

プラン――三間四面で繞らすに廻縁を以てして居る、で前面一間通り開放し、前面中央の間、格子戸、兩脇には板引違戸（右側）と板壁（左側）を用ひ、側面は右側最初の一間に板引違戸其の他は板壁とし、後面中央の間に板引違戸兩脇の間を板壁として居る。

斗拱――大斗肘木で斗の高さ高く、軒廻一重疎垂を配して居り、用材は總て（古いものは）鋤仕上げである。

屋根の恰好――屋根の四注造、本瓦葺で妻入である事は甚だ面白いと思ふ、且つ稚兒棟も、比較的に少さい。

内部――床は内外共に板敷である、内部内陣の中央に御厨子を安んじ、其の左右にも御厨子があるが皆新しい、價値に乏しい、で前述の通り内部は度々の修繕の結果、創建當時の有樣は殘つては居らないが外部には藤原の手法を思ふ多くのものがある。

一、柱は圓柱ではあるが内、外陣とを結ぶ繫ぎ虹梁の形式（大面を取りあり）

二、斗の丈の高きこと

三、稚兒棟の比較的少さいこと

四、前面一間通り吹き放ちであること

等但し三、四は當つては居ないかも知らぬが、一、二は確かな事と信じて居る。

第四　鶴林寺本堂

構造形式　七間六面單層屋根入母屋造本瓦葺

建立年代　室町時代

指定年月　明治三十四年三月二十七日

寺院で其の信仰の中心となるのは本堂である事は明かな事だ、が只今自分は何故に太子堂、常行堂を先にして本堂を後にしたかは宗教上の意味にはあまり重きを置かずに自分の研究の對稱である建築上から考へてやつた迄の事で此の事に就てはあまり深い大した考への有つたものでは無いのである、先に歴史的研究の箇所で述べた様に

「養老二年武藏國の大守大目身人部春則――中署即ち本堂を建築し――云々――とあり」

即養老二年に本堂を建立したものらしいが其の後の再建年代は不詳で堂内に安置する厨子の棟札を見ると應永四年の再興であると書いてあるさうだが自分は見たわけでも無いから如何とも云ふ事が出來ぬが室町時代の建築である事は確かと思ふ。

Fig. 30　鶴林寺三重塔



プラン――七間六面の大建築で兩面すりは外陣で次に内陣があり、内、外陣との境界は甚だ明瞭で木連格子を嵌めて居る、但し左、右兩端の間は板引違戸を用る。

前面各間には桟唐戸を用ひ（唐様の手法）兩側面五間に同じく桟唐戸を用ひ最後の一間は板壁とし背面は桟唐戸と板壁とを併用して居る。

で周圍には廻縁を繞らし前面、後面、各側面の三方に石段を設けて居る。

内部――床總拭板張で周圍入側の化粧屋根裏を除き、前面二間は天井折上小組格天井である、其の前面三間通

ひて居るが後世補修したものらしい。

内陣――中央に宮殿式の御厨子が有り、床外陣と同様板張で第三十一圖の如く、周圍に疊を繞らして居る、其の天井は格天井である。

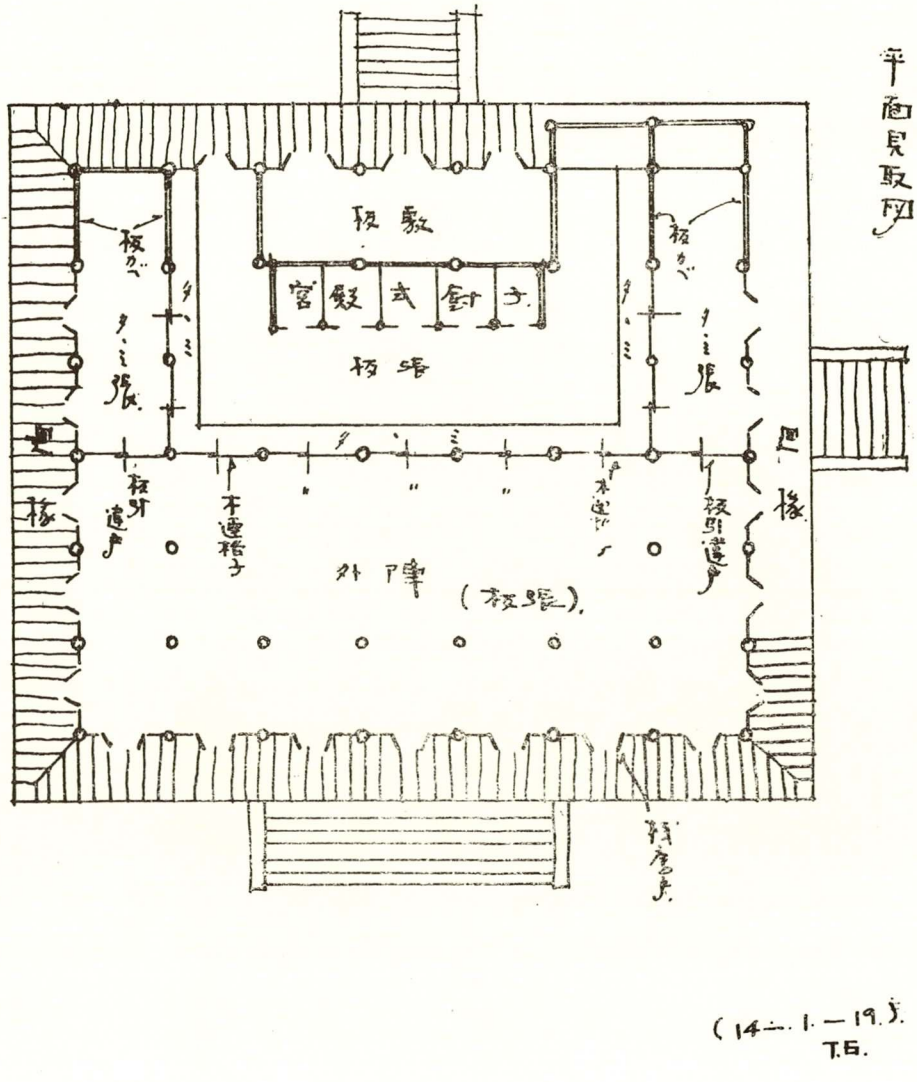
で其の内陣須彌壇の劍巴文様、腰の香狹間、其の他の高欄の金具等甚だ面白いものと考へる。

内陣柱からは側柱へ向つて出て居る一種の蝦夷虹梁を受けるに側柱からは挿肘木を出しこれを交承して居る。

プロポーション――外部雄大な屋蓋は勾配緩で廣く少々重い感じがせないでもない、が大體あまり取立てゝ云ふ程の事も無いだろうと思ふ。

軒廻――軒には二重繁垂を分布して居り、軒端には反轉があり支輪を備へて居り斗拱は實肘木をかき込める和様三手先組物を組み斗拱間の中備には双斗隅の柱頭の大斗には皿斗を付けて居る事蟇股を用ひて居る事等甚だ面白い。で四も注意する必要があろうと思ふ。

Fig. 31





第三十二圖　鶴林寺本堂



第三十三圖　鶴林寺本堂軒詳細

で思ふに本建築には
唐様の手法として、
一、軒先が兩端に行く程著しく反り上る事
二、繪様彫刻のあること
三、蝦虹梁のあること
天竺様の手法として、
一、内外陣を連絡する蝦虹梁を受ける爲に挿肘木を用ひて居ること
二、隅化粧屋根裏なること
和様の手法として、
一、斗拱和様二手先なること。但し双斗は唐様の手法を存して居る。
等の諸點から考へて即、室町時代の和様新派に屬するもので、彼の河内觀心寺の一入發達した物として知られて居る、其の双斗は注意する價値があると思ふ、其他本堂に付て殊に注意すべきは廻椽の束の斷面が圓形である事だと思ふ。
即、當本堂は外觀上其の軒端に反轉ある爲に屋根比較的大なるにも係らず輕快の感じあり其の腰高の廻縁と屋蓋との釣合も善いと思ふ。

第五　鶴林寺護摩堂

構造形式方三間單層屋根入母屋造本瓦葺
建立年代　室町時代
指定年代　大正四年七月二十四日

本護摩堂は確實には其の建立年代は不明であるが恐らくは室町時代の建立と考へる。

プラン――方三間で現今では後面に一間通り柱間を附加して居るから一見すると丁度三間四面の様な形式を備へて居るで方三間の前面中央の間には格子戸を用ひ、兩脇間は板壁とし、兩側面は板壁を用ひて居るが右側の中央の間に現今での後世附加せられた、引違戸と障子とを入れて居る、で背面は即、後世柱間を追加した部分は土壁である。

廻縁は前面のみに附けてあるが當然周圍を繞るべきものと考へる。

内部――床總板張で内陣の中央に須彌壇を設け不動明王を安置して居る、その天井は化粧屋根裏を表はし、内陣柱から側柱に向つて蝦虹梁を架構して居る等唐様の形式が各所に見られる。

軒は一重で斗拱はなく圓柱は直ちに丸桁に附いて居る。

プロポーション――單層屋根入母屋造の本建築は其の屋蓋の形狀はよく整つては居るが屋蓋の重量を支へる爲に周圍に立てられた支柱は其のプロポーションを害する事甚だ大で、この點で自分は支柱に對し甚だ遺憾の意を表はす者である。

で昨夏自分等は淨土寺の方に行つたが當護摩堂も矢張り同僚に依り實測され圖面も大分、數多く且つ詳細に出來て居ることを嬉しく思ふ。

第六　鶴林寺鐘樓

構造形式　三間二面重層袴腰屋根入母屋造本瓦葺
建立年代　室町時代
指定年代　明治四十年五月二十七日

伽藍大體の配置の所で述べた様に當鐘樓は太子堂の背面、本堂の東側にある。

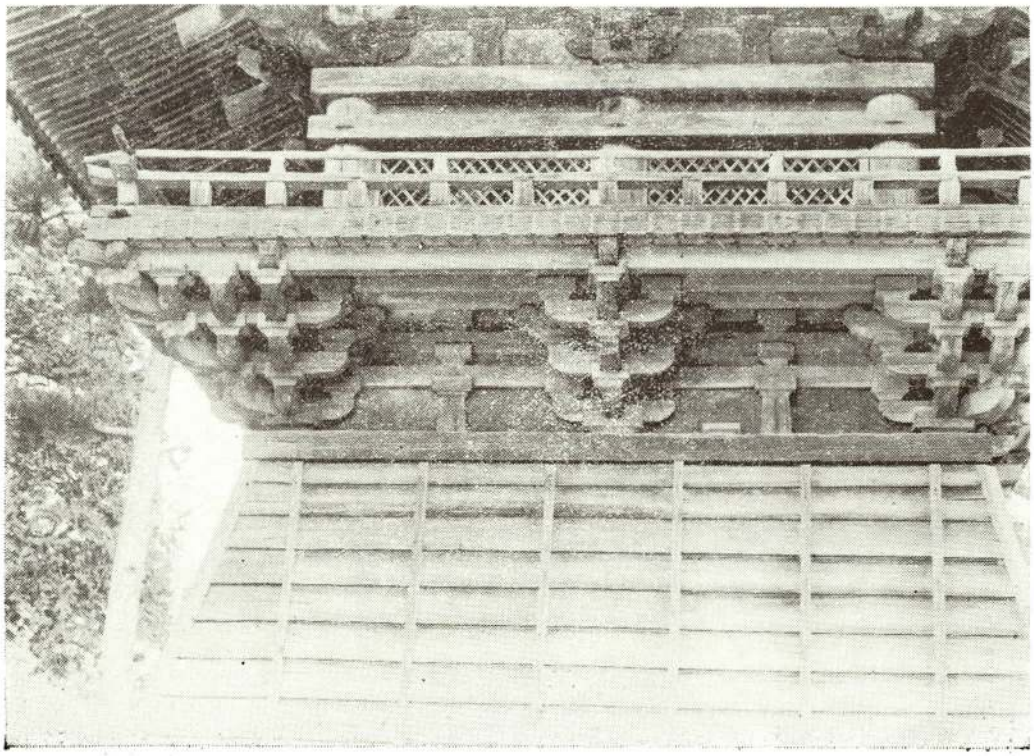
プラン――三間二面重層袴腰の建築でプランの大體第二十八圖に示してある様である、即、上、下層を連絡する爲に勾配甚だ急な階段をかけて居る。

上層床は板張で繞らすに廻縁を以てし高欄を付けて居る。

屋根――は本瓦葺で軒には第三十五圖で明瞭な如く二重繁垂を分布し斗拱は三手先で綱の目支輪を備へ、尾垂、小天井を完備して居る尾垂の鼻の内側に向つて

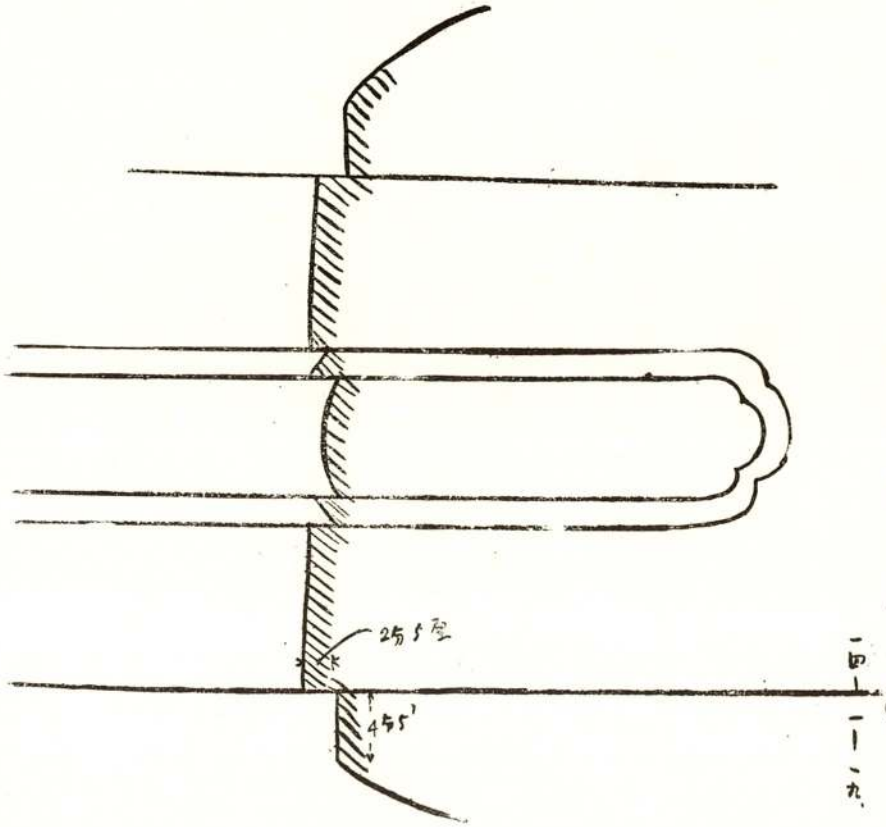


第三十四圖寫眞　鶴林寺護摩堂



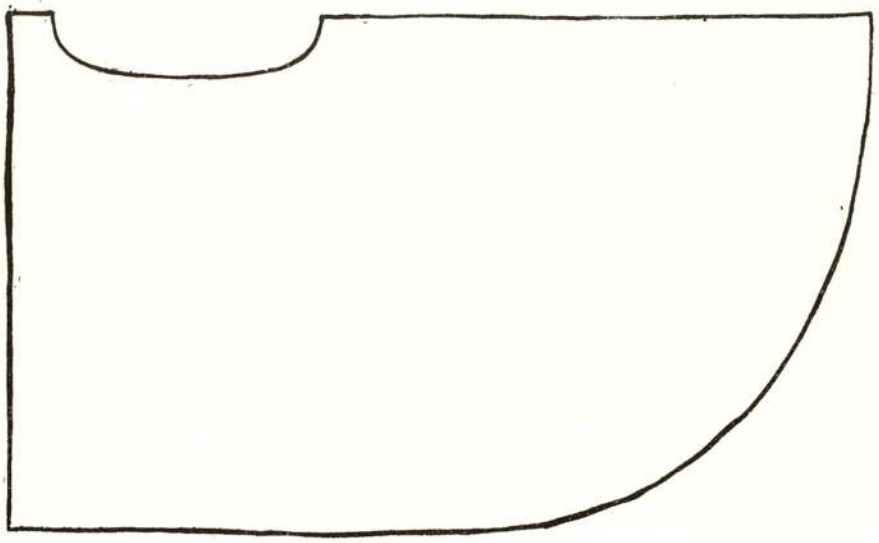
第三十五圖　鶴林寺鐘樓腰組詳細

第三十六圖　（五の八分の圖原）



鶴林寺護摩堂　虹梁彫刻（原寸圖）

第三十七圖　（强一の分二の圖原）



鶴林寺護摩堂虹梁曼陀羅（原寸圖）

切り落しあるは所謂時代の新しい事を思はせる、で斗拱間中備へには斗束を立てゝ居る。

で上層、中央間のみを開放して居り、兩脇間と左右兩側面とには木連格子を用ひて居る。

腰組――は高欄のある廻縁を受けるに三手先斗拱を組み大斗は直ちに袴腰に續いて居る。

外觀、プロポーション――其の重層、本瓦葺の屋蓋に對して軒の出の釣合もよく、且つ袴腰の張樣も廣く力があつて善いと思ふ。

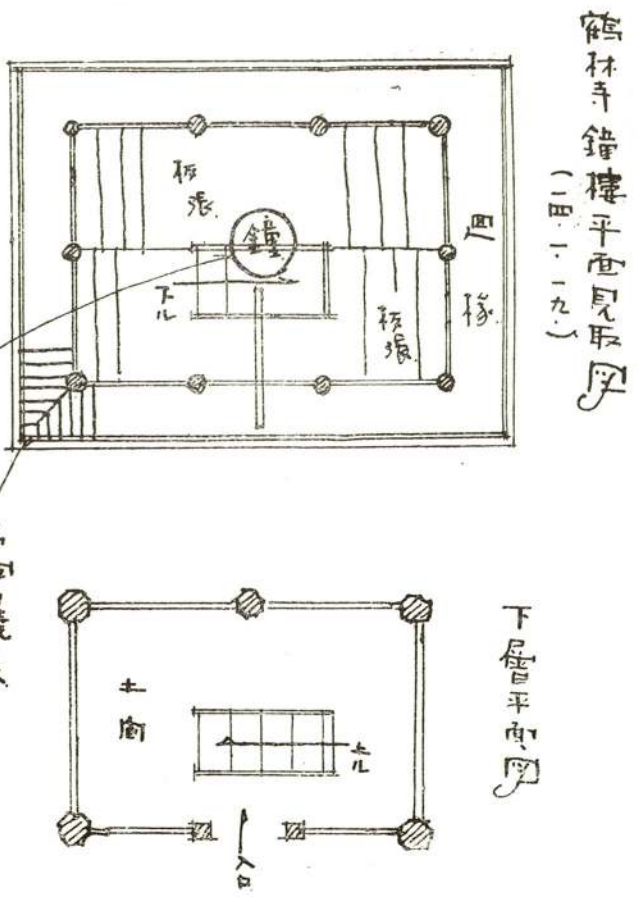
此の鐘樓の中にある鐘は尾上神社にある鐘と共に朝鮮の鐘であつて梵鐘を研究する上からは良標本と考へる。

第七　鶴林寺に藏する國寶に就て

一、聖德太子像　（繪畫）
二、阿彌如來三尊　（同）
三、聖德太子繪傳　（同）
四、慈惠大師像　（繪畫）

×

第三十八圖

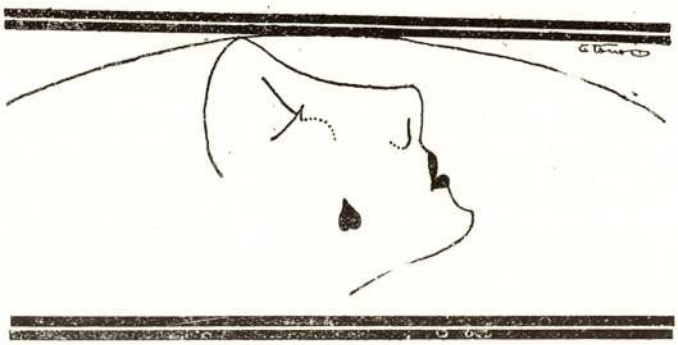


五、金銅聖觀音　（彫刻）
六、十一面觀音　（同）
七、釋迦三尊　（同）

×

八、佛天蓋及扁額
九、鶴林寺銅鐘
十、鶴林寺厨子

×



詩の あ る 建築

北山垣廢園

1

詩のない人生をオアシスなき砂漠にたとへるのはすでに當らない。

詩は單なる休息の水邊、安居の綠蔭ではない。詩は不斷の生活であつて、休息ではない。詩は動中の靜であるだけではなく、靜中の動である。詩は靜まつてゐるよりも激しく動く。詩は活きたる波動である。搖れてやまぬ潮流である。焰、風、呼吸である。とび來りとび去るものである。絕えず生長しつゝあるものである。嘗てあり今あるだけではなく、絕えず來らんとしつゝあるものである。

詩は單に生活を豐かに彩るだけではなく、人生を無限の大空へ擴げる。詩は永劫に進展してやまない生命そのものだからである。人生は詩に依つて炬をともされたる暗き曠原である。

2

藝術は他のなにものであるよりも、純粹なるあるものゝ表現でなければならない。藝術は表現である。その目標とするところは、先づ、自らの表現である。人生に輝きあらしむるもの、美を加へるもの、眞實を建てるもの、これらはもとより希はるべきよき藝術であるかも知れないが、藝術本然の効用は、唯、自らの至高至純なる表現そのものに徹底することこれである。藝術必至の相は、唯、その表限の極限に到つてのみ極まる。

藝術の建つところ、美は建ち、藝術の辱しめらるゝところ、美もまた辱しめられる。美を表現しやうためにのみされたる美は、畢竟、つくられたる美である。少くとも、自ら生れ出づべき必至の燃燒なくして、形づくられたる美である。美のための美は、義のためにされたる義が至純の德たり得ないやうに、最後まで至純の藝術的光輝たり得ない。まして、なんらかの功用のためにされた藝術は、そ

の至高の藝術表現を保持することは能きない。功用はもとよりその功用のゆえに依つて無下に輕んじらるべきものではない。功用はもとより素直に功用そのものであつていゝ。唯、藝術の本然を卑しく曲げてその功用の効果をのみ誤り信じ、ひたすら、藝術のその殺伐なる功用にのみ奔勢するは哀しまるべきである。

建築が他の藝術に相違して、その功用的價値を最も重視さるべきであるとの意見は、すでに聞き古したところである。もとより、建築が全く沒價値に空しく企劃された場合はいざ知らず、建築は建築自身として、他の如何なる藝術も把有し得ない特有の價値を充分有つて然るべしである。唯考へらるべきは、その價値が所謂功用的價値であつていゝことはもとより、その價値はまた建築のみの專有し得る藝術的價値をも當然もつべきものであると言ふことである。從つて、例へば繪畫は繪畫として、建築の企畫し得ない特有の藝術的價値を有つであらうと同時に、なんらの所謂功用的價値をも有ち得ないといふ筈はない。繪畫は所謂衣食住の外であるかも知れない。而も、衣食住の完備のみに依つて生活が滿足に生活され得ないものである以上、繪畫が些の所謂功用的價値をも有つてゐない、或は有ち得ない、と考へることは救ひ難い誤謬である。繪畫を生活から完全に除外し得ない以上は、これもまた建築の企畫し得ない特種の功用的價値を當然有つてゐるものと考ふべきものである。建築のみをその所謂功用的價値に依つて、藝術の圈内から特種扱ひにすることは妥當ではない。建築を、アマアソンは嘗て「凍れる音樂」と呼んだ。「音樂は情操の充分なる言語である」とアリストテレスは說いた。建築がひとり情操の言語であり得ぬ筈はない。建築が優れたる功用である以前に、純粹なる藝術的表現であつていけない筈はない。美は充分こゝに表現されていゝし、情操は充分こゝで語られていゝのである。

3

もとより、建築は純粹に視覺的なものである。畢竟、線、光、色の圈内からその一步をも進出し得ない種類のものである。全らゆる線條、形態、陰影、色彩は最後まで建築をきびしく限定し、掣肘する。表面、輪廓は建築の生命であり、また死骸である。その空間への擴りはあくまで三方向に向はれてゐなければならない。建築の無限性といふことは、三方面へのこの限りある無限の擴りのことである。その美は三面のとり圍み、とり建てる美である。建築は感じられる前に見られなければならない。考へられる前に觸れられなければならない。從つて、その美の作用はあくまで純粹に視覺的なものであるだけであるかも知れない。その美の感覺は單に視覺の達し得る程度を超し得ないかも知れない。目にて覺認し得ない美は建築に於ける選ばれたる美であり得ないかも知れない。その美のリズムは單に視覺を巡る一小局限のリズムの動きにしか過ぎないかも知れない。その美的情緒は僅かに二つの眼を喜ばせ得るだけの情緒であれば事足りるかも知れない。その美の象徵も單に網膜に甘く媚び得る刺戟を作成し得ればすでに最上であるかも知れない。

かくの如く、單に視覺に依つてのみその全的價値を論斷し去られがちであるものに、詩が果してあり得るかどうかは、一見相當の疑惑を投げかけさうであるが而も、建築が單に組成されたるものであ

つて充分でないことは、單に印刷された文字がそのまゝ文學とはなり得ないと同樣である。建築は形貌を構作する以前に、生活せる美を創見する。建築は單なる線條、形態、陰影、色彩ではない。これらのものは單に用ゐられたる藝術表現の特種の具であるに過ぎない。その美は視覺にうつたえらるべきよりも、心胸をうつものでなければならない。彫刻が美を刻り出だす當然の術であるなら、建築は、寔に美を建つべき必至の術である。繪畫を唯に色、光、筆觸と見る者のみ、建築を平面、輪廓とのみ見やうとする。藝術の核心は深く、衣裝の外に潜む。建築の圍むもののしき三面は、畢竟、藝術の衣である。從つて、單にその外裝に現はれたる絢爛華麗、若しくは粗細淡雜等は、もとより建築の內質とは深密なる交涉を有ち得ないものである。藝術のまことの藝術的耀香は視覺の安易にとゞき得る世界にはない。單なる視覺は、畢竟藝術の內奥を覗ひ得ないものである。念のために附記するが、建築の藝術的價値はもとよりその建築素材の如何には關はりはない。その感觸さるべき美的情緒はその素材のもつ雜多な趣味ではなく、藝術そのものゝ生命的光輝である。建築を木材石塊と感じる者は、繪畫を顏料額緣と見る輩である。こは、牛乳を牧場と見ると同樣の奇矯の痴れごとである。從つて、建築は形貌であるよりも內質であり視覺さるべきものであるよりも省感さるべきものである。或は、素材以上、線以上のものである。

4

アリストテレスの「詩學」は確然たる詩の定義の見當らないことは、詩が如何にギリシア時代から常識であつたか、また常識ではなかつたかの、自らなる雄辯なる反證である。詩は極めて理解され易く、され難い。嘗て詩を書いた數千の詩人はあつて、詩を說きつくした詩人は數人もない。詩は最高至上の人生であるからである。

詩は、先づ、あくまで靈魂的なものである。外に組立てられず、內に湧きあがるものである。四周に求めて斷じて得られず、心底に見出さるべきものである。詩の耀香は靈魂の生氣である。

詩の故鄕は、高きものへ憧るゝ心である。深きものを覓むるたましひである。詩の至純はこゝろの至純である。詩の淸澄はたましひの淸澄である。

詩はつくり出さるべきものではなく、生るべきものである。詩は單なる姿ではなく、心である。おのづからなるリズムである。

詩は單に神經の敏尖と微妙とを銜つた感覺的な趣味ではない。詩は單にその表に新麗と優婉とを纏うた敎養ではない。詩は單なる技巧と官能との卑俗なる遊戲では勿論ない。

詩は眠りの樂園、遊びの天國ではない。頽廢、淫佚、享樂が詩の本領ではない。醉つてゐてもゐなくても一種の陶醉者であつたと言はれるアラン・ボオは「詩は私に對しては感情であつて目的ではない」と言つたが、詩はもとより功用を目先きにつり下げた目的ではないが、單にその場限の生活氣分に浮沈する輕易な感情でもない。おしやれ詩人アガトンは嘗て「美しい着物を着なければ美しい詩が書けない」と言そたさうである。似而非詩人である。

詩は單に悲哀の戰慄でもなく、歡喜の哄笑でもない。詩は單に人間苦樂の安價な象徵でもない。

詩は脈うつ生命である。詩の格調は生命の澄朗に從うて清朗となる。生命は宏遠なる永劫より來るものである。詩は天地の不滅と俱に不滅である。靜かなる永遠である。

5

建築はもとより建築的効用に從つて建てらるべきものである。宮殿、寺院、劇場、墳墓、監獄、住宅に至るまで、全てこれ特定の建築的効用を充されんがために企畫されたものである。その建築的價値は。勿論、効用的價値に於いて極めて重大でなければならない。劇場は劇場として、監獄は監獄として、一個人の住宅は住宅として、その特發の効用に極めて適切でなければならない。利用され得る限りの新しき科學は賢く利用されて、その効用をして全からしめるため、その利便を加へることに役立たなければならない。術としての建築は、今日までその藝術的表現としてよりも、効用的樣式として主として發達して來た。新しく加へられ創り出されたる建築素材の種類につれて、科學の燦んなる發達に助成されて、新しき術は日夜に案出され研鑽されつゝある。建築術の多種多樣はおそらく今日を以つてその局限に達したかと考へられる程でさへある。術としての價値があくまで科學そのものに建てられ、その効果が極度に効用化されたことは當然喜ばるべきである。唯、考へらるべきは、建築が藝術であるためには、如何なる効用的製作に於いても、そこに見出さるべきなんらかの藝術的靈感、生命的光輝がなければならないといふことである。唯粗立てられたる素材がそのまゝ喜ばるべき建築とはなり得ないものなのである。

或は、建築は勿論平面、輪廓を以つてその藝術的規矩とするものである。その價値はその立體的形貌を對象として發展したる價値である。而も、單に平面と輪廓とのみでこの生きたる空間を占有してゐることの能きない事はすでに說いた。建築は單に限られたる空間であるだけではなく、限られざる美であらねばならない。建築は單なる線の遊戲ではない。藝術であることは素材である事でもない。視覺が視覺としてのみ殘され、眼前の現實が現實としてのみ終つてゐるところに藝術の出發はない。建築が藝術であるためには、そこに覓めらるべきなんらかの心情的香氣、靈魂的氣韻がなければならない。單なる表現のための表現は正しき建築を創生する所以ではないのである。

畢竟、こゝには、建築となりたる情操がなければならない。建築となりたる人間がなければならない。創造されたる建築の個性がなければならない。情操は作者の情操でなければならない。人間は作者自身でなければならない。個性は作者の個性でなければならない。その作者は言ふまでもなく、正しきまことの藝術家でなければならない。建築は單なる事業ではない。建築家は嘗て誤り考へられたやうな事業家ではない。事業は單に或る程度の世才に依つて歪みなく遂行する事は能きる。藝術は所謂世才に依つて左右されるにはあまりに非事業である。坊間ありふれたる藝術的良心のなき請負業者を、直ちに優れたる建築家であると斷じることは正しくない。正しきまことの建築家は、まことに藝術的生命を體得したる純然たる藝術家でなければならない。即ち世才に汚されざる魂でなければならない制作の高き氣韻はその作者の高き氣韻である。作者の氣韻は彼のもつ詩の氣韻である。詩は藝術家の必至の生命だか

らである。詩が建築に於いて單にあり得るだけではなく、必ずあらねばならぬ所以はこれである。

6

「人、各々その周圍に美を求めよ。しからばそれをいづこにも見るだらう。清き眼と素朴なる信仰とをもつて爾自らの中を見よ。しからば爾の魂の中に神を見るだらう」とエマアスンは嘗て歌つた。

詩のこゝろは實にこれである。詩人の魂はこの意圖に依つて不斷に熱せられたる焔である。

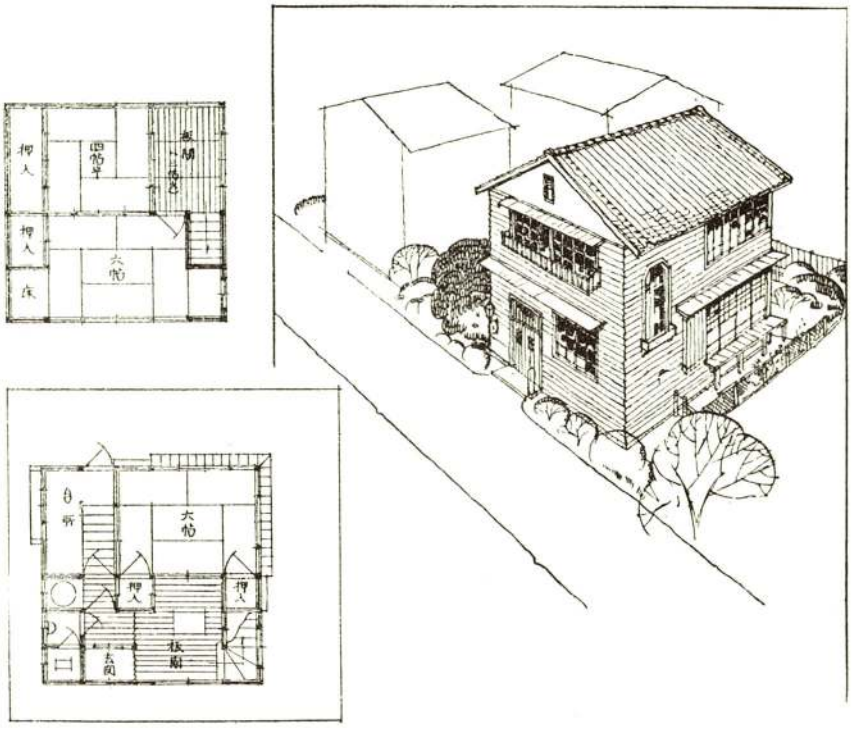
正しきまことの藝術家は、例外なしに、詩人である。その心情の典雅豊麗なると、その主觀の强烈濺溌たるとを問はず、意想の新尖警拔なると、思考の深刻切實なるとを論ぜず、兎にも角にも、その胸に詩を、その魂に情操をもつてゐるであらう。詩は人生の首飾りであるだけではなく、なくてかなはぬ日夜の糧食である。

從つて、今や、建築家の詩人としての主觀の確立がなければならない。詩を不斷に生む建築家が覓められなければならない。建築が一個の個性ある詩とならなければはならない。生きたる詩として認識されなければならない。日は新しくされなければならない。詩は今や甦えらせられなければならないものである。

言ふまでもなく、嘗ての建築に詩がなかつたと言ふのではない。嘗ての建築家が詩人であつたことがないと言ふのではない。唯、現代の殆んどの建築が、今や徒らなるジャアナリズム、コンマアシャリズム等に禍ひされて、外に術としての燗んなる發伸はあり乍ら、内に藝術としての激しき生長なきを哀しむのである。表現の單なる多種雜多が直ちにその表現技巧の正しき生長であると考へることは能きない。技巧に由つて來るべき藝術本然の必至の力調がなければならない。表現は建築の質的内奥に根底深く確立されたものでなければならない。詩の世界は單なる時代的臭味に依つて、徒らに狹められてはならないものである。

今や、如何なる建築が建てらるべきかよりは、如何に建てらるべきかゞ問題である。建築のまことの藝術時代はこれからである。

井戸端にわが浴び浴ぶる
水の音
水のたえまに鯛（かなかな）きこゆ



案　私　宅　住

（三）



農民住宅の考察

淡路素元

×

時代は對立といふことの喜ばれる時代であります。反動に反動の時代であります。何も彼もを反動の連續と見ることさへ必ずしも奇異な觀察であるとは言へない位です。反動は言はゞ必至の勢であるとは言へませぬ。從つて、何等かの反動に依つて、全く反動的に現はれたものには、從來大してその成績の見るに足る程のものゝなかつたのは事實でありますが最近三四の有識者に依つて提唱考察されつゝある農民藝術なるものは、それがその聲を大いにして說かれつゝあるやうに眞實母なる大地といふものに確固たる深き根底を有してゐるものであるとすれば相當見るに足るべき高き必至の意義を有つてゐるだらうと思はれます。この農民藝術なる言葉はもとより都市人の藝術に對並するものとして提唱され出したものであるのは明らかでありますが、それは唯單に都市人の皮相なる所謂田園生活の趣味的記錄であるに止まらず、農民の全らゆる生活意慾の必至直截なる表現であることを要します。農民生活そのものゝ赤裸の相の激しき生命的示唆であることを要します。生活の全らゆる粉飾的表裝は剝ぎ去られてゐなければなりませぬ。人間性の端的な象徵具象であることにのみ、その生活の眞義は認められるべきものであります。

反動は流行といふものを生みます。流行といふものは相當好意的に觀ましても單に毒にならない趣味に止まることが普通であります。都市人藝術の反動として提唱され出したものではありますが、農民藝術の問題は今や單に一個の趣味的問題に過ぎないであることは能きませぬ。藝術はもともと生活の藝術であつて、趣味の藝術ではありませぬ。藝術は單に趣味として扱はれるにしては必至にすぎ、複雜にすぎ、積極にすぎます。藝術は生

活がさうであるやうに、無限の若き創造であります。そして、その生活は生活者の生命の擴大され凝充されたる無比絶對の光耀であり火華であるべきであつて、平俗凡雜なる一片の灰土、廢芥ではあるべきではありませぬ。その生命は極めて端的直即的に再現され具象されて、初めてその高邁なる氣品を有つべきものであります。藝術は徹頭徹尾生活として說明され考察さるべきものであります。

×

農民藝術と稱へられてゐるものゝうちにも、もとよりその意味するところに多少の相違はあるやうであります。農民自らの制作にまつ作品であると見るのと、農民以外の作者の企てた農民のための藝術であると見るのと、或は廣義にその作者の如何を細かく問はないで唯農民の生活を表現したものであると見るのと、或は其他三四の異つた考察も能きるでありませうが、こゝでは强ゐて農民自らの手になる農村生活の表現であると限定しなくとも、唯農村生活の眞摯なる表現であればいゝといふ解釋に從つてをきます。

身自ら農民でなければ農民藝術は製作し得ないといふ議論は一應充分妥當な意見であるには違ひありませんが、農民自らが自己の生活に全く醒め、ひいては眞に藝術的に覺醒しない以上、その成果をあてに能きない將來に待つて、いつまでも農民藝術を愚昧卑俗の農民そのものに放任して、その高き深き意義を何時の日までも芥塵の中にをくことは、決して策の萬全を得たものではありますまい。すでに歪み曲れる過去の傳統を兎にも角にも死守して、固陋頑迷なるものにして農民の如きはありませぬ。由來保守を最上の常識とし、退嬰を無比の美德と慣はして來た農民です。醒めたる若き時代の農民と呼ばるゝ地方青年の一團すらも、今のまゝの狀態に於いては、畢竟するに生活の常識の水平線にまで辛うじて到達し得たか得ないかの世間知らずであることが多いやうです。もとより農民の運命は一つに懸つて農民そのものにありますが四周の今日の事情は、農村を農民のみの手に委ねて安んじて將來を待つにはあまりに氣急しい即迫を受けてをります。問題は重大な生活問題であり、社會問題であり、文化問題であります。農村を考慮に入れないで、都市を考察することは今は能きませぬ。近代文化が都市を離れて存在し得ないといふ傾向は、今やその反動に依つて、農村を考へないで社會の發展生長をにはかに論斷し得ないといふことになりつゝあります。農村問題は唯農民自らの問題であり青年會處女會程度の問題であるだけではなく、全國民の問題であり、ひいて世界人類の重大緊密な問題であります。無氣力無自覺を以つてその天性の如く見做さるゝ農民自らをしてこの問題の解決に當らせやうと望むことは頭初より妥當ではありませぬ。殊に藝術に關する問題は格別であります。農民總體として高き藝術的敎養を有し得るの日は又別の問題として、今日に於いては身自ら農民ならざる藝術家も、その問題に對する信念態度の眞摯である限り、この農民藝術製作の理由と特權とを大いに有つていゝわけであります。農民藝術が廣く總體的に提唱され、考慮さるべき理由は一つにこゝにあります。

×

こゝに言ふ農民住宅は、農民藝術のうちにあつて、最も農民の日夜の生活そのものに直接的な交涉をもつものであつて

所謂實用が藝術化され、藝術が實用化される境地にその價値の根底を有つものです。生活に於いて、農民は樂しむよりも苦しんでをります。生活は唯實利といふこと以外に意義を有してゐないかの感があります。所謂營々として夏日冬夜に勞苦するところの者は、唯作物の僅少なる僥倖的增收を果つて、それを金錢化しやうとすることのみにかゝつてをります。生活に遊逸の餘裕を有たず、忍屈の慣習にすでに意氣地なくされてしまつてをります。加ふるに高邁な生活的意志に乏しく、深重なる社會的識見がありませぬ。ある者は頑愚、固陋、風俗に終始して自ら厭かない卑屈なる退嬰的常識です。曾ての住宅に大いに自誇して足るべき藝術的光輝なく、躍動する生命感も示現し得なかつたとしても寧ろそれは當然です。從つて、こゝに意味する農民住宅は、在來の所謂片田舍に散在する濕氣と光線不足とに陰惠にされ、かまど一つをもこの二千年來改良することを自覺せずに來た在來の窓なき田舍風の住居を指すのではありませぬ。求むべからざるところに强て異を求め、その影もなき藝術的光輝を必ず存在するものとして强辯しやうとするのは、まことに農民住宅を知るものであると言ふことは能きませぬ。在來の住宅にも相當の實用的價値はあつたことはもとより認めますが、その藝術的價値を高く評價することは能き兼ねます。從來何等特筆さるべき改良もされずに今日まで來た所以は、その住宅構造の優秀なりしためにはあらずして、反つて、その居住者である農民の豚の如き無自覺海鼠の如く無敎養にして、加ふるにすでに世襲的なる長き忍屈生活に慣れ、進んで積極的に人生へ働きかけやうとの何等の熱意をも有たず、唯ひたすらなる舊狀保守を絶對の美德なりと思惟したことに由つてゐます。時代はすばやく動きます。農民住宅といへども、今は單に雨露をしのぐに足る牛小屋と等しきものであるだけではなく、生存し、生活し、すゝんで自己の高遠なる理想を建て拓くべき場所としての、たましひある人間の住宅であることを要します。曾てオスカア・ワイルドは生活するといふことはこの世にあつては眞に稀有のことであつて、大低の者は單に生存してゐるに過ぎないといふことを言つてをりますが、住宅が單に生存の場所であつてならないのはもとよりのことです。近代農村に於ける唯一の偉大なる創見は、住宅の生活化といふことです。生活は藝術へまで高めることに依つて、その本義を極めます。ひいて、住宅は藝術であることを要します。住宅問題は今や藝術問題であります。

×

農民住宅の今日までの狀態に就ては、一八四五年身自らコンコオドの近郊ウォルデンの池畔なる原始林に簡素なる一小庵を營み、そこに於いて、「人若し簡易質朴にして、些かの無駄もなき生活を營むものとすれば、僅かに六週間の勞働を以つて一ケ年間の生活を支持することはさほど難しいことではない」との信念に達着するまでの單純生活に沒入し、つぶさに規代生活の種々相を考察してあまさなかつたヘンリー・デイ・ソロオが、その名著「ウォルデン」に於いて說破せるところのものが、時代はすでに以來七十年にはなりますが、今日も尙ほ相當信用していゝ記錄として殘されてあります。便宜上今少時彼の說に聽いてみる事にします。

彼は先づ文明野蠻兩社會に於ける住宅問題に論及してをります。彼に依れば、

未開狀態にあつては、各々の家族は各自その力で能きるだけの範圍で、その粗野で單純な慾望を滿足させるに充分な住宅を一軒づつ所有してをります。然るにどうしたことか、空の鳥には巢あり狐には穴あり、野蠻人（こゝでは印度人を指してゐます）すらも小屋を有つてゐるに拘はらず、現代の文明社會に於いては、自分の住宅を所有してゐる家族がその半數にも充たないと言つても過言ではないと思はれます。而もそれは控え目に言つての話であります。殊に文明の發達した大都會に於いては、住宅を所有してゐる者の數は全體の極く一小部分にしかすぎず、その他の人々は、今では夏も冬も絶對的必要のものになつたところの外部の上衣即ち住宅のために、印度人の小屋を一村全部を買へる程の家賃を拂つてゐます。しかもそのためには、彼等は却つて一生涯貧乏し續けてをるのです。こゝで家を借りることはこれを所有することゝ比較して不利益であると主張するのではありませぬ。唯野蠻人はその家の價が安いからこれを所有し、文明人はその家を所有することが能きないからこれを借りるのだと云ふことは明白なことです。しかも文明人と言へども長い月日の事を考へてみると、家を借りるのは買ふよりも決して容易であるとは言はれないものです。しかし或る人は言ふでありませう、文明社會に於いては唯家賃を支佛ふだけで以つて、貧者と言へども野蠻人の家と比較すれば殆んど宮殿と言つていゝやうな住宅を得られるではないか、一年に二十五弗乃至三百弗もちやんと拂へば、これは田舍での相場ではあるが、その人にとつては數百年もかゝつて進歩した文明の恩澤、たとへば、壯麗な部屋や清潔な塗料や紙で裝飾した壁や、ラムフオード式煖爐や、裏張りや、ヴエネチヤ式日覆や、銅製のボンプや、旋條錠や、便利な地下室など、其他種々な設備を使用する權利を與へられるではありませぬか、と。しかし、これらの品物の恩惠を享樂するといふ人々も、その多くは「貧乏な」文明人であつて、これらのものを享樂しない野蠻人も野蠻人としては富豪であるのはどうしたことなんでせう。

彼はすゝんで農民往宅に就いて委細をつくした言ひ廻はしを用ゐてゐます。彼に依れば、コンコオド近在の農民達のうち、少くとも他の職業を營んでゐる人々と劣らぬ程度の生活を營んでゐる者を見るのに、その田畑の大部分は親の代から借金の抵當になつてゐるのを自分が相續したか、或は自分が借金をして買つたものであります。そして彼等はその田畑の眞の所有者になるために二十年三十年、若しくは四十年間も苦勞をしてゐます。——しかもその勞働の三分の一は住宅の代償です。——しかも未だ概してその代價を償却してしまつてはゐませぬ。事實上種々の負擔のために、田畑の經營費は殆んど田畑の眞價に超過し、遂には經營費そのものとなり終つてゐます。しかも彼等はこの事情を熟知し自らもそれを告白し乍ら、尙ほその田畑を相續するのです。稅務官にきいてみますと、驚くべしこのコンコオドで何の煩ひもなく全く自分の農場を所有してゐるものは十二人を超えないといふことです。若し各戶の歷史を知らうと思へばその宅地を抵當にとつてゐる銀行できけばいゝわけです。農場に依る勞働を以つて到頭その代價を償却した人は極めて稀で、かうした人が在ると誰にでも近所の者に聞くと名指しをしてみせる位で、この種の人はこのコンコオドに三人もをらぬでありませう。か

うした勞苦の果て、彼等が自身の住宅を所有するに到つた時には、ために富を增す處か、一層彼等は貧しくなるのです。彼等が住宅を所有したのではなく、住宅が彼等を所有したのかも知れないです。モオマスはミネルヴアの建てた住宅を、惡い隣人を避けるためにどこへでも移轉能きるやう建てなかつたと言つて反對しましたが、これは正當な反對だと思はれます。そしてこの反對は今日に於いてもやはり主張する必要があるのです。何故なら今日の家屋なるものは非常に不便利な財產であり、我々が家の中に住むといふよりも寧ろ家の中に幽閉されてゐると言つた方がよく、又我々の避けぬばならぬ隣人とはこの汚い我々自身だからであります。この町に於いて、少くとも一二の家族が町外れにある彼等の住宅を賣却して村へ移轉しやうと五十年近くも心の中に思ひ乍らもそれを成就し得ないでゐるのがありますが、死して後彼等は初めてその自由を得るでありませう。

ソロオは一進し一轉して住宅なるものが果してかくまで勞苦して獲得しなければならない程のものであるかないかを考察してをります。多數の人々は遂には新式の住宅をその進步した種々の設備を俱に、容易に所有したり、或は又借りし得るものと假定せよ、と彼は提案しましたしかも彼に依れば、文明は住宅を改良はしても、それと俱にその內に住む人間までを改良し得ないのであります。文明は多くの宮殿を建てましたが、王や貴族を作り出すことは容易くはなかつたのであります。故に、若し文明人の追求してゐるところのものが、野蠻人のそれよりも一層尊くないとするならば、又若し文明人もその一生の大部分を單に日常の生活資料と娛樂とを得るためのみに消費してゐるものとするならば、前者が後者より更によき住宅に住まねばならぬといふ理由はどこにありましようか。住宅問題もこの意味では畢竟するに無意義でしかないといふことになります。

×

農民生活の實際が、農民自らにとつて或は農民への理解と同情とに深厚なる有識者にとつて、如何に考察されつゝあるかは、「ヘンリ●ライクロフトの手記」の著者ジョジ●ギッシングの委曲を盡せる才筆に待つ方が理解への近徑ではないかと思はれます。彼はその死の兩三年前、一九〇〇年の頃、エキセタアの舊部に近きデヴオンの農村にあつて、深く農村田園の相を觀考しましたので、その言は今も信ずるに足るべきものであります。彼は唯徒らなる農民生活への冷眼者ではありませぬが、先づ反語をもつて語り初めてゐます。

農村に働く農民が自らと俱に勞役する家畜と殆んど同一の平面に立つべきことは、彼に依れば、一向望ましくもなければ又必要なことではありませぬが、事實上農民は殆んどさうしてをります。從つて、今日では最も遲鈍な農民のみが農民をしての生活に甘んずるといふ話であります。新聞を讀むことを敎へられたその子供達は、新聞の印刷される約束の地へ大急ぎで出てゆきます。ここに何か全然まちがつたことがあるといふことは、如何なる說敎師からも聞くを要さぬところであります。一人の豫言者も未だ曾てその救濟法を指示することすらしませぬ。農業は現代に於いて雄辯に褒めあげられますが、それは——農業生活がそれ自身に於いて溫和な感情や快い瞑想や其他一切の人間的美德に貢獻するといふ——一

つの虚僞を證明しやうと努めるので折角の骨折りも大部分は徒勞に終つてしまひます。農業は最も骨の折れる勞役の一つで、そしてそれ自身に於いては決して精神的發達のたすけとなるものではありませぬ。それが世界の歷史に於いて一つの文明的役目を演じたのは、唯富を作ることによつて一部分の人類を鋤鍬の勞働から解放したといふ事實によるのであります。幾多の熱心家は自ら農民にならうとする實驗を試みました。その一人は左の如き注意すべき文字を以つて彼の實驗を記してをります。こゝで、ギッシングはナサニエル・ホウソオンの言葉を引用したのであります。

「おゝ、勞働は世界の呪咀である。何人が幾分獸類化することなくして、これに從事し得るものがあらうか。余が牛馬に糧餉を與へるために貴重なる五ケ年を費消せしことは、果してこれは賞讃に價する業であらうか」

早速加言して、ギッシングはホウソオンは幻滅の苦しさのためにあまりに行きすぎたのだと論じてをります。彼に依れば、勞働は或は厭はしい人間を獸化するものであらうし又屢々實際さうしたものでもありましたが、しかしそれは斷じて世界の呪咀ではありませぬ。否、却つて世界最高の幸福であります。ギッシングに依ればホウソオンは愚行を演じたのにすぎませぬ。そして彼は心の權衡の喪失といふものでこの價を支拂つたのであります。けれども幾多の人々はこの職業のもつとも高尙な方面を認めるでありませう。何故なれば、勿論これは人類の食物を作るといふことを意味するからであります。この引用文の面白いのは、ホウソオンの如く聰明な人も全然無意識で農村生活に反逆する現代の農業勞働者の心境に落ち込んだといふ事實にあります。現代に於ける農民の最惡な特徵はその無智や粗野等にあるのではなく、その叛逆的な不平心にあるのです。一切の他の害惡と等しく、これは事物の狀態の避くべからざる結果のやうに見えます。人は唯それを知りすぎてゐます。牛飼ひは自分の生活を改善しやうとします。彼は牛や馬を養ふことを苦しくおもつてゐます。彼はロンドンの鋪石の上ではもつと男らしい風姿を以つて歩き得るものと想像してをります。

×

問題提唱考察はすでに解決であり得ます。主張は强ゐて特異な詭辯であることは要しませぬ。求めらるべき農民住宅の結論もすでに明らかであります。

即ち、先づ求めらるべきは、農民自らの覺醒にまつ農村生活の新しき出發開展であります。農民の生活的覺醒とは新聞紙の誇大報知に眩惑され沒自己にされて厭くなき物慾にすでに窒死せんとしつゝある都市へ周章して赴くことではありませぬ。物質文明への田舍者覺醒をのみ、新しき農民必至の覺醒であるとは呼び得ませぬ。農村の青年子女が他におくれずして近代文化の豊かな敎養を得て生活に輝にあらしめるのは、もとより望ましいことではありますが、唯單に一見派手らしく見える都市の文化を、しかもそのうちの極めて卑俗にして刺戟的なるものを何等の深き反省もなく其まゝ農民のものたらしめやうとあせつてはなりませぬ。せめて素朴なる農村の青年子女がすでに爛醉し墮落し去つた都市人を今改めて眞似、その高き本務を忘却して、誤つて都市の塲末の不良職工となり賣淫女となり下ることは農村を汚すわざです。牛飼は

ロンドンの鋪道の上に塵を漂さうよりは綠の牧場に潔き生活の熱意と俱にひたすら愼ましく自らの馳場を守つてやつて然るべきです。從つて、農村の都市は、それも都市本來の高貴なる意義を沒却せる俗雜なる血腥さき都市に似せて、その後塵を喜び拜すること、このことは農村の疑ひなき墮落です。農村の卑しき都市化に依つて農村の開發を希ふものは、葉鷄頭に依つて火を得んとする輩です。農民は農民自身、農村は農村自體としての、その各々の確固たる自覺と認識とにかへるべきであります。

まことに萬物の母なる大地に靜かに愼ましく立脚し得て、自己の信念にひたすら眞摯直情であり得る時、まことに農業は斷じて世界の呪詛ではなく、世界最高の幸福であります。如何なる生活も自らを潔くする者にとつて卑しくはありませぬ。「最惡なる不平心」を去つて、自らの生活へ唯ひたすら躍進してゆくべきであります。所謂農村の行詰り、疲弊といふことも、いつもいつも、このまゝの眞の農民としての自覺なく、舊株を守つて徒らに頑迷であるか、都市へ走つて輕佻であるかすれば、これ以上何等の新しき曙光の見にぬは當然です。農村はもともと地獄ではなく、母なる大地の恩惠に充ちたる樂土であります。農民の一度び正純なる自覺に立つの日が來れば、今日の農村の疲弊と暗濕とは、漸次消滅し去るべきは火を見るよりも明らかであります。

農民藝術はこの生活的自覺の上にのみ建ちます。殊に住宅はその居住者と離すべからざる關係にあります。再びソロオの說を引用する煩はしさを繰り返へせばソロオの承認する建築美とは、その唯一の建築たる居住者の必要とその品性とに基いて、その內部から漸次外部へ向つて發達したるもの、即ち少しも外觀に關係なく、ある無意識なる眞實と、高尙なる品性に基いたものを言ふのであります。そしてこれらに附隨的の美が生ずる場合には、それは如何なるものであつても、內部に先づそれと同一の生活の無意識的の美が存在してゐて、それに附隨して來るべきものなのであります。即ち、住宅の美なるものは、決して外觀だけの手際よき美しさの謂ではなく、居住者の生活の何等の虛飾なくして素朴なるを、ひいてその殼たる住宅の樣式の何等強ゐたる美的效果の卑しき跡なきものを言ふのであります。これ以上の附言は無駄であります。プロテナスはその著のある所に於いて「無形美」即ち神性な美について語つたあとで結論して次のやうに說いてをります。

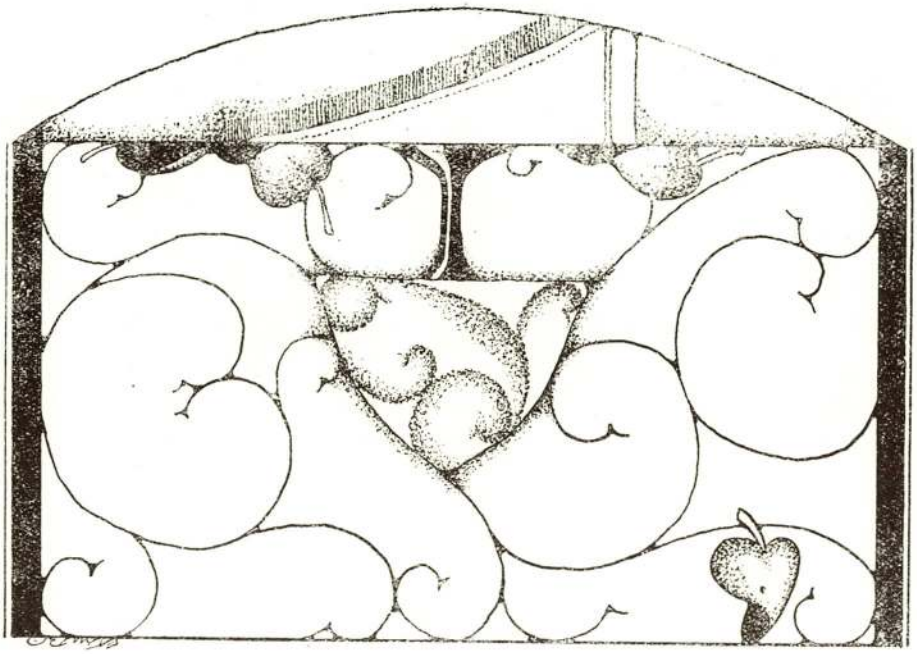
「我々自身に關して言へば、我々が我々自身のものであるときは美であり、我々が我々自身を我々の下賤な性に下す時は醜である。また我々が自己を知る時が美であり、我々が斯る知識を有たない時が醜である」

新しき自覺は新しき認識を生みます。新しき認識は當然新しき形式を創成します。農民住宅の新しき形式はこゝに煩はしく細記するまでもなく、この必然の勢を以つて當然創成さるべきであります。その美と力とは外よりは招致されず、內より釀成されるでありませう。もとよりそれは農民生活の高き理想と信念との極めて端的直卽的なる生命的表現である筈であります。こゝでは、農民は決して惡しき不平心を胸に抱きつゝ勞苦することなく、大地の上にまことに力づよく立脚して、勞働の歡喜と美とを歌ふでありませう。その住宅は正純なる農民生活の樂土となり、濕りと不平との暗らきかげは

明るき時代の光輝に依つて消滅し果てるでありませう。農村は當然輝かしき繁榮の土地となり、清純素朴なる藝術の種々が、そこに高貴な文化の華をひらくでありませう。

先づ自らの理想を母なる大地の懐にかへし、自らの衷心に固き自覺の旗を建つべきであります。新しき正しき形式はうち深く潜んでをります。先づうちに正純なる生活意志の確立が望まるべきであります。一切は正しく生活化されなければなりませぬ。正しくされたる生活は、そのまゝ、高き藝術であります。

さやさやにさやぐ青葉
の枝見つつ
沖の白浪をもひねにけり



創作

「親子」兄弟

八畑幸二

綺麗に鬚をすると、男にしては少しなまッ白いたちの皮膚だから、鬚の跡が惡く云へば「鯖の皮」を思ひ出されるが、見ただけでもさつぱりするし、それにくすんだネクタイを器用な指先きで、きちんと結んだ洋服姿を見る人は、なるほど年相應な、と見てくれるのだが、生來の不精者はとかく身の廻りを構はなさすぎる。「鯖の皮」の下からは忽ち松の落葉の様な鬚が生え出して、なま白い皮膚を亂暴に被つて終い、それに『俺は變つた風が似合ふのだ』といふ一種の自信から、だぶ〳〵のルバーシュカを着込んだりする。だから如何しても、年より三割方ふけて見られる。腰の處から赤紐の結び下りを見せ、幅廣い肩を、心持ち左をあげて歩くのを見ると天晴な男振りだ。『あなたはどうしても十六貫ありますね』御世辭でなくこんな問がしば〳〵出される。その度に苦笑するのだ。實は此の男、骨と皮の男である。だからそれを知つた者は、皮をはぐと痩せて居るところから「筍」といふ名稱を奉つて居る位である。

しかし「筍」はこれが不服だつた。

『俺は生れつき顔が大きい、眼も鼻も口も、顔の造作全體が大きく出來て居る。一度見たものは一生忘れられない印象を、此の顔が與へ得るのだ。一里先きから、俺の歩くのが解ると野次つた者さへある位だせめて「顔役」といつてくれ』と、筍は大いに辯明した事もあつたが、矢張り「筍」になつて終つた。

此の「筍」がよく自分の側に、十三四の此頃中學に入つた子供を連れて、往來を歩いて居るのが見られる。

『妙なりをした男だ』と、往來の人が振り返つても、「筍」は平氣の平左だ。連れの子供も、よほど馴らされたと見えて、腰高にはいた袴の裾を、朴歯の足駄で自棄に蹴り上げながら、話しながらついて來る。

よく見ると、やがては「筍」以上に延び相なヒヨロ長い子供で、骨格は少しも似て居ないが、眼鼻に共通點がある。

何時か二人が連れ立つて歩いて居たのを見た「筍」の友達が、

『あれは誰だい?』と、顎で指しながら訊いた。

『あれ?』「筍」は、その顎の方を見た。連れの子供はいつのまにか「筍」の側を離れ、電燈の反射を受けて、登山姿の青年が、泥繪具でべたぬりにぬりつぶされたバックに、袖なしのシャッやパンツが、奴凧の様にピンで止められた運動具店のショーウキンドーの硝子に鼻をひつゝけて、のぞき込んで居た。

『あれかい?』も一度「筍」は念を押した。

『ウン』

『あれは、俺の弟さ』

あたりまへの事を訊く男だな、と「筍」はまぢ〳〵と友達の顔を見入つて答へた。

『君の弟か?』まだ合點がゆかぬらしく、「筍」の弟の後姿と「筍」とを見較べながら友達は云つた。

『なぜだい。弟がおかしいのかい?』

『いゝや。さういはれゝばそれですむことだが……』

『すむもすまないもないぢやないか。弟は弟だよ。』

ぶつきら棒にいふ「筍」の言葉に、友達は笑ひながら口を「筍」の耳につけて云つた。

『まるで親子だよ。俺は「親子」兄弟といゝたいね。』

『フヽン、馬鹿にしてらあ。』

「筍」は大口開いて笑つた。その笑聲に弟はこつちを振り返つた。

『なるほどよく似てるよ。これからどちらへ?』

『一寸そこまで』

二人は別れた。

弟は「筍」の立話をまごろしがつて、今度せびつて貰ふのは靴にしやうか、グロブにしやうかと、三度許り考へなほした。そして結局グロブにして貰ふと獨りぎめした時「筍」は歩みよつた。

『お待ち遠う』といつもなら云つてくれるのだが、何にも云はないで、ニヤニヤ笑つて居た。

『「親子」兄弟か。なるほど!』

「筍」はも一度笑つた。

『なんです、兄さん。』

『いやね。今の男がね、お前と俺は一寸見ると親子の様だとさ。それで「親子」兄弟だといふんだがね。』

『「親子」兄弟、井とまちがへてらあ。』と弟は、別れた兄の友達の歩み去つた方を振り返つたが、もうそこには見えなかつた。

『俺がいふだらうと思ふ事を、弟も云つた。親の様な兄に似てはいけないよ。お前はお前の行く處を行け。ルバーシユカ

の貧乏鬚などを眞似してはいけないよ』

「筍」は、弟の眼を見つめたとき、こんな事を胸に浮べた。と、光つたものが「筍」の眼にきらめきかゝつた。あはてゝ「筍」は、明るい通の方へ歩みを進めた。弟はまた「筍」の後からついて行つた。こんどグローブをねだらうなと考へながら……

公一――「筍」の本名――公二兄弟は、丁度二十の年の差をもつて居た。

公一の二十一のとき、公二は生れた。

公一が生れてから、幾度か、公一にとつての弟や妹が生れる機會はあつたのだが、母體が思はしくなかつたためか、みんな、はつきりした命名も受けずに終つたのである。公二が母體に宿つたときも、公一の母は『これも駄目だな』と豫感した。そして、子を生かせやうといふ考へよりも、世間體が悪いと考へた方が大きかつた。これは公一さへも『それもさうだな』と、同情したいことがあつた。

四十の聲を聞いた母が、生活にやつれた母が、醜く腹をせり出して、兩頬も痩せ細らせながら、父の酒の世話をしながら、咽喉を通らぬ通らぬいゝながら、酸味の勝つたお菜をまづ相に喰べるのを見るのが嫌だつた。母とは云ひながら、なんだか少しあさましすぎる有樣を見せつけられる氣がしたのである。

しかし、氣づかはれたお産も無事にすんで、それこそ思ひ懸けない男の子が、生き生きとした泣聲を張りあげて、乳房を探すのを見たときに、父は老いてから生れた子供のために若返つた氣もちになつて、やたらに祝盃をあげたのは勿論、公一も、かね〴〵『俺に弟か妹があつたら、可愛がるがな』と、手を取り、袖をひきあつて睦しく歩いて居る兄弟姉妹を見る度に考へたことが、實現出來ることになつたのを、此の上なく喜んだ。

よく抱きもした。よく笑はせもした。

公二がチヨコチヨコ歩き出した時は、抱いて近所の、木立にかこまれた空地に連れて行つて『オーヂヤー』といつて指さす下水の流水を見せるのが、夕方の日課だつた。

公二は、水の流れがすきだつた。臺所の水が溝におちるのを見つけると動かないで、ヂッとしやがんで眺めた。

『こいつは船乘りになりたがるかも知れんぞ。水が好きだから』と、父はひとりぎめして、船の玩具や、船の繪などを買つて來ては見せて居た。公一は、父の氣持ちはよく解つたが自分と同じ性質の子にならない樣にと、そればかしを氣にして居た。幸に兄にはそれほど似ず、育つて來た。

公一は、弟を見る度に、自分の過去を振りかへることを強いられる氣になつたことが度々あつた。

振り返つても振り返つても、白い雪に閉された旅路の樣に湧き返つてくるものが少なかつた。過去を振りむいて、何になると考へることもあつたが、なつかしい想ひ出が、何とはなしに呼びかける氣がしてならなかつた。樂しくも、嬉しくもない過去。短いながらも過去は即ち過去だ。

公一が生れる前年、ほんたうの長男が生れた。が、それは

約百日許り、此の世の空氣を吸ふて、我を忘れておつかぶせて來る若い兩親の愛に溺れてしまつたのである。子の可愛がり方は人一倍だつたが、死兒の事を話すに役立つ材料は、今となつては少しの持ち合せもない位若かつた。

たゞ、急性肺炎でやられたこと。死ぬ日の晝、偶然にも古伊萬里の素的な一輪挿を手に入れて、公一の父はニコニコして歸宅した相だが、その夜、此の世の寶ものさへ思つた子供が死んだ悲しさの遣り場がなく、その一輪挿を、庭の飛石に叩きつけ、微塵にして終つたこと。これだけが死んだ子供に就いて、公一の兩親が持ち殘した記憶なのだ。

此の話を聞く度に、公一は

『それでは僕は、兄さんが死んだ勢で生れたんですね』

といつては兩親を笑はせた。

此の話を聞く度に、長男相當の名前をつけられた公一は、死んだ兄を羨みもした。かうして生きてゆくだけのことしか出來ないよりも、ほんたうに神の子、佛の子としか思はれない短い吐息を、此の世の廣い廣い大氣の一隅にはき殘して逝つた兄が幸福とさへ思つたことがあつた。小使の不自由をきたしたとき、今度は自分に振りかゝつて來る筈の女の言葉が他の人に行つて終つたとき、いや、女の一瞥が、公一の待ちこがれた瞳はおろか、頭の上を通り越して柱時計の長針短針に投げられ、果ては欠伸となつて、一杯涙のたまつたドロンコの眼が、まぶし相に公一の方に向けられるとき。こんな時には、きつと吸ひさしの煙草を、呑みさしのコーヒーの中にポトンと落して、

『兄貴はしやはせ者だ。』

と、ひとりごといふのであつた。自分の望みが達せられなかつた時、何時も兄を賴んだのである。

公一が生れたとき、父は飛び上つて喜んだ。そして祝盃を擧げた。その量が一升近くに及んで、熟柿臭い呼吸を產室にまき散らして寢て終つた。後年公一が一滴の酒も口に出來ないのは、此の時の親父の息にこり〳〵したのだと解釋して居る。

父は愉快此の上なしであつたが、母は產後の肥立が惡く、永い間寢て終つた。しかし、酒呑み亭主をもつた女であつたが、武士の子としての覺悟があつたゝめ、ヒステリーにもならず、體軀の苦痛を、子の寢顏に忘れて居た。

公一がチヨコチヨコ歩く頃になつて眼が離せない處から、呑氣者の中年の女中が、子守り役をした。

ブカ　ブカ　ドンドン　の賣出し廣告でもやつてくると、早速公一を背に乘せて飛び出す。そして、公一が『ウン　ウン』と、太鼓の方を指すと、女中も公一と同じ氣持になつて『よか、よか。どこまでもん行くばんた』

と、狹い町の事だからしれたものだが、太鼓行列が、振り出し店に歸りついて、旗を卷いて終ふのを見屆けて歸ることが度々あつた。それほど、愚かな献身味をもつて居た。

此の「献身味」が遂に大變なことをして終つた。

誕生近く迄割合に丈夫だつた公一が、丁度誕生の七月末頃突然ヒキツケを起して、呼吸をつまらせた。驚いて醫者に連れ込み、お定りの浣腸をやつて貰つた。そして排泄物を一目見て、公一の兩親はビックリした。出て來たものが、つぶし餡の小豆の皮だつたのである。大事の坊ちやんの御望みによ

つて、中年女中が與へたものであつたのだ。

それからといふもの、公一の體は驚く程衰弱し、度々ヒキツケを起す。キイキイ泣く。しまいには頭の鉢が段々大きくなつて、チヤリネの道化役に出る「福助」になりはしないかと案じた位であつて、とても此の子は滿足に育へまいと、流石氣丈夫の母も考へ込む。父は酒をやけにあほつた。しかし幸に曲りなりにも育つて來た。たゞ、世間の子と違つて、四の暮まで、重たい頭をフラフラさせて、いざり這ひをしつゝけて居た。

我儘一杯に育ちながら、五つで歩き出し、高價な玩具を、籠二杯もつて、親類の者達を羨やまし、室の一隅に敷布をひき廻しては、芝居の眞似をして、世間なみの子と同じく學校に行く樣になつた。

大きな頭は、どうしても子供の帽子があはなかつた。その頃にしては高い一圓餘りを出して、小學校の先生のかぶる帽子を買つて貰つた。漆器造りの、支那の天壇を想はせる型の辨當箱を下げて、石盤もつて學校にいつた。最初の書取の時間。それは讀本の第何課かをかきとつて出すのだつたが、肝腎の名前を忘れて、零點を貰つた。敎室中の笑者になつたが泣きもしなかつた。歸つて菓子が喰べたかつたのである。

しかし、いざ家に歸りついて、母の顏を見た時、涙がどつと流れ、泣き聲が獨りでにワッと出た。お蔭で、いつもより多い菓子にありつき、そんなことは何でもない、これから氣をつければいゝとさとされた。

天壇形の辨當箱の上階が、御菜入れで、下階が飯入れだつた。時々、どつちかゞ空の時があつた。その度に、公一は持ち前の大頭を利用する譯ではなかつたが、『頭が痛い』といつては早引した。そして歸つてから無暗に當り散らした。

今でも、金の勘定は出來るが、使ひ高が下手な樣に、算術は到底だめだつた。これは敢く迄も祟つた。代數も、幾何も sin, cos の三角は尚更のこと。夢の樣な氣しか、持つて居ない。「最近の自然科學」といふ本を讀んだ時、やたらに兀だの兀だのといふ活字が『 』印の上下にxYの何乘かを矢鱈に並べて、＝で引きつれて居るのには、見たゞけでウンザリして止めた。『難しいことは見ることも、考へないこともしない樣にしやう。行きあたりばつたりが一番だ』こんな量見である。

數理的智識が、大頭の皺の中に微かにしか喰ひ込んで居なかつたのに反對して、子供にしては着想の甘い作文をかくし習字は運筆がたしかだつたし、圖畫は確かに手本の形を捕へる事が出來たし、唱歌は四十五名の全級生と合唱しても飛び抜けて強い響を出す聲を、ドレミのはつきりした段階をたどつて抑揚をつける事が出來て最も得意だつた。

天地有情の「邪山悲秋の風ふけて」を歌ひ、柱にかゝつたズックのカバンを寫生し、遠足の記を書き、算盤の九々は滿足に覺えず、相撲では投げられ、ボールは三度振らし、か細い子は、元氣な遊びを指をくはへて傍觀しながらずん〳〵と級をすゝんだ。

『俺は物のあはれをずつと前から知つてた』と、公一は云ふが、それはこれらのことに味をつけて吹聽するのである。

昔の高等小學の二年の時、日露戰爭が初まつた。毎日々々驛に日の丸の旗を振りに行つた。ついでに、前列の者の頭をなぐるのが面白かつた。しかし、列車の窓から重なりあつた忠勇なる軍人が出す「萬歳」の聲はあまりいゝ心持ちになれなかつたことを覺えて居る。

學校から慰問袋を送つた。得意の筆を「運筆書報」の口繪を見て揮つた。それが同じ町出身者の手に入つた。盛んに文通した。休戰の號外が出た時などは、いち早く戰地へ知らした位であつた。

戰爭最中のことであつた。南國の春がいち早く、市外の野に菜種、れんげの黃紅とりゞの花を咲き亂した時、公一は附近の女學生連十名許りのお供をして、花摘みに行つた。その途中、エビ茶の一人が云つた文句を覺えて居る。今度の戰爭で男がなくなつて、僅かな人だけが歸つて來たら、戶別訪問で急しからうといつた。

『ほんに　のまい』

『そぎやんぢやろ』

『體がもつかしらん？』

『とても、もつもんか』

こんなことをいつて、黃色い聲は、みだらに響いた。公一はよくその意味がわかつた。が、知らぬ振りして、れんげをやけに引いた。馬鹿な女どもだといふ氣が胸一杯になつて、

『もう歸らう』

といつた。

『もう歸へる？　も少し遊ぼう』

と、止められたが、それから女共も、公一に解りはしなかつたかといふ疑念から、「露營の夢」の合唱で、馬鹿話を消して終つた。

今から考へるとたしかに不良性のあつた女共だ。すました顏して親になつて、子供の頰に、母らしさを込めた接吻をして居る事だらう。若し目の當りそれを見たら笑つていゝものか、厚面目な顏して眺めなければならないものか？

て戰爭がすんだ翌年中學に入つた。

下級生懲罰と鐵拳制裁。

敎員排斥とストライキ（毎年五月常例的に行ふ）

素足の雪中行軍、

兵隊なみの兵式體練、

ずべると謹愼處罰を受ける柔劍道、

おど〳〵して、それでも三年になつた。三年の秋、公一一家は、もう死ぬ事が解つて居る年若の叔母を病院にのこして、東京に行つた。これも皆、元氣そのものゝ樣に、諸事を片附けて行つた父の失策からである。

公一が中學に入學した年の春、兩親は上京した。父の地方政治的用務で。

その歸途、兩親は、母の異腹妹を連れて來た。

名は睦子。年は公一より二つ上だつた。

『私の名はね。天皇陛下（明治大帝）の御名と同じ字だもんだから、私はこんなに弱いんだつて。おそれ多い事をしたんですね』

齒切れのいゝ東京辯で叔母は云つた。公一は、姉を得た氣

になつて、哀れな叔母に親しんだ。

叔母は、母の一番末の妹にあたつて、叔母を生んだ、公一の母にとつては繼母も肺病で死んで、叔母は、母のすぐ下の妹の家に厄介になつて、學校に通つて居たが、遺傳的に體が弱く、肋膜におかされて居た。暖かい南國に行つたらいゝだらうと、姉達がすゝめるので叔母もその氣になつて、遙々やつて來たのである。

髮かざり禁止。傘は黑の木綿張。袴はエビ茶一點張り。雨の時は、はだしで通ふ生徒もある、都會人の眼には、此の世離れした學校に叔母は入つた。言葉が面白いと笑つた。野蠻だと笑つた。しかし、先生の親切なのは非常に喜んで居た。しばらくは健康を取り戻したかと思はれたが、僅に登校三ケ月で病再發した。

『此の家の二階に今朝上つたら、眞黑な蛇が、室の眞中を這つて居ました。すこし氣味が惡くなつて來ました。人々は何にもしない相ですが、蚊が多くても、公ちやんの家の方へ歸りたうございます。

早く鷄小屋を作つて下さい』

こんな手紙を叔母は轉地先の海岸からよこした。約六ケ月、海濱に暮して叔母は歸つて來た。

夕方だつた。約十坪の裏の畑をつぶして、鷄小屋を作り、輪紋プリモース、白色レグホン、銀色ボーランド等、約三十羽の鷄を飼つて、叔母を待つて居た公一は、丁度、鷄の餌を裏の川べりで作つて居た。フスマに靑いものを刻み込むのである。

『只今』これが自分の短命の印だと、常に氣にして居た短い上唇に、笑を見せて、頰の色の素晴らしくいゝ——病的ではあつたが——叔母は、息せきながら飛んで來た。

『お歸りなさい』

『あら』叔母は驚いて公一を見た。そして『まあ』といゝたい表情をした。僅の間に、公一のあの響ある聲が變つて、時作り初めの鷄聲と變りはなかつたのである。公一は、なんだか叔母にすまない氣がして、黙つて鷄小屋に入つて、餌をやつた。押しわけて餌にありつかうとする鷄群の爭奪戰。叔母も默つて見つめて居た。

叔母の十九の春の夕暮。矢張り川べりで餌を作つて居た時不意に多量に咯血した。

袂で口を押へて、あはたゞしく走つて來た叔母の淚一杯なまなざし。倒れ相になつたのを走りよつて支へた兩手に響いた、烈しい心臟の動き。そして次ぎの瞬間、袂を放なした口から、里に近い暗紅色の血塊をドロドロと吐き出され、それが草イチゴの葉にはねおちた。

公一は今でもはつきり思ひ起す。よく叔母は昏倒しなかつたなと感じて居る。

たしかな足取りで、床に入つた叔母も、その夜、何回となく小血塊を吐いて、せき入り、ねひらなかつた。そして翌日病院に送られた。

楠の五月。眞田の小花が一面に咲く。そして風もないのにサアーと靜かな音をたてゝ降つて來る。その音は、春の雨の音と少しも變らない。いつか叔母を見舞に來た從兄は、雨の音かと思つて、病室の窓からのぞいたら、春の陽光を浴びて

降りそゝぐ楠の花であつたと、詠んだ歌を叔母に送つたのを覺えて居る。惜しいことに歌詞は忘れて終つたが……

町の灯を親ふ樣に、弟を連れて五色の光彩にまばゆい大通に出た。

『賑やかだな。やつぱし俺達の住んで居るところは田舍だな』と、公一は肩をそびやかしながら云つた。

『えゝ。だけど僕はこんなとこより、天王寺公園の方が好きだな』

『そうかい。しかし今に好きになる』

『どうして?』

公一は默つた。鐵拳制裁も、楠の花も考へ出せなかつた。

戀に破れ、病にいぢめられ、職を失ふて流れて來た大阪。もう四年になる。しかしまだなじめない公一は、町の灯を求めては、コーヒーと、それを運ぶ女。そして、身のかざりのどこかに、だらしなさを持つた關西の女をこつぴどく嫌つた甘つたるい言葉もいやだつた。どしても今でも親しめない。

『俺を容るゝところは遂にないか』と、W大學中途退學の履歷書をもち通つて、何處にもいゝ具合に嫌はれた大阪を、一から十まで惡口ついた。

『俺の實力をほんたうに知つてられる奴は、此の大阪には居ないよ』と、久し振りに會つた友達に云へば

『そんなら東京に行けばいゝぢやないか?』と云はれ、二の句がつけないのであつた。

『東京は……』

『東京は? 東京は、ではなくて、東京でもぢやないか』

『馬鹿云へ』

終いはこんなことでゴマかすより仕方なかつた。東京とても、公一を容れる地ではないのである。

『コーヒーでも呑まうか?』

『ねゝ』

弟は、音なしく、公一について、靜かな喫茶店に入つた。香りのいゝコーヒーをすゝりながら、しげ〳〵と弟の顏を見入つた公一は『これも聲變りがして來たな』と今更らしく感心した。

『俺は叔母に驚かれたが、これも、やがて戀もしやう。もだえもしやう。今はかうして仲好いが、兄に打ちあけるかしら』

おいし相に、フォークを菓子につきこんでは、公二は喰べて居た。

不圖、公一は、公二の好きな下水を見に、それこそ、チヨコチヨコ歩きする時分連れて行つたとき、小便をしたがつたのを思ひ出した。

こは〳〵、下水の緣から、六尺下の水の上に小便をさせた可愛らしい放尿は、銀色に光りながら、混濁した流れに落ちた。公二は、首を下に向けて、自分の放尿の行衞を見たがつて、兄を手古ずらした。

『おとなしくしないとあぶないよ』

と、いゝながら、公一も下をのぞいた。

『なんといふ可愛らしさだらう』

神秘なものにぶつゝかつた氣になつて、二人共放尿の行衞

を眺めた。

これを思ひ出して、公一は弟に話した。

『ふーん。變な事が兄さん好きなのね』

『うん。こんなことが俺の氣に入るのだ。何もかもいやだ。面白くないもんだよ。大きくなるとね。今の中に樂しめるだけ樂しんでおけ』

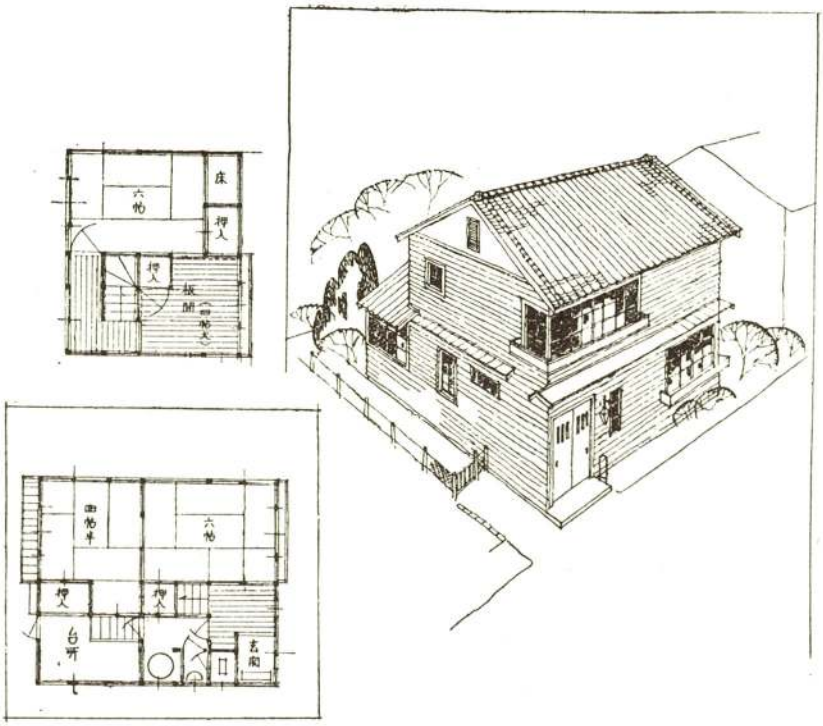
變なことを云ふ兄だと、公二は兄を見た。

公一は默つて便所にたつた。

『俺の美はしき放尿を思ひ出したのかな』

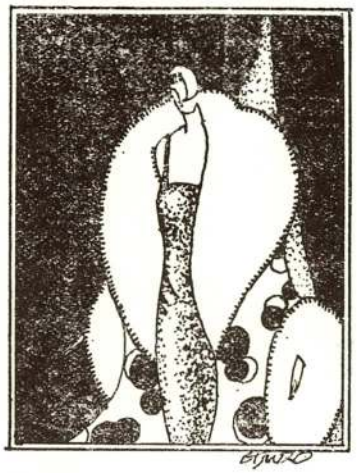
公二はも一つ柔かいプリンが喰べたいなと思つた。

起き出でて裸足に立
てる朝庭の
冷たき土に媚
ぶるこゝろか



階　　私　　宅　　住

（四）



俳壇

溪舟選

風鈴も動かず籠あつき日ぞ　とめを
暑き日や織場までくる草いきれ
つりにゆく草原道や草暑し　いと女
暑き日や岩砕く音湯町まで
馬車馬を頻り鞭つ暑さかな　月雨
暑き日や水打ては萎る庭の草
溜池のここまで匂ふ暑さ哉　清々果
踏切に荷馬車つかへる暑さ哉
雨つひにふらで端山の雲暑さ　斗巻
草刈の鎌の光りや目にあつし　朧月
日裏壁暑く唐臼ふみゐたり　波頭

雜詠

窓の竹に音つよく來し夕立哉　樂鳥
次々に山晴れてきぬ夕立去る
植木棚の植木の數や夕立晴れ　一灯
夕立晴れて高桐に蟬來鳴くなり
蘭書きて墨やゝ乾く扇哉　薫女
池の蓮に夕月淡く沈みけり　朧月
風にしきり鳴る塔鐸や池の蓮
蓮池を前にして社宅ならびけり　月雨
紫に明けそむる雲や蓮白し
岸の樹の影さす下の蓮かな　宋斤
蓮の中に人あり蓮は動きけり　也竹
雨の蓮を見つゝ酌みけり川料理　桃華

暑

やゝ暑し野をゆけばふと茨匂ふ　大然
荷埃の日に舞ふ見ゆる暑さかな
暑き日の午後陽ざしや紺のれん　浩波
崖堀るに土肌赤きあつさ哉
樹のかげに重きをおろす暑さ哉　桃華
風邪いえず暑にたへて着る冬布團
道普請の置石光るあつさ哉　美國
庭の草に蝶きてひそむ暑さ哉

蓮

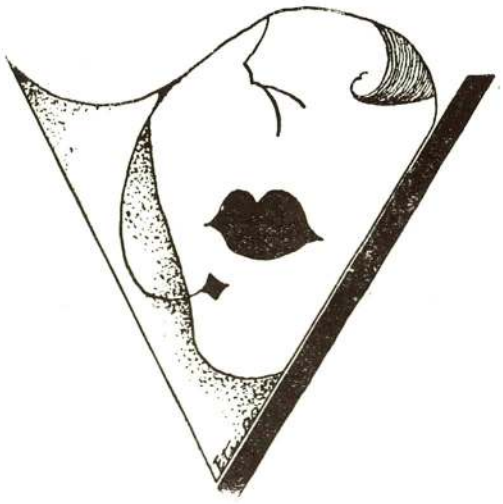
薄月や反橋わたる池の蓮　風兒
鮒つりや蚊にせめられて蓮の池
づぶ〳〵と泥に入るなり蓮を伐る
暮すでに灯れる社家や蓮白し　翻々子
吹落つる松風に蓮動きけり
蓮の中に蘆も交りて吹かれけり
唐風の亭子とりまく蓮哉　李陽
蓮沼と青田の中の小寺哉
盥舟菱とりゐるや蓮涅し　鳥三

句

蓮を出つ入りつ遊びぬ鴛鴦番ひ　とめを
古杭にくる鵠鴿や蓮靜か
蓮の闇に動きて白し雨の鷺
拭きあげて清き廊下や蓮かをる　任光
蓮の香の日毎親しき書窓かな

次號課題

◎『秋の雲』『踊』各五句まで、各題を別紙に認むる事
◎締切　九月十八日
◎屆先　北區堂ビル三階
日本建築協會



をどり

渓舟

◎次號の課題に『をどり』がある。いはゆる盆をどりのことである。

◎蕪村に

四五人に月おちかゝる踊かな

の句がある。如何にも侘しい山里の踊をおもはせる田舎の盆をどりは、なるべく澤山の人が出てきて、老も若きもまじりあつて踊るのが習はしであるが、それがわづかに四五人だとしてみると、その土地は極めて〇びた邊僻であるといふことがわかる。

◎さういふ土地ですら踊りはすたらない。この踊りといふものは、如何に都鄙の男女を熱狂せしめるものかゞこれで知られるであらう。

◎殊に盂蘭盆ごろの時候は、もう大てい稻の育ち工合も見きはめがつき、農物の作柄もきまつた時期であるから、いゝにしろ、不出來にしろ、百姓達は心をきめてしまふ事ができるから、この時に於て一村なり、一と里なりが擧つて年中行事の踊りでもやらうといふのには、最もいい折なのである。

◎近年は風俗上の取締りが嚴重になつて、この盆踊りが禁じられた土地もあり、さういふ處は年中唯一の樂みを奪はれたやうなもので、心淋しい事であらう。

◎もう一つ蕪村の句に、

葬のさそひあはせてをとりかな

といふのがある。誰とも互ひに知らぬ同士が、ふと出會つて『何うです踊らうぢやありませんか』『ちやあ御一しよにね』と云つてをどつた、それが恰ど離れ離れにフワフワ浮いてゐた葬(うきくさ)が、何かの風の吹廻しでピタリ一しよになつた樣な點に譬へたものである。蕪村などでなくては、思ひつかぬ心境である。

◎曉臺の句をみると、

ふりつけの飯くひこぼす踊かな

これは、踊の振りつけをして、稽古にかゝつてゐる塲合の光景を想はしたもので、如何にその稽古場がゴテゴテと混雜してゐるかを想像せしめる。振りつけをしてやる者などが飯をくひながら『さうぢやない、かうするんだ。その時には左の手を後ろに引いて、右の足を踏み出すんだ』などと指圖をしてゐる樣子がわかる。さういふ忙しいゴテゴテしてゐる時であるから、飯も滿足には頬張つてゐられない、どうがした時に喰ひこぼした、といふ光景なので、働きのある佳い句である。

◎それから

まくり手に踊崩して通りけり

といふのもある。これは、踊りなどを知らない村の亂暴者が、腕まくりなどをして、いゝ氣になつて人の踊りを崩して通つたといふのである。イ勢のいい句であるが、餘韻がない。曉臺の句は時に非常に勝れたものがあるやうであるけれども、蕪村のやうな詩的情緒に乏しいのは是非もない事である。曉臺は名古屋の俳人で、ヤハリ蕪村と同時代の人、天明中興の五俳人の一人と云はれてゐるものである。

◎天明中興五俳人といふのは蕪村、曉臺、それから闌更、白雄、蓼太であるが、このうち蓼太は、蕪村などと異つて、頗る卑俗な調を流布唱導した俳人で、實さいないふと、中興どころか、後の文化文政、天保あたりの俳風墮落の素因の種をまいた一人であると云ひたいくらゐである。

◎蓼太の句に

秋風に人まづなびく踊かな

がある。これは蕭條たる秋風には草も木もなびくものだが、その秋風に人がまづなびいて踊つてゐる、といふのである、この人『まづなびく』と云つて、草も木もなびくものであるといふ事を想像させるのは、これは餘情でも餘韻でもない、はやく云へば一種の謎である。謎である故に、そこに一種の卑しいコメグリとイヤミが出てくるのである。

◎それから、人が秋風になびく、といふのも一種のこじつけであつて、これもツマらぬ見方である。

◎白雄の句に、

をどる夜を月靜かなる海手哉

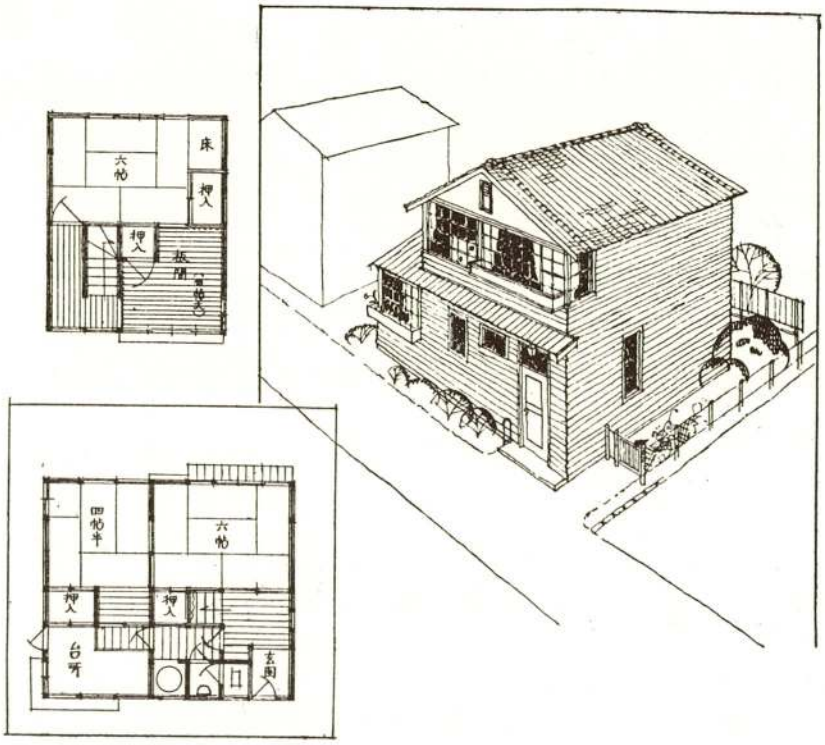
ある人のまきれて入し踊かな

といふのがある。前の句は一見佳いやうであるが、折角踊のやうな賑やかなものを、『月靜かなる』で沈んだ氣持にしたのは失敗である。『ある人』といふのは、此の塲合踊りなどに立入るやうな身分でない人、いい人柄とか身分とかの人、又は自分の思ひ人などがまぎれこんで踊つてゐるといふのである。

◎闌更の句に、

踊の輪もつれて解けて踊けり

これは白雄の『月靜か』に比べて優つてゐる。



案　私　宅　住

（五）

世相の動き



紹介

◉ス社の日本に於ける新發展

米國のスタンダード衛生器具製造會社の製品は其優秀なることに於て既に定評あり日本に於ても明治三十五年大阪に於ける第五回勸業博覽會にてその製品を紹介せられし以來當時下關山陽ホテル及び朝鮮京城ホテルにその製品を用ひ其後内地の需用も可成り手廣く行き亘り、高級衛生器具としての聲譽を博し來りしが今回斯界の老舗たる大阪市東區今橋四丁目須賀商會が日本總代理店として日本領土及北滿洲に於ける一手販賣と工事設計請負を引受け一段の活躍を爲すと

◉新刊「大阪の都市計畫」

日本に於ける都市計畫の問題は比較的近來の事に屬するよりして之に對する民間の理解も未だ頗る幼稚なる如くに斯業に對する研究圖書の出版も日本としては寔に寂寥たるの感を免れない斯のときに方りて『大阪の都市計畫』なる力著の上梓を見たるは空谷の跫音なる感を禁じ得ざると共に一般斯業に對する寔に好個の指導者たるを稱へざるを得ない著者田中清志氏は現に都市計畫大阪地方委員會に創設以來職を奉じて都市計畫の實際に當つてゐる人である、さればこそ斯著の結構が學理と實際に亘りて布置收錄其の當を得てゐるのは流石にと肯かれる序篇「都市計畫の眞諦」から始まつて主篇第一章「大阪都市計畫の沿革」第二章「大阪の都市計畫」第三章「大阪市域の擴張と其將來」第四章「大阪都市計畫の完成」餘篇第一「都市計畫の法制」第二「都市の建築法制」第三「都市計畫委員會」に大別し、更に之を數節に細說して、附するに改正關係法令十數編を收め殊に新聞紙四頁大の着色縮尺二萬分の一「大阪都市計畫一覽圖」を附したるが如き行文の暢達と相俟つて近來罕覩の好著たるを推奬せざるを得ない（一部定價貳圓八拾錢大阪市西區新町通三丁目日下和樂路屋發行）

◎農村住宅の改善

今回農林省に於ては徹底的に農村住宅改善の必要を感じ各府縣農會をして調査せしむると同時に調査に際しては相當の國庫補助をなす方針であると云ふ。而して現在の農村住宅を見るに衛生趣味經濟の三方面よりして居る不備なる狀態にあり之が改善は生活改善同盟會に於ても主張するが如く必要以上に緊急なる問題であるが從來は都會のみに生活改善が叫ばれ農村生活に對しては政府の施設は餘りにも貧弱なるのみならず一般の輿論も之に向けられなかつたのである、之は一面農村疲弊の極に達したる結果衣食住よりも先づ生産增加に努めたる事其原因の一ではあるが農民の生活が向上すると同時に之が生活改善は益々必要となつたのである。即ち非衛生的住宅を換氣、光線、溫熱の適當なる施設に依つて完備せしめ文化的ならざる農村住宅を趣味的ならしめ經濟的には起居のみならず農業に使用し得る設備を必要とするが養蠶室の如きは相當研究さるべき問題である。之等の關係上各府縣の農業經營の規模如何氣候農業狀態に依つて自ら構造、形態にも趣を異にするのであるが現在では愛媛、佐賀、岐阜、神奈川等に於て相當調査され佐賀縣等は懸賞募集に依つて理想的農村住宅を設計して居る。然るに政府の住宅資金は多く都會に向けられるが故に農村に於ける住宅改善は結局資金難に陷つて居るので農林省では産業組合を基礎とせる建築組合の發達に依つて之が改善を圖るの外はあるまいと云つて居る

◎全國都計の近況

內務省最近の調査に依れば各地の都市計畫は何れも比較的順調に進捗し既に事業に着手せる六大都市を除く他都市の中には既に調査も十分に進行し事業に着手する時機に達して居る都市も尠くない模樣である、即ち都市計畫法の適用を受ける都市は六大都市を合して四十七都市に達し全國都市の大半に及んで居るが是等の都市は六大都市を除く他は全部事業に着手して居ない、尙都市計畫法の適用を受ける四十七都市の中都市計畫區域の指令を受ける都市は十九都市で其他は未だ都市計畫區域の指令を受けてゐない、因に都市計畫の現況を示せば次の通りである

△都市計畫法適用都市　六大都市及び札幌市、小樽市、函館市、尼ヶ崎市、長崎市、新潟市、豐橋市、靜岡市、橫濱市岐阜市、仙臺市、小倉市、若松市、大牟田市、八幡市、熊本市、鹿兒島市、富山市、佐世保市、長岡市、津市、岡崎市、一宮市、清水市、大垣市、長野市、松本市、高岡市、和歌山市、高松市、丸龜市高知市、大分市等で此の內都市計畫區域の決定を見たるものは東京一市四十八ヶ町村、大阪一市五十三ヶ町村、京都一市三十六ヶ町村、橫濱一市十三ヶ町村、神戶一市九ヶ町村、名古屋一市二十ヶ町村、豐橋一市五ヶ町村、岐阜一市七ヶ町村、岡山一市六ヶ町村、廣島一市七ヶ町村、下ノ關一市二町三ヶ村、尼ヶ崎一市五ヶ村、堺一市一町三ヶ村、吳一市三ヶ村、仙臺一市二町二ヶ村二大字、福岡一市四町七ヶ村、大牟田一市二町三ヶ村、金澤一市六ヶ村

◎地震と全國二萬の小學校舍

文部省では近く全國の小學校々舍二萬餘校（兒童總數九千萬）に對して、地震に對する注意及校舍の耐震鋪裝に關する訓令を各地方長官宛發することになつたこれは從來の事實から見て地震や暴風のため小學校の建物のつぶれることが多く、從つて一ばん目立つて被害と危險が伴つたものがこの小學校舍であつたからだ、最近の經驗から見ても先年の關東の大震やこの間の豐岡久美濱地方の地震でもこの事實は明かに證明された

◎各省を集中建築

中央の官衙を一つ場所に集中して理想的に新築する事は多年の懸案であつたが、財源や敷地の關係などで今日まで其議が纏まらなかつた、併し震災前政府は櫻田門外の霞ヶ關附近を中心として、其統一を行ふ計畫を樹て、其財源も國有財產（主として土地）の拂下に依つて得た資金を以て充てる事となつて居たところが一昨秋の大震災があつた爲大藏、內務、遞信、文部、農商務の各省を始め、主なる官省の燒失せる爲、其計畫は一層進捗し大藏省部內で着々講究の結果總額約一億圓、竣工期間約十ヶ年の約定を以て各省その他主なる官衙を統一的に霞ヶ關を中心として新築する事となり本年度から新設された營繕官財局では、其一部を明年度豫算に計上する事になつたので、其具體案につきこれまで幾度か次官會議を開いてきたが、先日の定例會議に於て各省より提出したものを基礎として協議のすえ、決定したので、更にこれを定例閣議に上程したうへ、濱口藏相を會長として新に設けられる中央官衙調査委員會で今後細目の調査を行ふ事となつた

◎復建の資金融通法決る

豫て計畫中であつた復興建築會社は先般銀行集會所で創立委員の各實業家東京橫濱兩市當局が會合協議會を開いた結果會社と東京橫濱三者間に締結すべき契約書案を議題にして逐條審議の末三十五條に亘る各條を決定したのでこの契約書案は九月の市會に諮つて決定し後正式社長の任命があつて九月中には愈々株式の募集となり難產の聲盛んであつた此の會社も實現する事となつた右會社事業中最も市民に密接關係ある割賦販賣と資金貸付に就て東京市建築局長の佐野利器博士は次の如く解說して吳れた『事業の目的は勿論自力を以て耐震耐火の家屋を建て得ない者に割賦販賣又は資金貸付で便宜を計るといふにある夫れで前者の割賦販賣の方は土地所有者又は借地權者が家を建てゝ吳れよと申込めば會社は直に堅牢な耐震耐火的の建築をして貸し與へるのである資金貸付の方は矢張り申込に依つて建築費の七割までを貸して申込者自身に勝手に建てさせるのであるつまり一萬圓を費す建築物には七千圓までを貸與へるのである其處で利息の方は年九分といふ事になつてゐるがこれは決して安い利息ではない割賦販賣も資金貸付も共に返濟期限を二十年以內と決めてあるが態々二十年間とキッチリ區切つて返さなくとも金さへ出來れば建てた翌年に返しても構はぬ譯である

◎勞働者住宅建築決定

英國勞働者住宅建築組合は過般來の交渉が成立して某保險會社から九十五萬弗の資金融通を受ける事となつたが右の組合では之れを資金として勞働組合に加盟してゐる勞働者の爲めに、勞働者住宅を建築する豫定である、同建築は五層建てのアパートメント式のもので二百四十二の家族を築に收容する事が出來る、構造は鐵筋コンクリートを耐火煉瓦を以て包み娛樂設備其他一切の點に遺憾なき期せられてゐるが室料は一室一ヶ月僅か十四弗である、尙ほ此の住宅建築組合は多數勞働組合を背景としてゐる

澤一市六ヶ村

主要建築材料値段

◎耐火リノリウム　市内施工
大阪耐火リノリーウム會社
チョコレート色　四分仕上坪　八、三五〇円
褐　色同　同　八、三五〇
赤　色同　同　九、〇〇〇
青　色同　同　一三、〇〇〇
マグネシアセメント市内倉庫渡し　九五、〇〇〇
ドロマイトプラスター　同　八、〇〇〇
一號品　一タル四切半　七、〇〇〇
三號品　同　中工事
ストロブロック（模造天然石）市
寒水石大理石類　尺坪　八五
花崗石類　同　一、二〇〇
防水劑ポースイ　一、〇〇〇
三封度入　二、三五〇
五封度入　三、〇〇〇
四〇封度入

◎リノリユーム　英國チーアン製
奥村重兵衛商店
巾六呎　長九〇呎（十五坪巻）
X　一、九ミリ　一坪ニ付　七、八〇〇
E　二、二同　同　八、六五〇
B　三、〇同　同　一三、四〇〇

◎ウオールボード
英國セームス純製
一坪　四、二〇〇
寸法　巾三呎　巾四呎
長六呎　三呎巾　長八呎
長九呎

◎メタルラス（和製）
廿六番　巾二呎長六呎　一枚　〇、四八〇
廿四番　巾六呎長六呎　同　〇、五五〇
廿　番　巾三呎六六呎　同　三、〇〇〇
十八番　巾三呎長六呎　同　三、八〇〇
十三番　巾五呎長六呎　同　四、八〇〇

◎壁紙
英國製　巾一尺七寸　長三十六尺（張上約一坪五合）
一巻　一、〇〇〇以上各種
米國製　巾一尺五寸　長五十三尺（張上約二坪）
一巻　一、二〇〇以上各種
張手間　一坪　一圓四十錢以上

◎金屬天井
材料　蛇腹　逃板付　一坪　三、〇〇以上
同　逃板ナシ　同　一〇、〇〇同
張工賃　同　二、〇〇同

◎日の出印便利瓦
日本建築紙工　大阪出張所
半號　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　一四、五〇〇
一號　一巻　同　一七、五〇〇
二號　一巻　同　二一、五〇〇
三號　一巻　同　二五、五〇〇

◎鶴印便利瓦
半號　一巻　巾三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　三、五〇〇
一號　同　同　五五、五〇〇
二號　同　同　一八、五〇〇

三號　同　同　三三、五〇〇

◎日の出印砂付便利瓦
半號　一巻　三尺二寸　附屬品及　長七十二尺　ペイント添　一六、〇〇〇
一號　同　同　九、〇〇〇
二號　同　同　三、〇〇〇
三號　同　同　七、〇〇〇

◎日の出印建築用紙　ビルヂングペーパー
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、〇〇〇
二號　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　五、三〇〇

◎日の出印パーマネントルーフ井ング
一號　巾三尺　長三十六尺　三十六尺以テ一巻トス　坪平方尺二七、〇〇
◎日の出印衛生疊下用紙
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、〇〇
二號　同　同　四、〇〇〇

◎日の出印瀝靑（モスパーヒール）
一號　一枚　巾二尺八寸　長三尺二寸　一、二五〇
二號　一枚　同　一、三〇〇
三號　同　同　一、五五〇

◎日の出印アスフアルトフエルト
一號　一巻　巾三尺二寸　長七十二尺　三、二〇〇
二號　同　同　四、二〇〇
三號　同　同　五、五〇〇

◎スレート
淺野スレート販賣株式會社

長　巾
六尺　二尺二尺二
七尺　二尺二

◎大平板　一枚單價　一枚單價
厚　巾　長　荷造ナシ　荷造共
一分五厘　一尺　六尺　二、八〇　三、一五
同　同　同　二、二五　二、五〇
一分八厘　同　同　二、五〇　二、七五
二分　同　同　三、〇〇　三、三五
二分五厘　同　同　三、八〇　四、一五
三分　同　同　四、八〇　五、二五

◎同波形附屬品　ゴム座付
丸額釘　長三吋　〇、二五
同木捻子釘　同三吋　〇、三五

◎スレート角板
白又ハ黒　一六吋　一二吋　一、二五〇　一、三〇〇
大サ淡黒　一六吋　一〇吋　一、一五〇　一、二五〇
一二吋　一、二五〇　一、三五〇
八吋　一、五五　一、七五

◎石綿スレート
石綿スレート株式會社　大阪支店
淺野スレート販賣株式會社　金剛商會
野澤幸三郎商店

| | | |

◉同　上　十二吋角使用
二吋半　八、三五　八、九〇　九、〇五　九、七五　一二、二四

◎一文字葺（十六吋角二ッ切使用）

色合　葺足五寸五分葺足五寸
灰白、淡黒色　一〇、二〇　一一、七〇
灰黒色　一一、五八　一三、〇八
蓙色　一一、八三　一三、〇五
赤色　三、五七　三、九〇
緑色　一四、九五　一六、二五

◎石綿盤葺上標準値段

（一面坪單價）
野澤幸三郎商店

網目葺（菱形）ノエルト一號品敷込材料間貸共

色合　十六吋　八吋
寸法　角重二角重三　重二　重二
吋半二吋　吋　吋半　吋

灰白色　六、九〇　七、四〇　八、二〇　九、三〇　九、八〇
淡黒色　七、三〇　八、〇〇　九、三〇　一〇、〇〇　一〇、五〇
黒色　七、五〇　八、二〇　九、三〇　一〇、三〇　一〇、七〇
蓙色　七、七〇　八、四〇　九、三〇　一〇、三〇　一〇、七〇
赤色　八、一〇　八、八〇　一〇、〇〇　一〇、八〇　一一、二〇
緑色　九、二〇　一〇、三〇　一一、五〇　一二、五〇　一三、一〇

◎ロッコー瓦葺上標準値段

（阪神間ニテ）

平瓦各號共一尺一寸角葺足九寸
一坪約四十三枚葺、軒先及螻羽棟伏等道具瓦完備

灰白色、黒色、蓙色、赤色共フェルト敷込　一面坪ニツキ　八、五〇
棟製斗二段半圓形伏　一間　三、七〇
同　同　箱歴振伏　同　五、八〇
同　斗一段積　同　七、五〇
緑色ハ三割高

◎亞鉛引平鐵板

			圓
月星印30	(米一)	一、二	一品切
タヒ印30	(米一)	一、一一	一品切
犬印30	(米一)	一、一一	一品切
三星印30	(米一)	一、一一	一品切
太陽印30	(米一)	一、一一	一品切
エビ印30	(米二)	一、一一	一品切
船印30	(米二)	一、一九	一品切
月星錨印30	(米二)	一、二〇	一品切
山星印30	(米二)	一、二〇	一品切
五寸切レ	(米板)	〇、九四	一品切
蝶印30	(英一)	一、一四	一品切
ラクダ印30	(英一)	一、一九	一品切
地球印30	(英一)	一、一九	一品切
赤丸一印30	(英一)		
桃印30	(英二)		
首印30	(英二)		

◎同浪板

同　店

#30	六尺	〇、九八
#30	七尺	一、一六
#30	八尺	一、二九

各參錢上り

#30	六尺	一、三〇
#28	七尺	一、五〇
#26	八尺	一、七〇
#24	百斤ニ付	一、六〇
#22	一級品	一、九〇

◎鋼瓦板

巾一尺　長一尺二寸
井筒政藏商店（大阪）

#30	六尺	一、三〇
#28	七尺	一、五〇
#26	八尺	一、七〇
#24	各尺百斤ニ付	一、六〇
#22	一級品	一、九〇

#30	六尺	一、三〇
#30	七尺	一、五〇
#30	八尺	一、七〇

各參錢上り

#24262828	六七八尺	一、三〇
#2426282828	各尺百斤ニ付	一、七〇

名稱	單價	自拾二代至八代
一枚目付薄増値	和百斤ニ付	一二〇匁
建値		八〇匁

◎パイプ

金剛商會大阪支店

内經	厚	長	價格
二吋	四分ノ一吋	六呎同	一、二〇
二時半	同	同	一、四〇
三吋	同	同	二、〇〇
三吋半	同	同	二、五〇
四吋	八分ノ三吋	同	三、五〇
五吋	同	同	四、五〇
六吋	二分ノ一吋	同	七、〇〇

◎金剛板

巾三尺　長六尺　一枚ニ付

厚サ	重量	圓
二分	五貫二五	三、六〇
三分	七貫五〇	五、二五
四分	一〇貫五〇	七、三五
五分	一二貫七五	九、七五
六分	一五貫〇〇	一二、二五

◎塗料

日本ペイント製造株式會社
大阪營業所

ジンクペイントA印		一二瓩半	九、九〇〇
白鉛ペイント	同	同	一〇、一五〇
光明丹	同	同	七、六〇〇
ボイル油	同	一六瓩	一二、三〇〇
コーパルワニス		一哦	六、五〇〇
ゴールドサイス		同	六、五〇
建築用特種塗料			
調合ペイント	白色上塗	六〇磅	一二、〇〇〇
同	上白色下塗	同	一〇、〇〇〇
同	上各色	同時々引合	
光澤塗料（プライド）		一〇磅	四、六〇〇
水性、壁塗料（メロニア）		四〇磅	七、二〇〇
亞鉛松用トタンペイント		三〇瓩	一六、五〇〇
緩房塗料		一立	三、五〇〇

七代	七〇匁	二、〇〇	壹、〇〇
六代	六〇匁	一、八〇	七、〇〇
五代	五〇匁	八、〇〇	八一、〇〇
四代	四〇匁	一六、〇〇	九、〇〇
三代	三〇匁	三、〇〇	一〇五、〇〇
二代	二〇匁	六、〇〇	一三七、〇〇

スパーワニス（耐水性）　一哦　六、五〇〇
金屬磨（コウミヨー）　大罐　三、五〇
コンクリートペイント　三〇瓩　三、〇〇〇
パテ　七〇磅　四、九五〇

大東塗料株式會社
大阪營業所

品名	容量	定價
グラフアイト	五〇ポンド入	二四、〇〇〇
ペイント各色		
セクロン		
乙種黒色	五〇ポンド入	七、〇〇〇
特製黒色	同	一、〇〇〇
ネヅミ色	同	三、〇〇〇
銅及赤色	同	三、〇〇〇
木管用黒色	同	五、〇〇〇
不二水性ペイント	五〇ポンド入	二、〇〇〇
各色共		

大阪及東京渡値段
田中源太郎商店

性質	品名	種類	單價
水性、壁、塗料	アラバスチン白	容器五封度入	三、〇〇
同	同	同	各色三、五〇
シミ止	アラバスチンコーター	小瓶入	一、二
パテ材料	アラバスチンパテ	小袋入	一、六
型紙	アラバスチンステンシル		四〇ヨリ一、五〇迄

性質	品名	種類	單價
艶消ペンキ	赤三角又ハ紅葉印サテン艶消ペンキ	容器一ガロン入	各色一五、〇〇
同	同	同八分ノ一ガロン入	同二四〇
ジンクペイント用ホワイト		ワンダー外部用	代白

同	一ガロン入	一〇、八〇
	紅葉印コーパルバニシ	
同	一ガロン入	六、五〇
	ワンダーホワイト	艶消白
同	一ガロン入	一〇、八〇
同	同	同
	二分ノ一ガロン入	五、七五
	エナメル代用	ワンダーホワイト エナメル白
同	一ガロン入	一一、二〇
同	同	同
	二分ノ一ガロン入	五、八五
	自動車塗料	ガートフィニシュ 各色
	八分ノ一ガロン入	三、三〇
	コンクリート塗料	コンクレライト 各色
	五ガロン入	四九、八〇
	性質	品名 種類
	汽車屋根塗料	ルーカスルーフセメント 黒色
	容器	單價
	一ガロン入	四、七五
同	同	同
	シエツドウオータープロダクト會社製品	
	性質	品名 種類
	リノリユームホワイトリノリ防水塗料	ユームバニシュ
	容器	單價
	四分ノ一ガロン入	三、八五

◎防水劑

日本セメント防水劑製造所

ウオータイト	一〇ポンド入	五、五〇〇
同	七〇ポンド入	三五、〇〇〇
クヰツクウオタイト	一〇ポンド入	六、〇〇〇
同	六〇ポンド入	三〇、〇〇〇

	油脂化工社	
	一〇ポンド入	五、一〇〇
	四〇ポンド入	一八、〇〇〇
	一〇〇ポンド入	三九、〇〇〇
	五〇ポンド入	一七、五〇〇
	一ガロン入	四、一〇〇
	四ガロン入	一六、〇〇〇
	マノール	
同	急結マノール	
同	エキストラ	
	エキストラ	

◎木材其他

田村商會（神戸）

	平板	一坪ニ付 九、〇〇以上
	蛇腹	長サ六尺物 一、二〇〇以上
	鉦飾	同 一、六〇以上
	中眞飾	同 三、五〇以上

◎建築用壁紙

	パプコボード	一尺平方 一、三〇
	アイボリボード	同 一、五〇

◎メタルサイデング

	平	一坪ニ付 八、五〇〇
	角	

◎メタルラス（引伸金網）

	船來品#26	一坪 二、八五〇
	船來品#24	一坪 三、二〇〇
	和製品#26	同 一、五〇〇
同	#24	同 一、六〇〇

◎米松角材（木場渡し）

	大角材	一八吋角上 長 二四呎以上 一、〇〇以上
	中角材	一二吋角上 長 二四呎以上 九、五〇以上
	小角	取合 四吋角 四吋四分ノ一長 一〇呎 八、五〇
	角材	取合 四吋四分ノ三長 一三呎 九、〇〇
		二〇呎 九、五〇
	平材No.8	厚六吋巾一二吋上長二〇呎 一四、五〇

◎米檜角材

	大角材	一〇吋角上 長二四呎上
	小角	取合 四吋角 一〇呎 八、五〇以上
	角材	取合 四吋四分ノ一角 長一三呎 九、〇〇以上
		四吋四分ノ三角 二〇呎 九、五〇以上

◎米杉（尺ノ一本ニ付）

	丸太	一等級 末口一八吋上長一三呎 一五、五〇〇

◎米檜（尺ノ一本ニ付）

	丸太	二〇クリヤ級末口二四吋上 長一三呎 二七、〇〇〇以上
同		末口一八吋上 長一二呎上
	米松床板	（神戸同店渡し一延呎ニ付）
	巾六吋マーチヤンタブル級	〇、四五五以上
	巾六吋板目無節	〇、六八以上
	巾六吋柾目無節	〇、七八以上
	上巾四吋板目無節	〇、四五五以上
	巾四吋柾目無節	〇、五〇以上
同	二等級	同 一三、〇〇〇
同	三等級	同 七、五〇〇

◎檜、榧、赤樫、白樫、櫻、栓、

（建築家具用）

新田ベニヤ製造所

三枚合、片面、巾二尺以上ハ厚サ一分五ノ（十六分三）

巾二尺一寸以上ハ厚サ二分（四分一）

何れも一平方尺ニ付キ

	寸法	定價（一枚ニ付）
	巾	長 青二ツ星 青一ツ星
	一尺一寸五分	六尺四寸 一、六四 一、八九
	一尺二寸	六 尺 一、六八 一、九二
	一尺三寸五分	六尺四寸 二、〇三 二、三三
	一尺五寸	六 尺 二、二五 二、七〇
	一尺六寸五分	六尺四寸 二、五四 二、九一
	二 尺	六 尺 二、六八 三、〇四
	二 尺	五 尺 二、九〇 三、三四
	二 尺	六 尺 三、四八 四、〇〇
	二尺五寸	五 尺 三、八〇 四、三七
	二尺五寸	六 尺 四、五六 五、二四
	三 尺	五、六四 六、八三
	四 尺	八 尺 三、八五 —
	三 尺	九 尺 四、三〇 —
	三 尺	十 尺 七、〇〇 —
	巾	長 青二ツ星 青一ツ星
	一尺五	六尺四寸 一、六四 一、八九
同		同 一、七五 二、〇〇
	二尺	六 尺 二、〇〇 二、二五
	二尺	六 尺 二、二五 二、四〇
	二尺	八 尺 二、六〇 二、九〇
	二尺	九 尺 二、九〇 三、二〇
	二尺	十 尺 三、二〇 三、六〇
	二尺五寸	六 尺 三、五〇 三、九〇
	二尺五寸	八 尺 四、〇〇 四、五〇
	二尺五寸	九 尺 四、五〇 五、〇〇
	三 尺	六 尺 四、八〇 五、三〇
	三 尺	八 尺 五、四〇 六、〇〇
	三 尺	九 尺 六、〇〇 六、六〇
	三 尺	十 尺 六、六〇 七、三〇
	巾	長 青二ツ星 青一ツ星
	一尺五	六尺四寸 一、七五 一、九四
同		同 二、〇〇 二、二〇
	二尺	六 尺 二、二〇 二、四四
	二尺	八 尺 二、八六 三、一四
	二尺	九 尺 三、二四 三、五四
	二尺	十 尺 三、五四 三、九四
	二尺五寸	六 尺 三、八五 四、二四
	二尺五寸	八 尺 四、四〇 四、八四
	二尺五寸	九 尺 四、九五 五、四〇
	三 尺	六 尺 五、二八 五、七六
	三 尺	八 尺 六、〇四 六、六〇
	三 尺	九 尺 六、六〇 七、二六
	三 尺	十 尺 七、二六 七、九二

◎二等品（家具用）

厚一分五ノ（十六分ノ三）又ハ二分（四分ノ一）

三枚合 片面

		代價（一平方尺）
	巾	長
	二尺	六尺 表三枚又四枚別混合 一、三〇
同		同 一、五〇

◎天井用（一坪ニ付）（京間）

	巾	長	青二ツ星 青一ツ星
	一尺五	六尺四寸	九、八四〇 一一、三〇
同		同	一〇、五〇 一二、〇七〇
	二尺	六 尺	一〇、九二〇 一二、五二〇
	二尺	八 尺	一四、四〇 一六、五〇
	二尺	九 尺	一六、二〇 一八、五六〇
	二尺	十 尺	一八、〇〇 二〇、七〇〇
	二尺五寸	六 尺	一二、二五 一四、〇〇
	二尺五寸	八 尺	一六、二〇 一八、六六〇
	二尺五寸	九 尺	一八、二五 二〇、九二五
	二尺五寸	十 尺	二〇、二五 二三、二五〇
	三 尺	六 尺	一四、七〇 一六、八〇
	三 尺	八 尺	一九、六〇 二二、四〇
	三 尺	九 尺	二二、〇五 二五、二〇
	三 尺	十 尺	二四、五〇 二八、〇〇
同			六尺四寸 二二、〇五〇 二五、二〇〇

◎**同上**（江戸間用）

寸法　定價（一坪ニ付）

巾長　青一ッ星　青二ッ星

一尺六尺　九、六〇〇　八、四〇〇

一尺二寸六尺　九、六〇〇　八、四〇〇

一尺五寸六尺　一〇、八〇〇　九、四〇〇

二尺六尺　一三、〇〇〇　一〇、四〇〇

三尺六尺　一六、八〇〇　一三、六〇〇

◎**格天井用**　中二尺以下一分五厘　中二尺一寸以上二分

三枚片面厚

檜　欅　樺　櫻しな　栓　黄檗

寸法　樹種　代價

二尺角　青二ッ星　一〇、四〇〇

同　青一ッ星　一三、〇〇〇

二尺五角　青二ッ星　一七、四〇〇

同　同　青一ッ星　一三、一〇

三尺角　青二ッ星　青一ッ星　一三、八〇〇

四尺五寸角　青二ッ星　青一ッ星　二一、八〇〇

四尺角　一五、二四〇　一二、六九〇

◎**腰羽目用**　中二尺以下一分五厘　中二尺一寸以上二分

三枚合片面厚

楓　樺　櫻　なし　栓

巾　長　青二ッ星　青一ッ星

一尺三寸五分　三尺二寸　一〇一〇　一、一二〇

一尺六寸五分　三尺二寸　一、三七〇　一、五八〇

二尺　三尺　一、七四〇　二、〇〇〇

二尺五寸　三尺　二、一七〇　二、五一〇

◎**楓、欅、玉杢**

三枚合、（中二尺以下一分五厘　片面、厚（中二尺一寸以上二分

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長　赤四ッ星　赤三ッ星　赤二ッ星　赤一ッ星

一尺三尺　一、九六〇　二、三五〇　三、一八〇　四、七七〇

一尺四尺　二、六一〇　三、一四〇　四、二四〇　六、三七〇

一尺五尺　三、二七〇　三、九三〇　五、三〇〇　七、九六〇

二尺六尺　九、七四〇　一一、七二〇　一五、九五〇　二三、九二〇

二尺五寸　三尺六尺　一〇、三五〇　一二、五二〇　一七、〇二〇　二五、五三〇

二尺五寸　四尺八寸　一三、七八〇　一六、五四〇　二二、四二〇　三三、六三〇

二尺五寸　五尺一〇寸　一七、二五〇　二〇、七八〇　二八、〇二〇　四二、〇三〇

二尺五寸　六尺二寸　二一、一二〇　二五、三四〇　三四、二六〇　五一、三九〇

三尺　四尺二寸　一四、〇四〇　一六、八四〇　二二、七二〇　三四、一〇〇

三尺　五尺三寸　一七、三五〇　二〇、九二〇　二八、二四〇　四二、三六〇

三尺　六尺二寸　二〇、七一〇　二五、〇五〇　三四、〇二〇　五一、〇三〇

◎**檜、榧、欅**（京間用）

五枚合、片面、青一ッ星

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長　三分厚　四分厚　三分厚

二尺五寸　六尺四寸　八、九四〇　一〇、〇六〇　一一、一八〇

五尺二寸　六尺四寸　一三、八四〇　一五、五二〇　一七、三〇〇

三尺二寸　九尺六寸　四四、一二〇　四九、七七〇　五五、三〇〇

◎**同上**（江戸間用）

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長　三分厚　四分厚　五分厚

二尺　六尺　六、三〇〇　七、〇〇〇　八、六〇〇

二尺五寸　六尺　八、三五〇　九、二五〇　一〇、四八〇

三尺　六尺　一〇、九三〇　一二、一九〇　一三、六六〇

三尺　七尺五寸　一八、四〇〇　一三、五〇〇　一五、八〇〇

三尺　九尺　一八、八八〇　二一、〇二〇　二三、六二〇

◎**檜柾目ベニヤ板**（兩面物及ピ厚物ハ別）　中二尺以下一分五厘　中二尺一寸以上二分

三枚合、片面、厚

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長

一尺　三尺　一、九六〇　二、三五〇　三、一八〇　四、七七〇

二尺　三尺　三、九二〇　四、七〇〇　六、三七〇　九、五五〇

二尺五寸　六尺　八、三五〇　一〇、〇六〇　一一、一八〇　一七、三〇〇

三尺　六尺　一〇、九三〇　一三、一九〇　一七、四八〇　二七、一〇〇

三尺　七尺五寸　一三、九二〇　一六、七〇〇　二一、八六〇　三三、九二〇

三尺　九尺　一七、四八〇　二〇、九二〇　二七、一四〇　四二、三六〇

◎**新田式ベニヤ製圖板**　◇

寸法　定價（一枚ニ付）

巾　長　棕竹　松

一尺六尺　三、一三〇　三、六八〇

二尺五寸六尺　四、三五〇　五、〇五〇　七、〇五〇

三尺六尺　五、五六〇　七、九二〇　一〇、四四〇

◎**丸鐵**　山本東作商店

徑　長サ

二分　十二尺　五、〇〇〇

十八尺　五、五〇〇

二十尺　六、〇五〇

三分　十二尺　四、九〇〇

十八尺　五、四〇〇

二分五厘　十二尺　四、四〇〇

十八尺　四、八〇〇

三分五厘　十二尺　四、三〇〇

四分　十二尺　四、三〇〇

十五尺　四、三〇〇

十六尺　四、三〇〇

十八尺　四、三〇〇

二十尺　四、三〇〇

五分　十二尺　四、三〇〇

十五尺　四、三〇〇

十六尺　四、三〇〇

十八尺　四、三〇〇

二十尺　四、三〇〇

厚　巾　長　法　定價（一枚ニ付）

七分　二尺　三尺　九圓

七分　二尺五寸　三尺五寸　十一圓

七分　三尺　四尺　十三圓

寸　巾　長　法　定價（一枚ニ付）

六分　二尺　十二尺　四、三五〇

十五尺　四、三五〇

十六尺　四、三五〇

十八尺　四、三五〇

二十尺　四、三五〇

二十尺以上五十尺位迄　四、三五〇

七分　十二尺　四、三五〇

十五尺　四、三五〇

十六尺　四、三五〇

十八尺　四、三五〇

二十尺　四、三五〇

二十尺以上五十尺位迄　四、三五〇

八分　十二尺　四、三五〇

十五尺　四、三五〇

十六尺　四、三五〇

十八尺　四、三五〇

二十尺　四、三五〇

二十尺以上五十尺位迄　四、三五〇

九分　十二尺　四、三五〇

十五尺　四、三五〇

十六尺　四、三五〇

十八尺　四、三五〇

二十尺　四、三五〇

二十尺以上五十尺位迄　四、三五〇

一寸　十二尺　四、三五〇

十五尺　四、三五〇

十六尺　四、三五〇

十八尺　四、三五〇

二十尺　四、三五〇

二十尺以上五十尺位迄　四、三五〇

一寸二分　十二尺　四、三五〇

十五尺　四、三五〇

十六尺　四、三五〇

十八尺　四、三五〇

二十尺　四、三五〇

二十尺以上五十尺位迄　四、三五〇

◎L アングル

厚サ	巾	高	目付ポンド	
一分	同	二十尺位	九五	四、八〇
八分	同	同	七三	四、八〇
一寸	同	同	五一	四、八〇
一寸二分	同	同	四、六	四、八〇
一分五厘厚				
		二十尺位	一、七	四、九〇
一寸	同	同	一、〇	四、九〇
一寸二分	同	同	一、二	四、七〇
一寸四分	同	同	一、四	四、九〇
一寸六分	同	同	一、六	四、八〇
		三十尺位	一、八	四、九〇
二分	厚	同	二、〇	四、九〇
二寸	同	同	二、二	四、九〇
二分五厘厚				
		三十尺位	二、五	四、七〇
二寸	同	同	二、七	四、七〇
二寸六分	同	同	二、九	四、七〇
		四十尺位	三、一	四、七〇
三寸	同	同	三、三	四、七〇
三寸六分	同	同	三、五	四、七〇
		五十尺位	三、七	四、七〇
四寸	同	同	四、〇	四、七〇
四寸六分	同	同	四、二	四、七〇
		六十尺位	四、四	四、七〇
五寸	同	同	四、六	四、七〇
五寸六分	同	同	四、八	四、七〇
		七十尺位	五、〇	四、七〇
六寸	同	同	五、二	四、七〇
六寸六分	同	同	五、四	四、七〇
		八十尺位	五、六	四、七〇
七寸	同	同	五、八	四、七〇
七寸六分	同	同	六、〇	四、七〇
		九十尺位	六、二	四、七〇
八寸	同	同	六、四	四、七〇
八寸六分	同	同	六、六	四、七〇
		百尺位	六、八	四、七〇
九寸	同	同	七、〇	四、七〇
九寸六分	同	同	七、二	四、七〇
		百十尺位	七、四	四、七〇
十寸	同	同	七、六	四、七〇
十寸六分	同	同	七、八	四、七〇
		百二十尺位	八、〇	四、七〇

◎I チヨイスト

厚サ	巾	高	目付ポンド	
分厘	同	同	四、五	四、四〇
参	分	厚		
二	寸	三十尺位	四、五	四、四〇
三	寸	同	五、〇	四、四〇
三	寸	半 同	五、五	四、四〇
四	寸	同	六、〇	四、四〇
		四十尺位	六、五	四、四〇
四	寸	半 同	七、〇	四、四〇
五	寸	同	七、五	四、四〇
		五十尺位	八、〇	四、四〇
五	寸	半 同	八、五	四、四〇
六	寸	同	九、〇	四、四〇
		六十尺位	九、五	四、四〇
六	寸	半 同	一〇、〇	四、四〇
七	寸	同	一〇、五	四、四〇
		七十尺位	一一、〇	四、四〇
七	寸	半 同	一一、五	四、四〇
八	寸	同	一二、〇	四、四〇
		八十尺位	一二、五	四、四〇
八	寸	半 同	一三、〇	四、四〇
九	寸	同	一三、五	四、四〇
		九十尺位	一四、〇	四、四〇
九	寸	半 同	一四、五	四、四〇
十	寸	同	一五、〇	四、四〇
		百尺位	一五、五	四、四〇
十	寸	半 同	一六、〇	四、四〇
十一	寸	同	一六、五	四、四〇
		百十尺位	一七、〇	四、四〇
十一	寸	半 同	一七、五	四、四〇
十二	寸	同	一八、〇	四、四〇
		百二十尺位	一八、五	四、四〇
十二	寸	半 同	一九、〇	四、四〇
十三	寸	同	一九、五	四、四〇
		百三十尺位	二〇、〇	四、四〇

◎ コチヤンネル

厚サ	巾	高	目付ポンド	
分厘	同	同	五、一	四、五〇
一	寸	1″/2	五、一	四、五〇
一	寸	3″/2	六、八	四、五〇
二	寸	2″/2	八、〇	四、五〇
二	寸	3″/2	一一、〇	四、五〇
三	寸	2″/2	一一、五	四、五〇
三	寸	3″/2	一三、〇	四、五〇
四	寸	2″/2	一四、〇	四、五〇
四	寸	3″/2	一五、〇	四、五〇
五	寸	2″/2	一六、〇	四、五〇
五	寸	3″/2	一七、五	四、五〇
六	寸	2″/2	一八、〇	四、五〇
六	寸	3″/2	一九、五	四、五〇
七	寸	2″/2	二一、〇	四、五〇
七	寸	3″/2	二二、五	四、五〇
八	寸	2″/2	二四、〇	四、五〇
八	寸	3″/2	二五、五	四、五〇
九	寸	2″/2	二七、〇	四、五〇
九	寸	3″/2	二八、五	四、五〇
十	寸	2″/2	三〇、〇	四、五〇
十	寸	3″/2	三一、五	四、五〇
十一	寸	2″/2	三三、〇	四、五〇
十一	寸	3″/2	三四、五	四、五〇
十二	寸	2″/2	三六、〇	四、五〇
十二	寸	3″/2	三七、五	四、五〇

◎ 丁形

厚サ	巾	高	目付ポンド	
分厘	同	同	三、五	四、五〇
一	寸	同	三、五	四、五〇
一	寸	半 同	三、七	四、五〇
二	寸	同	四、〇	四、五〇
二	寸	半 同	四、五	四、五〇
三	寸	同	五、〇	四、五〇
三	寸	半 同	五、五	四、五〇
四	寸	同	六、〇	四、五〇
四	寸	半 同	六、五	四、五〇
五	寸	同	七、〇	四、五〇
五	寸	半 同	七、五	四、五〇
六	寸	同	八、〇	四、五〇
六	寸	半 同	八、五	四、五〇
七	寸	同	九、〇	四、五〇
七	寸	半 同	九、五	四、五〇
八	寸	同	一〇、〇	四、五〇
八	寸	半 同	一〇、五	四、五〇
九	寸	同	一一、〇	四、五〇
九	寸	半 同	一一、五	四、五〇
十	寸	同	一二、〇	四、五〇
十	寸	半 同	一二、五	四、五〇
十一	寸	同	一三、〇	四、五〇
十一	寸	半 同	一三、五	四、五〇
十二	寸	同	一四、〇	四、五〇
十二	寸	半 同	一四、五	四、五〇
十三	寸	同	一五、〇	四、五〇
十三	寸	半 同	一五、五	四、五〇
十四	寸	同	一六、〇	四、五〇
十四	寸	半 同	一六、五	四、五〇
十五	寸	同	一七、〇	四、五〇
十五	寸	半 同	一七、五	四、五〇
十六	寸	同	一八、〇	四、五〇
十六	寸	半 同	一八、五	四、五〇
十七	寸	同	一九、〇	四、五〇
十七	寸	半 同	一九、五	四、五〇
十八	寸	同	二〇、〇	四、五〇

◎合掌用切鐵板

厚サ	巾	高	目付ポンド	
一	分	二吋	五、一〇	四、五〇
同	同	二吋半	五、一〇	四、五〇
同	同	三吋	五、一〇	四、五〇
同	三分	三吋	五、一〇	四、五〇
同	同	四吋	五、一〇	四、五〇
厚サ一分			五、〇〇	四、五〇
同	二分		五、〇〇	四、五〇
同	三分		五、〇〇	四、五〇
同	四分		五、〇〇	四、五〇

◎丸鐵

径	長サ	目付ポンド	
一寸二分	十八尺位	四、一〇	四、五〇
一寸四分	同	四、一五	四、五〇
一寸六分	同	四、一五	四、五〇
一寸八分	同	四、一五	四、五〇
二寸	同	四、一五	四、五〇
二寸二分	同	四、一五	四、五〇
三吋	同	四、一五	四、五〇
三吋二分	同	四、一五	四、五〇
三吋半六分	同	四、一五	四、五〇
四吋	同	四、一五	四、五〇
四吋半	同	四、一五	四、五〇
五吋	同	四、一五	四、五〇
五吋半	同	四、一五	四、五〇
六吋	同	四、一五	四、五〇
六吋半	同	四、一五	四、五〇
七吋	同	四、一五	四、五〇
七吋半	同	四、一五	四、五〇
八吋	同	四、一五	四、五〇

◎角鐵

一分五厘	十二尺位		五、一〇	四、六〇
二分	同		五、〇〇	四、七〇
二分五厘	同		四、九〇	四、六〇
三分	同		五、〇〇	四、七〇
四分	同		五、一〇	四、七〇
五分	同	十五尺以上	四、一〇	四、五〇
六分	同		四、一五	四、五〇
七分	同	十八尺位	四、一五	四、五〇
八分	同		四、一五	四、五〇
九分	同		四、一五	四、五〇
一寸	同		四、一五	四、五〇
一寸二分	同		四、一五	四、五〇
一寸四分	同		四、一五	四、五〇
一寸六分	同		四、一五	四、五〇
二寸	同		四、一五	四、五〇
三吋	同		四、一五	四、五〇
三吋半	同		四、一五	四、五〇
四吋	同		四、一五	四、五〇
五吋	同		四、一五	四、五〇

◎平鐵

一分	厚	十二尺位	五、一〇	四、六〇
三分	同		四、一五	四、五〇
四分	同		四、一五	四、五〇
五分	同		四、一五	四、五〇
六分	同		四、一五	四、五〇
七分	同		四、一五	四、五〇
八分	同		四、一五	四、五〇
一寸	同		四、一五	四、五〇
一寸二分	同	十五尺以上	四、一五	四、五〇
一寸四分	同		四、一五	四、五〇
一寸八分	同	十八尺位	四、一五	四、五〇
二寸	同		四、一五	四、五〇
三吋	同		四、一五	四、五〇
四吋	同		四、一五	四、五〇
五分	厚		四、一五	四、五〇
三分	同	十二尺位	四、一五	四、五〇
四分	同		四、一五	四、五〇
五分	同		四、一五	四、五〇
六分	同		四、一五	四、五〇
七分	同		四、一五	四、五〇

本誌定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	七拾五錢	貳錢
	十二册	九圓	貳拾四錢

大正十四年八月三十日印刷
大正十四年九月一日發行　（毎月壹回一日發行）

發行兼編輯人　大阪市東淀川區中津町一九八番地　江村恒一
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷所　大阪活版所
發行所　大阪市北區堂島濱通一丁目一番地堂島ビルヂング　日本建築協會
電話北四二九一番　振替口座大阪三九九七五

特約販賣店　大阪市西區京町堀羽子板橋北　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）　振替口座二〇八四番

日本建築協會々報

第八輯
第九號

日本建築協會々則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス會員タラムト希望スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

第五條　本會ハ其ノ目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附金額又ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ決議ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其ノ諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會内ニ於ケル其ノ言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任セサルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其ノ他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其ノ旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルヽ者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其ノ權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

第十條　脫會其ノ他ノ事由ニ依リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其ノ債務ヲ免カルヽコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名
二　副會頭　一名
三　理事長　一名
四　理事　十名（理事長タル理事ヲ含ム）

會頭ハ會務ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其ノ職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但シ會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但シ引續キ重任スルコトヲ得ス

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　二名
二　主計　二名
三　編輯　五名
四　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トス

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トスルコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員ノ職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催スコトヲ得

理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其ノ他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究
二　調査研究報告ノ發表
三　建築ニ關スル重量事項ノ議決
四　決議事項ノ實行促進
五　會誌ノ發刊
六　建築ニ關スル圖畫ノ刊行
七　建築ニ關スル講演會ノ開催
八　建築ニ關スル展覽會ノ公開
九　建築ニ關スル視察
十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會
十一　理想的建築ノ計畫

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス但シ例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ納付スヘシ特別賛助員ハ特別賛助費年額金拾弐圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金六圓ヲ本會ニ前納スヘシ但シ大期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其ノ計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債權債務及毎年ノ收支ハ理事會其ノ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



『惜い事をした。……何にしても偉い男であつた』。『彼れの生命は事業そのものであつた』——斯うした囁きは、故須賀豐次郎氏を知る程の者の誰もから聽く哀惜の言葉であつた。筆者も亦痛く同棲の感を禁じ得ない。今此處に氏の略歷を掲げて、深く哀悼の意を表するに方り、多くを語るの要はない。氏の經歷そのものが、最も雄辯に、その事を裏書きしてゐる。——『君は明治九年六月三日大阪市西區江戸堀上通一丁目に產れ明治卅二年當市水道布設に當り工手を拜命し其間精勵恪勤能く其職責を盡したるを以て特別賞を受くる事其數を知らす爲めに課長より愛せられ同僚より畏敬せらる。

明治三十四年斯界の前途に嘱目し現營業を創立し盡力開業す蓋し我國に於ける水道衛生工事の鼻祖なり爾來廿五年の久しきに渉り奮闘努力の結果現時の如く東京、名古屋京都、神戸、福岡、京城、大連に支店を有し斯界の最高權威者たるを得たり。

大正八年米國及加奈陀を視察し翌九年歸朝す此視察により彼地製造會社と有利なる條件を以て多くのエゼントを獲得し且つ工事の施設に就いては多年の經驗上遺憾なく研究を遂げし點より見るも如何に君が事業に忠實なりしかを知るべし

而して一度び歸朝するや疾風迅雷猶國エツチダフルユーチヤルノムス米國エーエールーカスの兩技師を招聘し同時に高級技術者を多數採用して飽迄積極商策を取る蓋し斯業に於て外人技師を招聘したるは君を以て嚆矢とす

是れが爲め一般世人をして衛生工事の必要なるを知悉せしめたるの効蹟は永く沒すべからざるものにして上は宮內省の御用達を勤め諸官署、銀行、會社等に於ても好評を博するに至る

君は自己の營業以外に於て何等の趣味を解せず年中東奔西走して席暖まるの遑なし須賀商會の今日あるは全く君が精力の結晶と稱すべし

君は又店員を遇するに凡て情誼を以てし創業以來店員は勿論假令見習職工に至る迄自ら之を解雇せしものなし現に同店にては十年以上勤續せるもの其多きを見るも如何に溫情の人たりしかを知るべし

君は平素頗る頑健なりしも本年一月末より肩潰瘍に罹り一時小康を得しも三月に至り再發し二月當地赤十字病院に入院せしも八月退院專ら自宅に於て療養に盡せしも八月十八日に至り遂に起たず

嗣子は現に慶應義塾大學に勉學中なるを以て令弟藤五郎氏其事業を繼承す藤五郎氏は現に副會主として故人と共に多年の經驗を有すると共に永年勤務せる多數の店員を擁し加ふるに根柢深き信用を有するが故に今後の須賀商會は益々通展すべきものならん

會　告

會員、賛助員所在不明者の件

會員、賛助員の現住所並勤務先不明者はお知合の諸氏より御報知に接し漸次判明致して來ましたが尚左記會員、賛助員は不明の爲整理上差支へて居ります就ては止むを得ず例會に附議して除名致さねばならぬかと存じますから御承知のお方は何卒本協會事務所へ御通報下さる樣願ひます

大正十四年九月

日本建築協會

會員　高堂德治

地方會員　安田繁

普通賛助員

伊藤武夫　戸山音二郎　太田四郎　若林俊一
吉本新之助　政安熊市　權藤洗二　小枝實
江藤猛夫　渡邊三郎　地福勇吉　田代正熊
矢田部喜平　野々山政金　青木立三　小林久之助
清原佐市　坂根秋光　田中儀一　桑田誠一郎
八木幸助　板垣要　平田茂樹　池永恒男
好岡享　杉本久吉　大下守造　山口辰治
肥塚房春　松原喜太郎　湊饒　林德一

會報

一、文官任用令改正に關し建議の件

工政會理事長より今回文官任用令改正に關し警政團、林政會、農政會、工政會の四團體聯合協議の結果左の通政府に建議したる趣通牒がありました

建議

建治の要諦は人心を倦怠せしめず、各人をして其の志を伸べ其の所に安んぜしむるに在り

方今官界の風潮を觀るに或は之に反く事甚しきなきやを慨る即ち此時に當り官場の空氣を更新して行政の能率を增進せむが爲めには行政の整理と共に文官任用令及之に伴へる文官試驗令を改正し殊に之れが運用を公正圓滑ならしむるに非すんば、途に官場の人心を馳緩せしむるに至るべく、斯の如きは斷じて大正の宏謨を翼贊するの途に非ざるや明かなり

現行官制及文官任用に關する法令は其の官職名頗る煩瑣を極め官等及俸給亦區々に亘るのみならず人才登庸の範圍極めて局限せられ適材をして騁足を伸べしむるの途梗塞せり、然るに一面に於て高等試驗合格者は直に廣汎なる範圍に任用せられ、要路に就くが常となし殊に官學出身者偏重の情弊甚しく、各部門に於ける學識經驗を有し且行政の材能に富める有爲の士と雖も右の系統に屬する者に非ざれは兎角其の部門の範圍内に於てすら尚正當に待遇せられず、偏頗不公平の因襲久しきに亘るは公知の事實に屬せり

蓋し明治時代に於ては諸般法律制度の制定に急にして特に法制上の知識を要すること多大なりしと、獵官運動を阻止するに急なりしため、文官高等試驗の如きを主として法律、行政等一部の學科のみに重きを置き、而も其の合格者は何れの官廳にも汎く採用せられ且轉々官職を移して毫も管掌事務に通曉せると否とを問はざるの風あり、然りと雖法律制度略々具はり行政組織益々複雜となれる今日に於ては最早斯の如き因襲の持續を許さず其の局に當るべき官吏は當該業務に關する學識經驗ある者を任用して其の技能を充分に發揮せしむるを必要且當然とするに至れり

此秋に當り、政府亦現行文官任用令の弊害を認め、之が改正案の審議中に屬するを開く、宜しく愼重なる調査に基き特に左記各項に對し深く考慮せられ倏理徹底せる改正を斷行せられんことを望む然り而して從來の例に依れば明文の存するに拘らず其の實際の運用に於て遺憾の點少なからず、翼くは今回の行政調査を機とし法令の改正と同時に更に其の運用を最も公正にし以て適材適所の實績を擧げられんことを、茲に四會を代表し及建議候也

記

一、行政事務に關與する官吏は事務官技術官の區別を徹廢すること

理由　產業、衛生、土木、鐵道、遞信等科學の知識を主とする行政事務を掌る官吏を多く事務官、技術官の二系統に區分する官制及任用令は獨り我邦にのみ行はれ他に其の類例を見ざる所なり、斯の如きは本來不可分なる行政上の責任及權限を强て區分するものにして爲に責任及權限の所在を不明にし行政の成績を擧ぐること能はざるの弊あらしむ、依て此際兩者の區別を徹廢し各種行政事務に對し相當せる官名に統一するを要す

二、行政事務に關與する文官の任用は原則として試驗制度に依り、其の試驗は第一次に學科試驗第二次に實務試驗を課すること

理由　現行の技術官に對する詮衡任用の制度を改め行政事務に關與する文官は原則として各種專門的分科に依り文官試驗を施行するを可なりと試む、試驗は之を二回に分ち第一次は各專門の學力を考試して其の合格者を試補とし、相當期間實務に服せしめたる後、更に第二次に各部門の實務に關する技能を試驗し其の合格者を本官に任用するを要す

三、文官試驗委員は廣く各部門は各方面の學識經驗ある者を以て組織すること

理由　現任文官試驗委員は極めて狹き範圍より選任せられ官學に偏する弊あるを以て試驗制度の改正に伴ひ其の選任の範圍を擴張して各部門に付廣く各方面より適任者を選擇任命するを要す

四、廣く各部門の學識經驗ある者を以て組織する文官詮衡委員制度を設け有爲の人才を詮衡に依り任用すること

理由　文官の任用は試驗に依るを原則とするも文官試驗委員制度より獨立して新に權威ある文官詮衡委員制度を設け廣く適材を適所に拔擢登庸するの趣旨を以て公衙民間に於ける經歷を尊重考慮して有意の人材を相當なる地位に任用し得るの途を拓くを要す

五、特殊の學術技能を有する行政事務の主腦者には其職務に關する學識經驗ある者を任用すること

理由　現今行政事務の能率擧らざるは其の事務が益々專門的となれるに拘らず其の事務に通曉せざる者を以て主能者とするに因る、故に各種行政部門の主掌業務を本位として其の主腦者を任用するを要す

六、官職名及官等を統一し俸給令を改正

すること
理由　現行の官職名、官等及俸給に關する法令は頗る煩瑣に失し且榮達昇進の必要上濫りに官職をぜしむる弊を生じ易きを以て官職名を統一すると共に官等上の階級を全廢し俸給は專ら經驗と技能とに依りて之を給與し適材を適所に配して事務に精勵練達せしめ以て行政事務の能率を增進せしむるを要す

大正十四年七月十七日

警政團
林政會
農政會
社團法人工政會

内閣總理大臣子爵　加藤高明殿

一、贊助員逝去の件

終身贊助員須賀豐治郎氏は八月十八日逝去の趣通知に接しました洵に痛悼の至りであります本協會は弔狀を呈し哀悼の意を表し且二十日葬儀の際理事和田眞治郎氏本會を代表して會葬し會頭の弔詞を靈前に供へました（葬儀時間の都合により期讀せず）

會合

○建築士法案調査委員會

△日　時　七月二十八日午後五時三十分——八時三十分
△會　場　清交社
△出席者　委員長　古宇田實
委員　横濱勉、高木眞太郎、津田敏雄、村野藤吾、野呂長四郎、山脇友三郎、瀨戸文吾、
△記事
一、古宇田委員長より過般滯京中七月十四日日本建築士會の會合に列席し建築士法案に付て其後の經過及意向等を質問したる大體の報告ありて後同會の作成したる法案に關し種々意見の交換をなす
一、次回の委員會より日本建築士會の作成したる法案を基礎として研究することに決定
一、八月中は暑中に付休會のことに決す

○定例理事會

△日　時　八月八日午後五時——九時
△會　場　清交社
△出席者　宗副會頭、和田理事、伊藤理事、古塚理事、光安理事、松本儀理事
△報　告　七月分會計報告
松本理事長病氣の爲缺席に付決議の上光安理事理事長代理となり座長席に着き議事に入る
△議　事
一、法人組織委員會報告の定款及細則に付再審議の件
定款及細則に付前回理事會に於て審議したる內保留となしたる個所に關し凝議決定をなし全部の審査を終り尙一應法律家の鑑定を願ふことに決し理事長に一任することゝなる
二、構造計算調査委員會より要求の會告に關する件
右會告文案を光安理事朗讀をなし協議の上二三ヶ所修正を加へ可決
三、其他左の諸件に付協議せり
1、工政會外三團體建議の通牒の文官任用令改正に關する件
2、鐵筋混凝土工講習會講義錄出版に關する件
四、會員詮衡

○新入會贊助員

普通贊助員の部

岸　銀三郎君　東京市淺草區南松山町一六
森藤福次郎君　東京市日本橋區本石町四ノ一大阪橋本組東京支店
有馬　繁一君　横濱市根岸町字柏葉三五七四
竹內　一郎君　神戸市戸崎通二ノ一〇ノ二三安田方
山崎　儀一君　京都市下鴨泉川町四山崎方

○退會會員及贊助員

會員の部

金子　巴君
地方會員の部
植村　利一君
普通贊助員の部
小林喜多次郎君

○逝去贊助員

終身贊助員　須賀豐治郎君　大正十四年八月十八日逝去

○住所及勤務先移動

會員の部

片岡　勇夫君　京都府久世郡淀町字新町三四六ノ二
竹平清四郎君　横濱市西戸部町西前一〇〇七
杜　眞雄君　兵庫縣武庫郡今津町字南六石一〇九〇
小野　武雄君　横濱稅關構內營繕管財局（出張所）横濱市中村町稅關官舍一號
渡部　憲君　大阪市住吉區遠里小野町四〇九
渡　實幸君　兵庫縣武庫郡良元村字小林
地方會員の部
友田　嘉君　東京府荏原郡蒲田町新宿四七五
魚住　儀一君　東京府北多摩郡上中野町二八五八

渡邊　家三君　大阪府中河内郡小坂町字下小坂七〇三

淺井　新一君　臺北市龍口町四ノ一五

三井　道太君　東京府荏原郡大森町字中井一五四三

佐々木岩太郎君　東京市京橋區木挽町一ノ一一佐々木建築事務所

松本末太郎君　横濱市青木臺町一七五四

川崎　鐵三君　東京市牛込區筑土八幡町一一

春名　麟五君　大阪府豐能郡豐中村字新免三五

保田虎太郎君　大連市楓町五七

普通賛助員の部

久保　豊君　大阪市住吉區湯ノ里町二三六

正岡市之亟君　大阪市港區出崎町三丁目西公舍一號

藤元　助一君　東京府荏原郡平塚村戸越一二二六

駒井　啓助君　京都市上京區上切通河原町西入

高橋　君三君　大阪市西淀川區浦江町三八七ノ二

北森　竹松君　東京府豐多摩郡野方町上沼袋西通り一六一

高橋　義隆君　德島縣勝浦郡小松島町三條通

藤井　潔君　東京市麹町區丸ノ内仲通

野村方

松井　英一君　大阪市港區鶴町四ノ一七二

捨山　一男君　廣島縣加茂郡西條町

玉川　芳夫君　米澤市立町通り米澤郵便局新築工事場大林組米澤出張所

稻原　幾太君　山口縣豐浦郡檀崎村稻原方

寄贈圖書

工業ノ大日本　七號　工業ノ日本社

電氣評論　八月號　同社

都市人事報　第八光部　人社

會　第二七號　名古屋工業會

學士會月報四八號　學士會

建築世界　七號　建築世界社

工業之友　第九號　工手學校同窓會

セメント界彙報　第二〇號　日本ポートランドセメント同業會

建築畫報　八月號　同會

住宅　八月號　住宅改良會

工政　八月號　工政會

土木建築　八月號　土木建築社

建築新潮　八月號　洪洋社

大阪工業倶樂部　七月號　大阪工業倶樂部

滿洲建築協會雜誌　七月號　同會

帝國鐵道協會報　三六號　同會

工業タイムス　七月號　同社

滿洲技術協會誌　八號　同會

電氣學會雜誌　八號　同會

鐵道軌道經營資料　八月號　鐵道同志會

庭園　七月號　庭園協會

國際建築時論　第八號　國際建築協會

建築の普及　七月號　帝國工業教育社

東京工業會雜誌八　號　同會

工業評論　七號　同社

朝鮮と建築　七號　同會

建築雜誌　七月號　建築學會

通俗衛生　八月號　大阪府衛生會

工事畫報　四月號　同社

大阪實業　十三號　大阪實業協會

建築工材　第三號　日本貿業興信所建築工材社

趣味ノ園藝　七月號　關西園藝會

商工政策　八月號　商工政策社

木材彙報　第五號　大阪木材協會

都市問題　第四號　東京市政調査會

經濟資料　第八號　東亞經濟調査局

役員及職員

會頭　片岡安

副會頭　宗　兵藏

理事長理事　松本　禹象

主記理事　園部　文雄

同理事　和田貞治郎

主計理事　吉井　長七

同理事　澁谷　五郎

編輯理事　伊藤　正文

同理事　田中　綱

同理事　古塚　正治

同理事　光安梶之助

同理事　松本　儀八

編輯係　江村　郊邨

　　高田夏治郎

庶務係　西谷　節

　　鷹取　陽

會計係　大和　榮衛

　　山口　スエ

會員	三九二	會員（地方）	一六一
名譽賛助員	七二	終身賛助員	五四
特別賛助員	二八	普通賛助員	五二〇
合計（八月二十日現在）		一二一七	

●第八集　第九号　掲載広告一覧（掲載順）

井上幸三商店
飾磨化学工業
大野正営業所
日本エレベーター製造
特許エレベーター製造
日本ペイント製造
浅野スレート販売
小原鉄工商事
宇部セメント製造
政正
カール・ツアイス
石綿スレート大阪支店
大阪ビトロライト工事
南満鉱業
浅野物産
山本東作商店
木下商店
丸三セメント工業所
田村商会
玲光社
メタルラス社
HANKEN SEISAKUSYO

東亜鉄工所
大平工業所
油脂化工社
日本ホロタイル
日米工務所
KENSEISHOKAI
日本建築紙工大阪出張所
高木鉄工所
原田商会
日本セメント防水剤製造所
野沢幸三郎商店
日本洋瓦大阪出張所
金剛商会
大阪陶業
開運スレート商会
中村グラニット商会
桐田商会
山中商会
阿部鉄工所
長田商店
日本工剤
品川白煉瓦

森川組
田中昌司商店
内外土木建築材料
三井物産
城口研究所
出浦建築事務所
新海建築工務所
大阪建築相談所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
横浜建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所
野村、橋本建築事務所
安井武雄建築事務所
柳下建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所

真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店
鴻池組
有山組

駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
大阪耐火リノリウム工業
須賀商会
栄進社
松尾鉄骨橋梁
新田ベニヤ製造所
大阪青写真調製所
山本窯業商店
常盤貿易商会
高島屋呉服店
ベニス工房
浅海商店
星製薬
日本耐火スレート
日米板硝子
日本木材工芸
熊谷組

河村青写真調製所
デゥエット商会
田中源太郎商店
建築金物商会